令和元年度
宮城県検証改善委員会報告書

子供の学びにつながる授業づくりを進めよう!

宮　城　県　教　育　委　員　会

は　じ　め　に

平成３１年度全国学力・学習状況調査が，平成３１年４月１８日，小学校では国語と算数の２教科，中学校では国語，数学そして今回初めて実施となった英語の３教科で行われました。

この調査の目的は，義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析の上，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て，さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することにあります。

宮城県教育委員会では，この調査の結果を踏まえて，今年度も宮城県検証改善委員会を設置し，本県の児童生徒の学力向上に向けての分析と対応策等をとりまとめるために，協議・検討を重ねて来ました。

本県の学力向上の取組は，これまでの努力によって改善の傾向がうかがえるものの，まだまだ十分な成果が得られているとはいえない状況にあります。

今年度の報告書は，テーマを「子供の学びにつながる授業づくりを進めよう！」とし，学校における授業改善・学力向上のサイクルの確立，小中連携の一層の推進，協働による授業づくりの充実という３つの取組を，出来るだけ具体的に学校で活用が図られるよう提案しています。学校が一つのチームになって，学力向上に取り組むための参考書としての活用が望まれます。新しい学習指導要領が求める「育成を目指す資質・能力」について，各学校が理解を深め，児童生徒の実態に即した教育実践に取り組み，先生方の授業力の向上，児童生徒の「確かな学力」が育まれることを期待します。

令和２年１月

宮城県教育委員会
教育長　　伊東　昭代

第１章　児童生徒の学力向上に向けて

１　宮城県検証改善委員会からの提言

提言　「子供の学びにつながる授業づくりを進めよう！」 …… １

２　各教科の指導改善のための手立て

「今日から始める授業改善　～指示・発問の工夫・改善～」 …… ９

【小・中学校　国語】 …… １０

文章や話の構成や表現の工夫について考えさせる
指示や発問の質を高めよう。

見聞きしたことや調べたことを話す学習（スピーチ等） …… １２
相手に質問し，必要な情報を聞き出す学習（インタビュー等） …… １３
説明したり報告したりする文章を書く学習（レポート等） …… １４
自分の考えを伝える文章を書く活動（ポスター等） …… １５
表現の工夫について考える学習（資料を含む説明的な文章） …… １６
文章の構成や表現に着目して読む学習（文学的な文章） …… １７

【小・中学校　算数・数学】 …… １８

説明すべき内容やそれを説明する意図を指導者が明確に持ち，
指示や発問等を構成して，数学的に説明する力を向上させよう。

性質や定義，数量関係または傾向や特徴を説明させる場面 …… ２０
図形の問題の意味を理解し，課題解決の見通しを持つ場面 …… ２１
問題を解決する際，自分（他者）の方法を説明する場面 …… ２２
問題解決の方法や手順を説明する場面 …… ２３
考えたことや判断したことを説明する場面 …… ２４
事柄が一般的に成り立つ理由を説明する場面 …… ２５
説明や記述が正答の条件を満たしていないと判断される場面 …… ２６

【中学校　英語】 …… ２８

実際の言語の活用場面で，指示や発問により
言語材料に着目させよう。

日常的な話題について，情報を正確に聞き取る学習 …… ３０
簡単な文で書かれたものの内容を，正確に読み取る学習 …… ３１
聞いて把握した内容について，やり取りする学習 …… ３２
場面や状況から文の形式や動詞の形を適切に判断し，正確に書く学習 …… ３３

第２章　全国学力・学習状況調査結果

Ⅰ　全国学力・学習状況調査の概要 …… ３７
Ⅱ　各教科の調査の結果 …… ４０
　１　小学校国語 …… ４０
　２　小学校算数 …… ４２
　３　中学校国語 …… ４４
　４　中学校数学 …… ４６
　５　中学校英語 …… ４８
Ⅲ　児童生徒質問紙調査結果の概要（抜粋） …… ５０
Ⅳ　学校質問紙調査結果の概要（抜粋） …… ５１
Ⅴ　「学力向上に向けた５つの提言」に関わる
　　児童生徒質問紙調査結果と正答率のクロス集計の結果 …… ５４
Ⅵ　児童生徒質問紙調査，学校質問紙調査　集計結果 …… ５９
　１　児童生徒質問紙調査　集計結果 …… ５９
　２　学校質問紙調査　集計結果 …… ６２

資料　「『学力向上に関する緊急会議』からの提言」 …… ６６
資料　「学力向上に向けた５つの提言　－理解　継続　自校化－」 …… ６７
資料　「算数・数学　ステップ・アップ５　事例集」 …… ７５
教員の授業力向上，児童生徒の学力向上に結び付く
　　参考文献等へのアクセス方法 …… ７６
宮城県検証改善委員会について …… ７７

第１章
児童生徒の学力向上に向けて
１　宮城県検証改善委員会からの提言

子供の学びにつながる
授業づくりを進めよう！

提 言

子供の学びにつながる授業づくりを進めよう！

各学校における授業改善・学力向上の「PDCA」サイクルの確立　～実態把握「R」が大切！～

子供の学びにつながる授業づくりを進めていくにはどうしたらよいのでしょう…？「ＰＤＣＡ」サイクルが大事なのは知っているけれど，具体的にはどう進めればいいの？

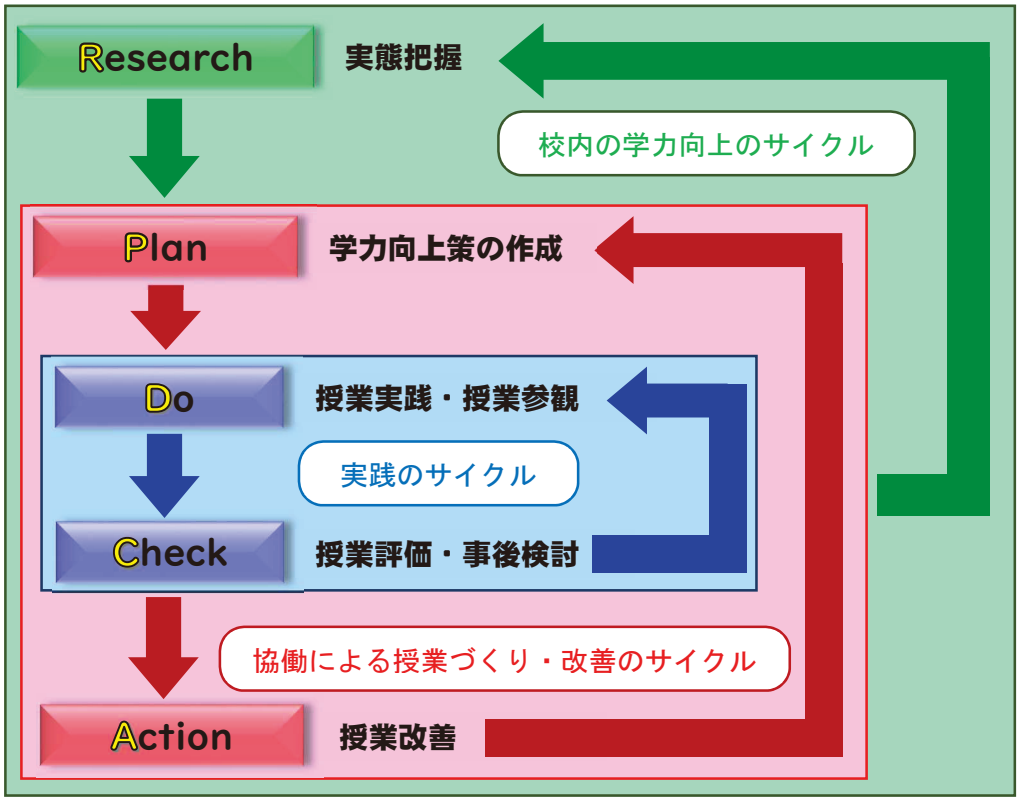
各校では，教育課程運用の「ＰＤＣＡ」サイクルによる取組が進んでいます。しかし，全国学力・学習状況調査や各種の学力調査の結果を分析し，授業改善へ反映させることについては，全国と比較するとまだ低い状況です。

全国学力・学習状況調査問題は，新しい学習指導要領が求める「育成を目指す資質・能力」を踏まえて作成されています。調査問題や調査結果をしっかりと分析することで，授業改善の方向性が見えてきます。

全国学力・学習状況調査　学校質問紙調査（肯定的な回答の割合）より　　（　）内は全国値との差

質　問　事　項		Ｈ３１	Ｈ３０	Ｈ２９
児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立していますか。	小 中	99.2（＋3.8） 97.0（＋3.6）	98.1（＋3.3） 90.8（－2.7）	94.6（＋3.1） 92.9（＋5.1）
全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し，具体的な教育指導の改善や指導計画への反映を行っていますか。	小 中	91.7（－3.6） 85.9（－7.8）	89.4（－5.0） 81.6（－10.2）	92.6（－0.9） 90.0（－0.1）

授業改善・学力向上の「PDCA」サイクルの例



学力向上に向けた「ＰＤＣＡ」サイクルの実効性を高めるためには，個人レベルでの実践，学年部・教科部会などでの協働による取組が重要です。次のページでそれぞれの段階におけるポイントを説明します。

授業改善・学力向上の「PDCA」サイクルを確立する上でのポイント

Research　実態把握

●全国学力・学習状況調査や各種の学力調査の内容，結果等を詳しく分析することで，児童生徒の課題が明らかになります。

◆全教員が調査問題を解き，育成を目指す資質・能力を確認しましょう。

◆正答率，無解答率などの数値を基に，客観的に児童生徒の実態を把握しましょう。

◆どのような誤答が多いのかを解答類型などから分析することで，児童生徒がどこでつまずいているのかを確認し，その原因を明確にしましょう。

Plan　学力向上策の作成

●「R」から明らかになった課題を学力向上策として具現化します。

◆「いつ」「誰が」「どの教科・領域で」「どのような手立てで」実践していくのかを年間計画で確認しましょう。

◆学年部・教科部会などにおいて，協働で具体の手立てを検討しましょう。

Do　授業実践・授業参観

●「P」で検討した具体の手立てをしっかりと授業に反映させます。

◆授業の「ねらい」は，学習指導要領に示されている資質・能力を身に付けることができるように設定しましょう。

◆児童生徒の学びの姿から，具体の手立ての有効性や問題点を見取りましょう。

Check　授業評価・事後検討

●「D」での見取りを基に評価し，具体の手立てによる成果と課題を明確にします。

◆授業記録（発話，ノート，パフォーマンス，作品など）を基に，客観的に評価しましょう。

◆具体の手立ての有効性や新たな課題を協議しましょう。

Action　授業改善

●「C」で明確にした成果と課題を，以後の授業に確実に反映させます。

◆有効性が認められた手立ては，各教科・領域の特性に合わせながら取り入れ，全校で日常化を図りましょう。

◆課題が明らかになった手立ては，直ちに改善策を検討しましょう。

授業改善・学力向上の「PDCA」サイクルの確立のためのチェックリスト①

Research　実態把握

全国学力・学習状況調査，各種の学力調査の実施後

□ 全職員で調査問題を解きましたか？

○校内研修計画に調査問題を解く研修時間を設定するなど，各学校で工夫して取り組むことが大切です。

○調査問題を解く際には，問題の構成や問われている内容から，自分の授業を振り返ることが大切です。

□ 児童生徒に自己採点させるなど，自校採点を行いましたか？

○児童生徒に自己採点させることで，自分のつまずきに気付かせることができます。

○自校採点の結果を共有することで，より早く児童生徒の実態を把握することができます。

□ 「解説資料」などを読み，調査問題を分析しましたか？

○４月に発刊される「全国学力・学習状況調査解説資料（国立教育政策研究所）」は，各教育委員会や学校が速やかに児童生徒の学力や学習の状況，課題等を把握し，それらを踏まえて学習指導の改善・充実等に役立てることができるように作成されています。特徴は以下の５点です。

① 学習指導の改善・充実を図るための情報が盛り込まれている。
② 全ての教員が活用できるように作成されている。
③ 調査実施後，すぐに活用できるように作成されている。
④ 一人一人のつまずきが見えるように「解答類型」が設けられている。
⑤ 関連する過去の資料も活用できるように作成されている。

全国学力・学習状況調査，各種の学力調査の結果公表後

□ 正答率が低い問題を把握し共有しましたか？

○正答率が低い「原因」を明らかにすることが大切です。

□ 「報告書」などを読み，誤答分析を行いましたか？

○７月に発刊される「全国学力・学習状況調査報告書（文部科学省　国立教育政策研究所）」には，調査の概要，調査結果，各問題の分析結果等が示されているので，活用しましょう。

□ 自校の学力向上に向けた児童生徒の課題が明確になりましたか？

子供の実態をしっかりと把握することで，子供の学びにつながる授業づくりを進めていくことができそうですね！

授業改善・学力向上の「PDCA」サイクルの確立のためのチェックリスト②

Plan　学力向上策の作成

- ☐ 実態把握「R」から明らかになった課題の原因や背景を共有していますか？
- ☐ 作成する学力向上策は，「いつ」「誰が」「どの教科・領域で」「どのような手立てで」 実践するのかが明確になっていますか？

例【課題】⇒　筋道を立てて説明する力
（小学校 算数）
【学力向上策】
⇒　毎日の全授業で，全教員が以下の３点に取り組む。
①　児童の不十分な説明に対して，筋道を立てて説明できるように問い返しを行う。
②　まとめの段階で，共通点や相違点等について，比較・検討させる。
③　振り返りで，一人一人がもう一度自分の考えを説明できるようにする。（個に返す）

Do　授業実践・授業参観

- ☐ 本時の「ねらい」は，学習指導要領に示されている「育成を目指す資質・能力」を身に付けるものとなっていますか？
- ☐ 本時の「ねらい」に即した具体の手立てが講じられていましたか？
- ☐ 具体の手立てによって，児童生徒の学びの質は高まっていましたか？
- ☐ 本時の「ねらい」は，達成されましたか？

Check　授業評価・事後検討

- ☐ 具体の手立ての有効性について，児童生徒の学びの姿の変容を基に，客観的に評価していますか？
  〔評価している場合〕➡ ☐ 発話　☐ ノート　☐ パフォーマンス　☐ 作品
  ☐ その他（　　）
- ☐ 有効性が認められた具体の手立てを，以後の授業に生かしていますか？
- ☐ 有効性が認められなかった具体の手立てについて，その理由を明らかにしていますか？

Action　授業改善

- ☐ 有効性が認められた具体の手立てを，他の教科・領域の指導にも生かしていますか？
- ☐ 有効性が認められなかった具体の手立てを，改善していますか？

小中連携による協働の授業づくりを進めることで，学びのつながりを意識した視点で手立てを検証することができます。

小中連携のステップアップ～成果につながる取組～

全国学力・学習状況調査　学校質問紙調査（肯定的な回答の割合）より　　（　）内は全国値との差

質　問　事　項		Ｈ３１	Ｈ３０	Ｈ２９
近隣等の小学校（中学校）と，授業研究を行うなど，合同して研修を行いましたか。	小 中	62.9(－ 7.7) 71.6(－ 4.6)	50.2(−19.3) 64.5(−12.0)	42.4(−23.2) 60.0(−14.8)
近隣等の小学校（中学校）と教科の教育課程の接続や，教科に関する共通の目標設定など，教育課程に関する共通の取組を行いましたか。	小 中	54.5(−10.5) 62.7(－ 5.3)	44.7(−18.4) 49.0(−20.2)	26.2(−25.1) 35.0(−23.2)
前年度の全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について，近隣等の小学校（中学校）と成果や課題を共有しましたか。	小 中	58.1(－ 2.5) 61.2(　1.2)	58.5(－ 4.8) 56.7(－ 7.3)	38.9(−14.1) 39.3(−17.5)

全国値との差があるものの，小・中学校ともに，取組が進んでいます！

下の図は「小中連携のステップアップ」を図に示したものです。皆さんの学校では，どのように推進していますか？

実践する！＜協働＞

伝え合う！＜交流＞

つながる！＜理解＞

授業づくり	・学校や授業を参観し合う。（校内研究授業等）	・参観の事前・事後に意見や感想等を交流する。 ・出前授業（中学校教員の専門性を生かした指導）を実施する。	・授業づくりの手立てを共有し実践する。 ・乗り入れ授業（小・中学校教員協働の授業）を実践する。
学習習慣	・各校の「学習の手引き」「家庭学習の手引き」等を交換する。	・各校の「学習の手引き」「家庭学習の手引き」等について意見を交流する。	・9年間を見通した「学習の手引き」「家庭学習の手引き」等を作成し，実践する。
教員研修	・それぞれの校種の教科書をそろえておく。 ・教育計画や年間指導計画等を交換する。 ・学力向上の取組や全国学力・学習状況調査の結果や改善の手立ての情報交換をする。	・教科書や年間指導計画等を基に意見を交流する。 ・全国学力・学習状況調査の問題や各校の結果を基に，学力向上の手立てなどの意見を交流する。	・全国学力・学習状況調査の問題の意図に基づき，各校の結果を受けて学力向上に向けた取組について協議し実践する。 ・教科担当者部会等を開き教科ごとの課題や改善策を話し合い実践する。
生徒指導等	・「学校だより」「学年だより」や「生徒指導だより」等を交換する。	・生徒指導上の諸問題や児童生徒の状況について情報交換をする。	・生徒指導上の諸問題解決の方策等について話し合い，共通理解を図り実践する。

平成３０年度宮城県検証改善委員会報告書より

小中連携のステップアップを始めている例を紹介します。

つながる！＜理解＞～学びのつながりの可視化～

小・中学校9年間の学習内容の見通しを持ち，学校段階等間をなめらかに接続します。

小・中学校の教科書をそろえて職員室に置き，学びのつながりを確かめています。

中学校では，他教科の教科書を見ることにより，横のつながりも見えるようになりますね。

伝え合う！＜交流＞～中学校区による全国学力・学習状況調査問題の分析～

全国学力・学習状況調査の問題を解き，学力向上への具体策を話し合います。

角田市教育委員会

自分の考えを明確にして記述する問題が，小・中学校ともに出題されていますね。

相手に分かるように伝えるためには，算数や数学の用語を使うように，教師が働き掛けることが大切ですね。

課題に対して，粘り強く自己調整して最後まで考える子供に育てることも必要ですね。

友達を認め合う学級づくりという土台があってこそ，学力向上に向かうことができるのではないでしょうか。

実践する！＜協働＞～学力向上に向けた小中共通の取組を決め授業実践へ～

「共通の取組」
①学びの連続性を意識したねらいや問題解決場面の設定
②児童生徒の説明の質の向上

加美町教育委員会

＜成果＞
・教師は，身に付けさせたい資質・能力を明確にして授業をすることができ，本時のねらいを達成させるという意識がより高まりました。
・児童生徒は，既習事項を生かせば新しい課題を解決できることに気付き，言葉を吟味して説明しようとする姿が見られました。

＜課題＞
・学びの連続性には，「学習内容」と「学び方」があります。9年間の学習内容を見通すだけでなく学び方についても小中のつながりを意識したいと思います。
・今後も指示・発問を工夫していきます。

２　各教科の指導改善のための手立て

今日から始める授業改善

～指示・発問の工夫・改善～

国語　文章や話の構成や表現の工夫について考えさせる指示や発問の質を高めよう。

平成31年度の調査結果から明らかになった宮城県　小・中学校　国語　共通の課題

小学校の調査問題１４問，中学校の調査問題１０問について，正答率が低い問題や全国平均とのかい離が大きい問題を取り出して分析していくと，〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に関する問題において，小・中学校ともに全国平均とのかい離が大きいことが分かりました。更に分析を進めていくと，小・中学校ともに，３領域を問わず，文章や話の構成や表現の工夫を捉えたり，その意図や効果について考えたりすることに課題があることが分かりました。

文章や話の構成や表現の工夫を捉えたり、その意図や効果について考えたりすることに関わる設問

校種	問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域等 出題の趣旨	平均正答率
小学校	1一	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で，〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれどのような目的で用いているか，適切なものを選択する。	B書くこと　5・6年エ 図表やグラフなどを用いた目的を捉える。	全国 71.2% 宮城 68.4%
	1二	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で，「(2)公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する。	B書くこと　5・6年ウ 情報を相手に分かりやすく伝えるために記述の工夫を捉える。	全国 63.4% 宮城 63.1%
	3二	畳職人への【インタビューの様子】の［　　］の場面における，質問の工夫として適切なものを選択する。	A話すこと・聞くこと　5・6年エ 話し手の意図を捉えながら聞き，話の展開に沿って，自分の理解を確認するための質問をする。	全国 67.4% 宮城 62.7%
中学校	1一	「日本の文化の中には，海外でも広く知られているものがあります。……第一回は，弁当です。」について説明したものとして適切なものを選択する。	C読むこと　2年ウ 文章の構成や展開，表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをもつ。	全国 63.9% 宮城 60.8%
	2一	話合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する。	A話すこと・聞くこと　1年オ 話合いの話題や方向を捉える。	全国 80.4% 宮城 79.9%
	2二	話合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する。	A話すこと・聞くこと　1年ウ 相手に分かりやすく伝わる表現について理解する。	全国 69.7% 宮城 68.7%

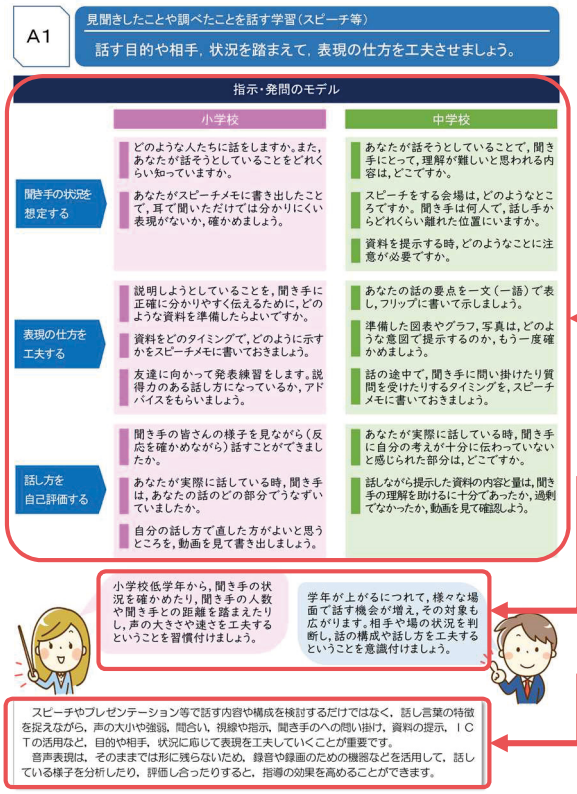
言語能力を育成する国語科においては，言語活動を通して資質・能力を育成することから，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とは，言語活動の一層の充実であり，学習過程の更なる質の向上を図ることだと言えます。言語活動を，児童生徒にとって魅力的な学習活動とし，かつ，資質・能力をよりよく身に付けるよう機能させるためにも，教師の言葉掛け，指示・発問の工夫・改善は欠かすことができません。

「指示・発問のモデル」では，「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域の，話や文章の形式，表現の仕方を扱う単元を取り上げ，「言葉による見方・考え方」を働かせ，言語活動を充実させる指示・発問を例示していきます。

小・中学校　国語の課題解決に向けた指示・発問づくりのポイント

A 話すこと 聞くこと	見聞きしたことや調べたことを話す学習（スピーチ等） 話す目的や相手，状況に応じて表現の仕方を工夫させましょう。	A1
	相手に質問し，必要な情報を聞き出す学習（インタビュー等） 聞く目的を明確にし，相手に応じた質問の仕方を工夫させましょう。	A2
B 書くこと	説明したり報告したりする文章を書く学習（説明文等） 目的に合っているか，読み手にとって分かりやすいか，繰り返し問いましょう。	B1
	自分の考えを伝える文章を書く活動（ポスター等） 表現の工夫による効果を確かめながら書かせましょう。	B2
C 読むこと	表現の工夫について考える学習（資料を含む説明的な文章） 文章と図表等を関連付けて読み，その効果を捉えさせましょう。	C1
	文章の構成や表現に着目して読む学習（文学的な文章） 表現の工夫やその意図，効果について，根拠を持って考えさせましょう。	C2

小・中学校　国語「指示・発問のモデル」ページの見方



日々の授業における学習活動を取り上げ，「指示・発問のモデル」を示しています。小学校の高学年向けと中学校向けとを並べることで，学習内容の系統性や発展性に留意して，指示・発問を工夫できるようにしました。

左側の吹き出しには，小学校の低・中学年へ指導する際のヒント，右側の吹き出しには，他教科等の学習や社会生活とのつながり等を示しました。

このページで提案する「指示・発問のモデル」の意図や留意点をまとめました。

A1

見聞きしたことや調べたことを話す学習（スピーチ等）

話す目的や相手，状況を踏まえて，表現の仕方を工夫させましょう。

指示・発問のモデル

	小学校	中学校
聞き手の状況を想定する	どのような人たちに話をしますか。また，あなたが話そうとしていることをどれくらい知っていますか。 あなたがスピーチメモに書き出したことで，耳で聞いただけでは分かりにくい表現がないか，確かめましょう。	あなたが話そうとしていることで，聞き手にとって，理解が難しいと思われる内容は，どこですか。 スピーチをする会場は，どのようなところですか。聞き手は何人で，話し手からどれくらい離れた位置にいますか。 資料を提示する時，どのようなことに注意が必要ですか。
表現の仕方を工夫する	説明しようとしていることを，聞き手に正確に分かりやすく伝えるために，どのような資料を準備したらよいですか。 資料をどのタイミングで，どのように示すかをスピーチメモに書いておきましょう。 友達に向かって発表練習をします。説得力のある話し方になっているか，アドバイスをもらいましょう。	あなたの話の要点を一文（一語）で表し，フリップに書いて示しましょう。 準備した図表やグラフ，写真は，どのような意図で提示するのか，もう一度確かめましょう。 話の途中で，聞き手に問い掛けたり質問を受けたりするタイミングを，スピーチメモに書いておきましょう。
話し方を自己評価する	聞き手の皆さんの様子を見ながら（反応を確かめながら）話すことができましたか。 あなたが実際に話している時，聞き手は，あなたの話のどの部分でうなずいていましたか。 自分の話し方で直した方がよいと思うところを，動画を見て書き出しましょう。	あなたが実際に話している時，聞き手に自分の考えが十分に伝わっていないと感じられた部分は，どこですか。 話しながら提示した資料の内容と量は，聞き手の理解を助けるに十分であったか，過剰でなかったか，動画を見て確認しましょう。

小学校低学年から，聞き手の状況を確かめたり，聞き手の人数や聞き手との距離を踏まえたりし，声の大きさや速さを工夫するということを習慣付けましょう。

学年が上がるにつれて，様々な場面で話す機会が増え，その対象も広がります。相手や場の状況を判断し，話の構成や話し方を工夫するということを意識付けましょう。

スピーチやプレゼンテーション等で話す内容や構成を検討するだけではなく，話し言葉の特徴を捉えながら，声の大小や強弱，間合い，視線や指示，聞き手のへの問い掛け，資料の提示，ＩＣＴの活用など，目的や相手，状況に応じて表現を工夫していくことが重要です。

音声表現は，そのままでは形に残らないため，録音や録画のための機器などを活用して，話している様子を分析したり，評価し合ったりすると，指導の効果を高めることができます。

A2

相手に質問し，必要な情報を聞き出す学習（インタビュー等）

聞く目的を明確にし，相手に応じた質問の仕方を工夫させましょう。

指示・発問のモデル

	小学校	中学校
質問を準備する	〔インタビューする相手（〇〇さん）の情報を知らせた後で〕 〇〇さんは，どのようなことについて詳しく話してくれるか，また，どのように話してくれるか，予想を立てましょう。 相手から聞きたいことをインタビューメモに書き出し，必ず聞きたいことと，必要に応じて聞きたいこととを分けておきましょう。	相手から聞き出したことを，誰に対して何のためにどのように伝えるのかを確かめ，相手にもその目的を伝えましょう。 相手から是非とも聞き出したいことは，どのようなことですか。中心的な質問とそれを補う質問を準備しておきましょう。 相手から聞き出したいことについて，あなたは，どのように考えていますか。
質問の仕方を工夫する	あなたが聞きたいことを，相手から引き出すには，どのような順序で質問していくとよいか，グループで話し合いましょう。 「必ず質問すること」と「必要に応じて質問すること」を分けておきましょう。また，質問に対してどのような答えが返ってくるかを予想しましょう。	あなたが準備した質問は，インタビューを受ける人の立場になって，答えやすいかどうか，必要な情報を聞き出せるかどうかを，ペアで確かめてみましょう。 相手にとって答えにくい質問と予想される質問について，質問をいくつかに分けたり，他の語句を用いて言い換えたりできるようにしておきましょう。
インタビューを振り返り，質問の仕方を確かめる	相手があなたに最も伝えようとしていたことは，どのようなことでしたか。それは，どの言葉から分かりますか。 インタビューで聞いたことで，他の人にも知ってほしいことは，どのようなことですか。 インタビューで，相手の考えを引き出すことができましたか。引き出すためにはどのように質問したらよいですか。	インタビューを振り返り，「目的に合った，相手から必要な情報を聞き出せたいい質問」を見付け，そのように考える理由とともに，グループで伝え合いましょう。 インタビューを受けている時の相手の言葉遣いや表情等から分かる，相手の思いや考えも整理しておきましょう。

小学校低学年から，話を聞くときには，話の内容や展開を予測したり，メモをとり自分の知っていることや知りたいことと比べたりすることを習慣付けましょう。

インタビューの流れに沿って，相手への質問とその答え，気付いたことを簡潔に書き留めさせましょう。インタビューの途中で質問を調整したり，インタビュー後に振り返ったりするのに活用できます。

インタビューをするときには，自分がどのような情報を求めているのか，聞き出した情報をどのように生かそうとしているのか，そのためにどういった情報を相手から引き出そうとしているのかなどを予め整理しておくことが重要です。
その際，自分が聞きたいことを準備したとおりに，一方的に聞き出そうとするのではなく，相手が伝えたいことを適切に聞き取り，理解しながら，質問を展開していくことを意識付けさせましょう。

B1

説明したり報告したりする文章を書く学習（レポート等）

目的に合っているか，読み手にとって分かりやすいか，繰り返し問いましょう。

指示・発問のモデル

	小学校	中学校
読み手を想定する	あなたが，読み手に最も知ってほしいことは，どのようなことですか。 あなたが書こうとしていることについて，読み手はどのような考えや思いを持っていると予測しますか。そのように考えるのは，どうしてですか。 あなたが書こうとしていることについて，読み手にとって分かりにくいと思われることは，どのようなことですか。	完成した文章は，他のクラスの生徒も読めるように教室の前などに掲示します（保護者の皆様にも読んでいただくために，プリントにして配布します）。 あなたが書いた文章によって，読み手に，どんなことを考えてほしいですか。 どのような事柄を挙げることで，読み手の関心を引き付けられると思いますか。
書き方を工夫する	どのような順序で説明すれば，読み手は正確に理解できますか。 どのような図表やグラフを付けると（どのような文章を引用すると），読み手にとって分かりやすくなりますか。 読み手の知っていること，知らないことを想定し，取り上げる事柄と取り上げなくともよい事柄，詳しく書く事柄と簡単に書く事柄を判断しましょう。	読み手の理解を助けるためには，どのように論を展開させたらよいか考えて，構成メモを作りましょう。 あなたが伝えたい事柄を，読み手に正確に伝えるために必要な情報を，複数の情報源から探しましょう。 書籍の文章や新聞の記事を引用することで，どのような効果がありますか。
書いた文章を読み直す	あなたが選んだ図表やグラフ，写真やイラストは，あなたが伝えたいことの根拠になっていますか，伝えたいことをより詳しく説明していますか。 下書きを，〈目的〉に応じるという観点と，〈相手〉に応じるという観点によって，推敲しましょう。 書き上がった文章を読み合い，書き手に，次の形式で，感想を伝えましょう。 「……なので，～～です。」	〔書き上がる前に〕友達が伝えたいと考えていることを聞いてから，友達が書いた文章を読み，書き加えた方がいいことや書かなくともいいことを助言しましょう。 書き上がった文章を「表現の仕方」に着目して読み合い，書き手に，次の形式で，書き方を助言しましょう。 「……は，読み手にとって～～なので，===するとよい。」

見聞きしたことや調べたことについて説明したり報告したりする文章を書く活動では，児童生徒の「伝えたい」という思いを大切にしながら，目的意識や相手意識を養いましょう。

自分が発信した情報がどのように受け止められるかを想像することは，社会生活における言語活動においても大切なことです。

自分の考えを読み手に正確に，かつ，効果的に書くためには，読み手を具体的に想定して内容や構成を検討したり，読み手の立場から文章を読み直し整えたりすることが重要です。ペアやグループで読み合うことを通して，自分の文章のよい点や改善点を見いだすとともに，自分の書いた文章を客観的に捉える力を養っていきます。

B2

自分の考えを伝える文章を書く活動（ポスター等）

表現の工夫による効果を確かめながら書かせましょう。

指示・発問のモデル

	小学校	中学校
ポスターやパンフレットの表現の工夫を捉える	〔モデルとするポスターを示して〕 このポスターを見て，どのようなことが印象に残りましたか。それは，どのような工夫があったからだと思いますか。 このポスターの作り手が最も伝えたかったことはどのようなことだと感じましたか。そのように感じたのは，どうしてですか。	〔集めてきた複数のポスター（パンフレット）から１枚を選び〕 「目的」や「意図」，「工夫」という言葉を用いて，このポスター（パンフレット）の特徴を，互いに説明しましょう。 キャッチコピーや見出し，説明等の言語情報と，図表や写真等の非言語情報は，それぞれどのような役割を果たしているか，文章で説明しましょう。
資料等の活用の仕方を工夫する	ポスターで，読み手の印象に残るように伝えるには，どのような情報を，どこに，どれくらいの大きさで配置するとよいか，レイアウトを考えましょう。 集めてきたイラストや写真，図表などは，自分が伝えたいことを，読み手に分かりやすく伝えるために，どのような役割を果たすのか，考えましょう。	○○向けの○○についてのポスターで，どのような情報を掲載すればよいのかや，なぜその情報を掲載しようと考えるのかについて検討し，グループごとにまとめましょう。 ポスターに取り入れる図表やグラフにある情報は，正確かどうか，また，あなたが伝えようとしていることの根拠としてふさわしいかどうか，グループで助言し合いましょう。
書き方を確かめる	ポスターの下書きをグループで読み合い，ポスター（パンフレット）の作り手の思いや考えが伝わってくるかどうか，どこをどのように直したらよいかを教え合いましょう。 できあがったポスターをグループで読み合い，特に読み手を意識して工夫していると感じたところを示しながら，効果を伝え合いましょう。	ポスターの下書きをグループで見せ合い，「工夫」や「効果」という言葉を用いて，助言し合いましょう。また，期待する効果を生むために，別の表現が考えられないかについても意見を述べ合いましょう。 できあがったポスターをグループで読み合い，文章の内容や全体の構成のよさを伝え合いましょう。

書く内容の中心を明確にした上で，文章の構成や表現の工夫を試し，目的や相手に応じたものになっているかを判断するとよいでしょう。

ポスターやパンフレットを作成する学習では，読み手の関心を引き付けるための工夫だけではなく，資料の妥当性や言語情報と非言語情報との関係について吟味することが大切です。

ポスターやパンフレット等を作成する学習は，他の教科や特別活動，総合的な学習の時間でも行われますが，国語科・書くことの学習においては，目的や意図，相手に応じて表現を工夫することや，表現の工夫と効果について考え，評価することを重視します。図表やグラフ，イラストなどを作成する活動に過度に偏らないように注意が必要です。

C1

表現の工夫について考える学習（資料を含む説明的な文章）

文章と図表等を関連付けて読み，その効果を捉えさせましょう。

指示・発問のモデル

	小学校	中学校
文章を図表等と関連付けて読む	文章で用いられている図表やグラフ，写真は，読み手にどのようなことを伝えるために使われていますか。本文の表現を用いて，整理しましょう。 筆者は，この写真のどの部分に注目させようとしていますか，本文の内容と関わらせて，説明しましょう。	本文中の図表やグラフ，写真やイラストは，それぞれ，どのような効果を生んでいるか，本文の表現を用いて，説明しましょう。 本文中には，図表やグラフ，写真やイラストが掲載されていますが，これらのほか，どのような資料があると，読み手の理解がより確かになると考えられるか，理由を挙げて，説明しましょう。
資料等を掲載した意図を捉える	あなたは，この資料からどのようなことを読み取り，どのようなことを考えましたか。 筆者が，ここで，この資料を示したのは，何のためですか。 筆者は，〇〇についての読み手の理解を助けるために，どのような工夫をしていますか。	筆者になったつもりで，この文章を論理的に書くために工夫したことを３点挙げ，その意図を説明しましょう。 筆者は，読み手の共感や納得を引き出すために，構成や表現においてどのような工夫をしているか，本文の内容と関連付けて説明しましょう。
図表等の活用の仕方を考える	ここで，資料が示されている場合と示されていない場合とを比べると，本文の内容の理解に，どのような違いあるか，説明しましょう。 調べたことについてまとめる文章を書くとき，読み手の理解を助けるためには，どのような資料を，どのように示すとよいか，話し合いましょう。	説明的な文章において，図表，グラフ，写真，イラストは，それぞれどのようなことを伝えるのに適しているか，説明しましょう。 この文章のように，調査結果を根拠として挙げる文章を書くとき，どのようなことに気を付けたらよいか，3つの観点からまとめましょう。

小学校低学年では，写真やイラストそのものに子供の関心が向きがちで，その説明に時間を当てがちですが，本文の内容と関連付け，書き手の工夫やその意図について考えることに，重点を置きましょう。

自分が書き手となることを想定させ，図表やグラフなどの表し方や引用の仕方，出典の示し方を捉えさせることも大切です。

文章と図表等を関連付けて読むことで，文章の内容や論理の展開についての理解が深まります。また，図表等の活用の仕方について考えることで，自分の表現に生かしていくことも期待できます。

C2

文章の構成や表現に着目して読む学習（文学的な文章）

表現の工夫やその意図，効果について，根拠を持って考えさせましょう。

指示・発問のモデル

	小学校	中学校
構成の工夫を捉える	この物語の書き出しの一文は，作品の全体の中で，どのような役割を果たしていますか。物語の展開と関わらせて，説明しましょう。 物語の終わりの場面によって，どのようなことを感じましたか。それは，どの表現があるからですか。ノートにまとめましょう。	この作品全体の構成を，時間の流れに従って整理しましょう。 作者は，なぜ物語の冒頭部分をこのように描いたのか，「暗示」という言葉を用いて説明しましょう。 現在の視点から，過去の出来事を描くことで，どのような効果があるか，説明しましょう。
表現の工夫に気付く	本文を音読して，表現の仕方について気付いたことを，本文の表現を取り上げながら伝え合いましょう。 あなたは，ここに描かれている場面の様子（人物の心情）について，どのような印象を持ちましたか。それは，どのような表現があったからですか。本文中から抜き出しましょう。	物語の全体を通して，「巧みな表現だ」と感じた表現を取り上げ，そのように感じた理由を，物語の内容や展開と関連させて，説明しましょう。 作者が，「○○」を「……」と表現せず，「○○」と表現したのはなぜか，説明しましょう。 本文中の擬態語，擬音語を抜き出し，それぞれ印象と効果をまとめましょう。
表現の工夫やその効果を説明する	本文中の擬態語や擬音語は，それぞれどのような様子を表し，読み手にどのような印象を与えるか，説明しましょう。 「……」という表現の繰り返しは，どのような意図がありますか。物語の展開と関連付けて説明しましょう。 「……」という情景描写は，読み手にどのようなことを想像させますか。	プロの朗読を聞いて，読み方として印象に残った部分を挙げ，どのように読んでいるか，なぜそのように工夫しているかを，本文の表現と関連付けて，説明しましょう。 この作品の展開が読み手にどのような効果を与えるのか，文章にまとめましょう。

小学校低学年から，書き手が工夫した表現を取り上げ，想像したり説明したりする活動を取り入れましょう。

説明させたり解釈させたりする際には，「記述の条件」を与えることで，思考の整理を促すことができます。

文学的な文章における表現の工夫や効果について考えさせる際には，理由や根拠を明確にすることを特に重視しましょう。読み手としての感じ方を大切にしながらも，なぜそのように感じるのか，なぜ書き手はそのように表現しているのかを，言語に関する知識を活用しながら叙述に即して考える習慣を身に付けさせましょう。

算数・数学

説明すべき内容やそれを説明する意図を指導者が明確に持ち，指示や発問等を構成して，数学的に説明する力を向上させよう。

平成31年度の調査結果から明らかになった宮城県　小・中学校　算数・数学　共通の課題

小・中学校の調査問題では，以下の(a)，(b)，(c)の３つの説明を求める記述式問題が出題され，問題ごとに決められた「正答の条件」を全て満たす記述が求められています。宮城県の正答率は全ての記述式問題で全国の平均正答率を下回っており，条件を踏まえて数学的に説明・記述することに課題があると言えます。

	小学校算数	中学校数学
(a)	「事実」を記述する問題	見いだした事柄や事実を説明する問題
(b)	「方法」を記述する問題	事柄を調べる方法や手順を説明する問題
(c)	「理由」を記述する問題	事柄が成り立つ理由を説明する問題

小・中学校　算数・数学「指示・発問のモデル」ページの見方

小(a)「事実」を記述する問題

性質や定義，数量関係または傾向や特徴を説明させる場面

説明する対象（数値や式等）を明らかにして説明させましょう。

小学校では，児童が数量や図形，数量関係を考察して見いだした事実を，確認したり説明したりする学習活動を取り入れることが大切です。その際，思考の筋道が分かるように，図と式，数と言葉等を関連付けて表現できるようにすることや，見いだした事実やきまりについて，算数の用語を正しく用いて表現できるようにすることも大切です。

指示・発問のモデル

自分の考えを書くとき	解決するために使う数(図・式・言葉)は何ですか。 何算になるかを考えて書きましょう。 式の数が何を意味しているのかが分かるように，言葉を使って書きましょう。
自分の考えを発表するとき	式の意味（＋－×÷）を説明しましょう。 この数は何を表していますか。 ○○さんの式の意味を算数の用語を使って説明しましょう。
振り返りで感想を書くとき	分かっていることと聞かれていることに整理して書きましょう。 数や式に着目して考えると，どのようなことが分かりましたか。

説明する対象の「事実」について，ノートに書かせたり説明させたりする場面では，式の数の意味や演算決定の理由の説明を求めたり，他者の式の意味を考えさせたりして，説明する対象（数値や式等）が何を表すのかが明確になるように説明させましょう。

平成31年度　調査問題の概要と正答の条件

校種	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率
小学校	1(3)	ちひろさんの求め方の「20－4」はどのようなことを表しているかを，20 と4がどのような図形の面積を表しているかが分かるようにして言葉や数を使って書く。	示された図形の面積の求め方を解釈し，その求め方の説明を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。	全国 43.9% 宮城 38.1%
		＜正答の条件＞ ①20 が，長方形の面積を表していること ②４が，三角形の面積を表していること ③減法が，ある数量(図形)からある数量(図形)を取り去ることを表していること		
	3(2)	減法についてのまとめと同じように，除法についても，ことねさんの計算の仕方を基にまとめると，どのようになるかを「わられる数」「わる数」「商」の3つの言葉を使って書く。	示された計算の仕方を解釈し，減法の場合を基に，除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できるかどうかをみる。	全国 31.1% 宮城 28.4%
		＜正答の条件＞ ①わられる数とわる数に同じ数をかけることを表す言葉 ②わられる数とわる数を同じ数で割ることを表す言葉 ③商が変わらないことを表す言葉		

対象となる学校種と記述式問題に応じた，日常の授業づくりのポイントを示しました。

日常の授業の中で，3つの数学的に説明する力を高めるために取り入れていきたい指示や発問のモデルを示しました。

指示・発問モデルを参考に，授業内容に合った指示・発問を考える際の留意点を示しました。

平成３１年度全国学力・学習状況調査問題との関連を示しました。

小・中学校　算数・数学の課題解決に向けた指示・発問づくりのポイント

(a)	「事実」を記述する問題	性質や定義，数量関係または傾向や特徴を説明させる場面 説明する対象（数値や式等）を明らかにして説明させましょう。	小(a)
	見いだした事柄や事実を説明する問題	図形の問題の意味を理解し，課題解決の見通しを持つ場面 「前提」と「結論」の関係を数学的に明確に表現させましょう。	中(a)
(b)	「方法」を記述する問題	問題を解決する際，自分（他者）の方法を説明する場面 何を基にして，どのような式をつくるのかを説明させましょう。	小(b)
	事柄を調べる方法や手順を説明する問題	問題解決の方法や手順を説明する場面 「用いるもの」と「その用い方」が明らかになるように説明させましょう。	中(b)
(c)	「理由」を記述する問題	考えたことや判断したことを説明する場面 「Aだから，Bになる」という形で説明させましょう。	小(c)
	事柄が成り立つ理由を説明する問題	事柄が一般的に成り立つ理由を説明する場面 説明する事柄の根拠を考察・記述させましょう。	中(c)
共通	小中共通で取り組みたいこと	説明や記述が正答の条件を満たしていないと判断される場面 「問い返し」や「教師コメント」で説明の質を向上させましょう。	小中

小(a)「事実」を記述する問題

性質や定義，数量関係または傾向や特徴を説明させる場面

説明する対象（数値や式等）を明らかにして説明させましょう。

小学校では，児童が数量や図形，数量関係を考察して見いだした事実を，確認したり説明したりする学習活動を取り入れることが大切です。その際，思考の筋道が分かるように，図と式，数と言葉等を関連付けて表現できるようにすることや，見いだした事実やきまりについて，算数の用語を正しく用いて表現できるようにすることも大切です。

指示・発問のモデル

自分の考えを書くとき

- 解決するために使う数(図・式・言葉)は何ですか。
- 何算になるかを考えて書きましょう。
- 式の数が何を意味しているのかが分かるように，言葉を使って書きましょう。

自分の考えを発表するとき

- 式の意味（＋－×÷）を説明しましょう。
- この数は何を表していますか。
- ○○さんの式の意味を算数の用語を使って説明しましょう。

振り返りで感想を書くとき

- 分かっていることと聞かれていることに整理して書きましょう。
- 数や式に着目して考えると，どのようなことが分かりましたか。

説明する対象である「事実」について，ノートに書かせたり説明させたりする場面では，式の数の意味や演算決定の理由の説明を求めたり，他者の式の意味を考えさせたりして，説明する対象（数値や式等）が何を表すのかが明確になるように説明させましょう。

平成31年度　調査問題の概要と正答の条件

校種	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率
小学校	1(3)	ちひろさんの求め方の「20－4」はどのようなことを表しているかを，20 と4がどのような図形の面積を表しているかが分かるようにして言葉や数を使って書く。	示された図形の面積の求め方を解釈し，その求め方の説明を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。	全国 43.9% 宮城 38.1%
		＜正答の条件＞ ①20 が，長方形の面積を表していること ②４が，三角形の面積を表していること ③減法が，ある数量(図形)からある数量(図形)を取り去ることを表していること		
	3(2)	減法についてのまとめと同じように，除法についても，ことねさんの計算の仕方を基にまとめると，どのようになるかを「われる数」「わる数」「商」の3つの言葉を使って書く。	示された計算の仕方を解釈し，減法の場合を基に，除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できるかどうかをみる。	全国 31.1% 宮城 28.4%
		＜正答の条件＞ ①わられる数とわる数に同じ数をかけることを表す言葉 ②わられる数とわる数を同じ数で割ることを表す言葉 ③商が変わらないことを表す言葉		

中(a) 見いだした事柄や事実を説明する問題

図形の問題の意味を理解し，課題解決の見通しを持つ場面

「前提」と「結論」の関係を数学的に明確に表現させましょう。

中学校では，生徒が一旦解決された問題やその解決過程を振り返り，問題の条件や仮定を見直したらどうなるのか，何か共通する性質があるのではないか等，解を吟味する場面を設定することが大切です。その際，新たに見いだした事柄を，その前提と結論に分けて説明できるようにすることも大切です。

指示・発問のモデル

問題文を読むとき

- 前提と結論は何かを意識して問題文を読みましょう。前提と結論の部分にそれぞれ青と赤の下線を引きましょう。
- 前提が何なのかに気を付けて，問題文に合う図をかきましょう。

前提と結論を数学的に表現するとき

- 問題文の中の前提と結論を，「○○ならば，△△になる」という表現で表してみましょう。
- 問題文の中の前提と結論を，数学の記号を使って表しましょう。また，図の中にも青と赤で色分けして記号で表しましょう。

前提の下での結論の成否を考えるとき

- 前提に合う図を何通りか描いてみて，いつでも結論が成り立つかを調べてみましょう。
- 前提が「□□□」に変わると結論は成り立ちませんが，それはなぜか説明しましょう。

問題文中の「ならば」という言葉だけで形式的に前提と結論を判断させるのではなく，文意に即した図を描くなどして事柄や事実の関係を的確に捉えさせるようにしましょう。言葉で表されている事象を数学的に表現する活動を通して，論理的に考えを進める力の育成につなげていきましょう。

平成31年度　調査問題の概要と正答の条件

校種	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率
中学校	7(3)	正方形ではない四角形で，AF＝CEになる四角形ABCDを考え，四角形ABCDがどのような四角形ならば，AF＝CEになるか，「　～ならば，……になる。」という形で書く。	結論が成り立つための前提を考え，新たな事柄を見いだし，説明することができるかどうかをみる。	全国 53.3% 宮城 48.5%

＜正答の条件＞
「○○ならば，◇◇になる」という形で(a)(c)または(b)(c)の条件を満たし，成り立つ事柄を記述
(a)○○が「四角形 ABCD がひし形」である
(b)○○が「四角形 ABCD が AB＝BC の四角形」である
(c)◇◇が「AF＝CE」である

小(b)「方法」を記述する問題

問題を解決する際，自分（他者）の方法を説明する場面

何を基にして，どのような式をつくるのかを説明させましょう。

小学校では，児童が問題を解決するために見通しを持って，筋道を立てて考え，その考え方や解決方法を説明できるようにすることが大切です。その際，変わることと変わらないことに着目させたり，必要な情報を選択させたりする場面を設定して，解決へ向かう考え方や解決方法を式や言葉で説明できるようにすることも大切です。

指示・発問のモデル

解決の方法を考えるとき

- これまでに学習した解決方法は使えますか。
- 何を基にして考えればいいでしょうか。
- 考えの順番を整理していきましょう。
- 解決方法を言葉と式で書きましょう。

解決の方法を共有するとき

- その解決方法は，どのような考え方を使っているのですか。
- ○○さんの考えは，前の時間の解決方法とどこが違いますか。
- ○○さんが言った方法（手順）を言い換えるとどうなりますか。
- 似ている考えや違う考えはどの部分でしょうか。

振り返りで感想を書くとき

- 問題を解決するために使った考え方をまとめましょう。
- 友達の考え方で気付いたことはありましたか。
- 何を基にしたら，どんな式ができたのかが分かるように書きましょう。

児童に問題解決の方法をノートに書かせたり，説明させたりする場面では，前時までとの違いや共通点に着目させるなどして方法の見通しを持たせ，基にする事柄を明らかにしたり，他者の考えの方法にも目を向けたりして，式や言葉を使って説明することができるようにしましょう。

平成31年度　調査問題の概要と正答の条件

校種	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率
小学校	4(3)	3ポール分進むのに9分間かかる進み具合で進むとすると残り7ポール分進むのにかかる時間の求め方を言葉や式を使って書く。	示された場面の状況から，単位量当たりの大きさを基に，所要時間の求め方と答えを言葉や数を用いて記述し，その結果から条件に当てはまるかどうかを判断することができるかどうかをみる。	全国 62.6% 宮城 58.3%
		＜正答の条件＞ ①１ポール分当たりにかかる時間を求める式や言葉 ②７ポール分進むのにかかる時間を求める式や言葉		

中(b) 事柄を調べる方法や手順を説明する問題

問題解決の方法や手順を説明する場面

「用いるもの」と「その用い方」が明らかになるように説明させましょう。

中学校では，生徒が問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明できるようにすることが大切です。その際，複数の方法を比較・検討させたり，何をどのように用いるとよいかについて話し合わせたりして，「用いるもの」と「その用い方」を明確に区別して説明させることが大切です。

指示・発問のモデル

自分の考えを書くとき

- どのように問題を解決するのか，〇〇や△△という言葉を使って，自分の考えを書きましょう。
- 問題を解くために，何を用いたのか（着目したのか），そして，どのように解いたのかに分けて説明しましょう。

自分の考えを発表するとき

- 解決に使えそうな考え方はありますか。・・・・・ なぜその考えが使えそうだと思ったのですか。
- 何を用いたのか（着目したのか）についても説明しましょう。

振り返りで感想を書くとき

- 今日は〇〇の方法について学習しました。何に着目したのか，その結果どのようなことができるようになったかを書きましょう。
- ノートを交換して，用いるものとその用い方が書いてあるかを確認しましょう。

生徒に対して，問題解決の方法や手順をノートに書かせたり説明させたりする場面では，あらかじめ説明に必要なキーワード等（正答の条件）を示してから活動に取り組ませましょう。また，生徒が問題解決の方法や手順について不十分な説明をした場合には，不足している条件に気付くことができるように問い返しましょう。

平成31年度　調査問題の概要と正答の条件

校種	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率
中学校	6(2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなるおよその使用年数を考え，下のア，イのどちらかを選び，それを用いて冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する。 ア　それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式 イ　それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ ＜正答の条件＞ アを選択し(a)について記述，またはイを選択し(b)について記述 (a)方程式を解いて，使用年数の値を求めること (b)グラフの交点の座標から使用年数の値を読み取ること	事象を数学的に解釈し，問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。	全国 34.7% 宮城 27.4%

小(c)「理由」を記述する問題

考えたことや判断したことを説明する場面

「Aだから，Bになる」という形で説明させましょう。

小学校では，児童が根拠を基に筋道を立てて考えを進め，それを説明したり，判断や考えの正しさを説明したりできるようにすることが大切です。その際，判断や考えの理由を言葉や数，式を用いて「AだからBになる」のように説明できるようにすることも大切です。

指示・発問のモデル

理由を考えるとき

- 「AだからBになる」の形になるように言葉と式で書きましょう。
- 理由を言葉と式で説明しましょう。
- どうしてBのような結果になったのか，その理由を考えてみましょう。

理由を発表し合うとき

- 理由はそれだけですか？他にはありませんか。
- その考えは，何が基になっていますか。
- それを算数の用語を使って説明するとどうなりますか。

感想を交流するとき

- 今日の学習を通して，何に着目したことで，どのようなことができるようになったかを書きましょう。
- ノートを交換して，自分の考えと理由が書いてあるか確認しましょう。

児童に考えたことや判断したことをノートに書かせたり説明を求めたりする場面では，あらかじめ根拠となる理由を述べることを示し，言葉だけでなく図や式を関連させて考えを書き，説明することができるようにしましょう。

平成31年度　調査問題の概要と正答の条件

校種	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率
小学校	2(3)	2010 年から 2016 年までの3年ごとの一人当たりの水の使用量について分かることを1～4の中から1つ選び，選んだ訳をグラフ2とグラフ3から分かることを基に言葉や数を使って書く。	二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り，それらを関連付けて，一人当たりの水の使用量の増減を判断し，判断の理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。	全国 52.1% 宮城 45.4%

＜正答の条件Ａ＞
①一人当たりの水の使用量が（市全体の水の使用量）÷（市の人口）で求めることができることを表す言葉や式
②市全体の水の使用量が変わらないことを表す言葉や数
③市の人口が増えていることを表す言葉や数

＜正答の条件Ｂ＞
①一人当たりの水の使用量が（市全体の水の使用量）÷（市の人口）で求めることができることを表す言葉や式
②2010，2013，2016 年の一人当たりの水の使用量を表す数

中(c) 事柄が成り立つ理由を説明する問題

事柄が一般的に成り立つ理由を説明する場面

説明する事柄の根拠を考察・記述させましょう。

中学校では，生徒がある事柄が成り立つ理由を数学的に説明するために，説明の対象となる成り立つ事柄を明確にした上で，その根拠を指摘する学習活動を取り入れることが大切です。その際，式や言葉を用いて根拠を明らかにしたり，複数の事象を比較して違いを示したりする場面を設定して，数学的な表現を用いて簡潔に分かりやすく説明できるようにすることも大切です。

指示・発問のモデル

整数の性質を証明するとき

- 「○（△＋◇）は○の倍数を表している」理由を，言葉で説明しましょう。
- 式の計算だけではなく，なぜそう言えるのか，理由を書きながら説明しましょう。

日常的な事象についての確率を考察するとき

- ○と△が起こる確率はどちらが高いですか。なぜそう考えたのか，根拠を示しながら説明しましょう。
- ○さんは△が起こる確率を□になると考えました。○さんがどのように考えたのかを説明しましょう。

図・表等からデータを読み取るとき

- 図から言えることは何ですか。またなぜそう言えるのか，理由を言葉で説明しましょう。
- ○○さんが発表した内容と違うことに気付いた人はいませんか。どこが違うのか，はっきり伝わるように説明しましょう。

ある事柄について一般的に成り立つことを説明する場面では，その根拠を示しながら矛盾や論理の飛躍が生じないように説明させましょう。その際，穴埋め問題や型に当てはめるだけの形式的な指導にならないように留意し，なぜそう言えるのかについて「○○だから，△△である」の形で説明させましょう。

平成31年度　調査問題の概要と正答の条件

校種	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率
中学校	8(2)	桃子さんが作ったヒストグラムを見て，航平さんのように「1日あたりの読書時間の平均値が26．0分だから，1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだ」という考えは適切ではない理由を，ヒストグラムの特徴を基に説明する。	資料の傾向を的確に捉え，判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。	全国 40.8% 宮城 38.6%
		＜正答の条件＞ (a) (c)または(b) (c)について記述 (a) 1日あたりの読書時間である26分が，山の頂上の位置にないこと (b) 1日あたりの読書時間である26分が，度数が最大である階級に含まれていないこと (c) 1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだ，という考えは適切ではないこと		
	9(2)	「連続する5つの奇数の和は，中央の奇数の5倍になる」がいつでも成り立つことの説明を完成させる。	目的に応じて式を変形したり，その意味を読み取ったりして，事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。	全国 59.7% 宮城 57.5%
		＜正答の条件＞ 5(2n+5)と計算している場合は(a) (b)について記述 (a) 2n+5は中央の奇数だから (b) 5(2n+5)は中央の奇数の5倍である 10n+25と計算している場合は(c) (d) (e)について記述 (c) 10n+25が2n+5の5倍になることを示している (d) 2n+5は中央の奇数だから (e) 10n+25は中央の奇数の5倍である		

共通　小中共通で取り組みたいこと

説明や記述が正答の条件を満たしていないと判断される場面

「問い返し」や「教師のコメント」で説明の質を向上させましょう。

児童生徒の「数学的に説明する力」を向上させるためには，授業のねらいに加えて，その時間の学習活動を通して鍛えたい「数学的に説明する力」を明確にするとともに，質の高い説明のモデルとなる「正答の条件」を教師が明確に持って，児童生徒の説明や記述が適切かどうかを判断することが大切です。

そして，児童生徒の説明が「正答の条件」を十分に満たしていないと判断した場合には，その不十分な点を指摘し，常に質の高い説明を児童生徒に求めることが大切です。

指示・発問のモデル

解決方法を共有するとき

- ○○(足りない条件)についても説明しましょう。
- ○○さんの発表に付け足すことはありませんか。
- 発表を聴いて，もっと説明してほしいことをアドバイスしてください。

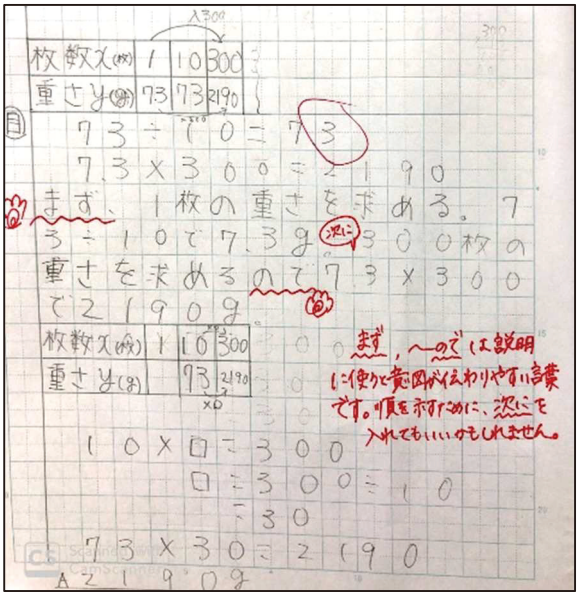
グループ活動に取り組むとき

- 先生が示した条件に合うように説明できているか，グループでもう一度検討しましょう。
- ○○さんがこの式を立てた理由を各自で考えてから，グループで共有しましょう。

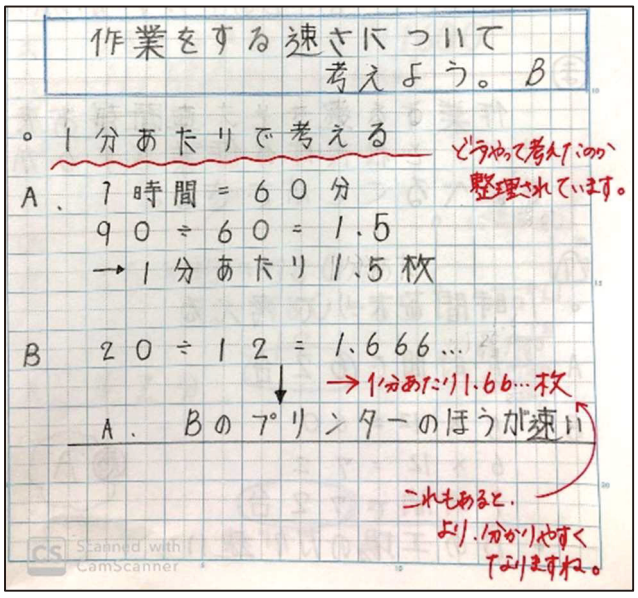
記述内容にコメントするとき

- 「○○のところは□□した方がよいですね」のように，足りない条件を明確に示す。
- よい記述に下線を引き，何が優れているかを具体的に示す。

説明の質を向上させるためには，よい説明や記述を取り上げて見本を示すだけでなく，不十分な説明や記述を基に，集団で吟味する活動を取り入れることが考えられます。また，個に対応した支援として，児童のノートに書かれたよい説明や記述を認め，教師が価値付けしたり，不十分な説明や記述に対して改善の方向性を示したりすることで，児童生徒にフィードバックするようにしましょう。



教師のコメント例①



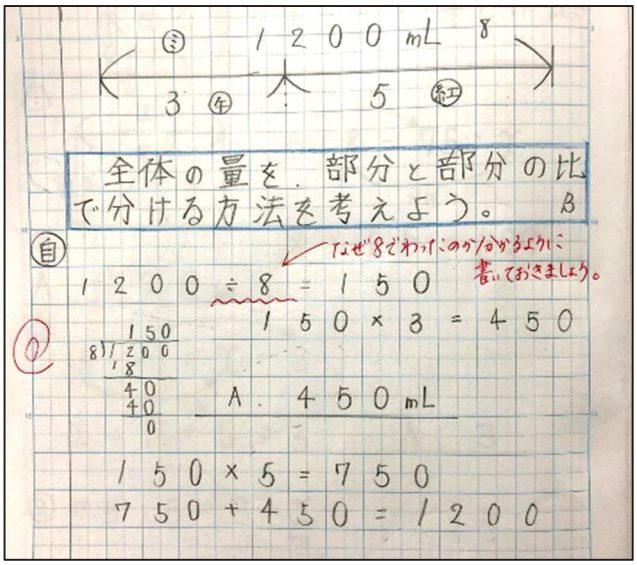
教師のコメント例②

平成31年度　調査問題の解答類型

児童生徒の解答類型からは，正答の条件の一部は書いてあるものの十分ではない解答が見られます。各学校においては解答類型を活用し，自校の児童生徒が正答の条件のうち，どの条件の記述が不十分であるのかを把握し，日常の指導の中で改善を図る教師の言葉掛けが求められます。

1	(3)	（正答の条件） 次の①，②，③の全てを書いている。 ① 20が，長方形の面積を表していること ② ４が，三角形の面積を表していること ③ 減法が，ある数量からある数量を（またはある図形からある図形を）取り去ることを表していること （正答例） ・ 20は，長方形の面積を表しています。 ４は，三角形の面積を表しています。 20－４は，長方形の面積から三角形の面積を引いていることを表しています。			
		1	①，②，③の全てを書いているもの	44.1	◎
		2	③を書き，長方形の面積であることと，三角形の面積であることは書いているが，説明する対象が明確ではないもの，または対象を誤って書いているもの	0.5	
		3	①，②を書いているもの	16.6	
		4	長方形の面積であることと，三角形の面積であることは書いているが，説明する対象が明確ではないもの，または対象を誤って書いているもの	2.1	
		5	①，③を書いているもの ②，③を書いているもの	6.3	
		6	①を書いているもの ②を書いているもの	7.6	
		7	③を書いているもの	3.1	
		8	**【ちひろさんの求め方】**以外の，**図１**の形の面積の求め方の説明を書いているもの	0.8	

【平成31年度　全国学力･学習状況調査　報告書　小学校　算数　より】



教師のコメント例③

英語　実際の言語の活用場面で，指示や発問により言語材料に着目させよう。

平成31年度の調査結果から明らかになった宮城県 中学校 英語の課題

中学校英語の調査問題で，正答率が低い問題や全国平均とのかい離が大きい問題について分析していくと，「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の領域において，「言語や文化についての知識・理解」の観点で特にかい離が大きく，言語材料（音声，語，文構造など）の定着に課題があることが分かりました。

領域	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	平均正答率
「聞くこと」	1(4)	家での会話を聞いて，その内容を最も適切に表している絵を選択する。	日常的な話題について，情報を正確に聞き取る。	全国 61.8% 宮城 54.9%
「読むこと」	5(3)	月ごとの平均気温を表したグラフを見て，その内容を正しく表している英文を選択する。	日常的な話題について，簡単な文で書かれたものの内容を，正確に読み取る。	全国 73.1% 宮城 65.2%
「話すこと」	大問2	ユイコとアラン先生のやり取りを聞き，その内容を踏まえて会話が続いていくように，即興で質問をする。	聞いて把握した内容について，やり取りすることができる	全国 10.5% （参考値）
「書くこと」	9(2)②	与えられた英語を適切な形に変えたり，不足している語を補ったりなどして，会話が成り立つように英文を書く。	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書く。	全国 28.9% 宮城 19.1%

新学習指導要領の教科目標の柱であるコミュニケーションを図る資質・能力の基盤を形成するという観点から，基礎的な「知識・技能」と共に，それらを実際のコミュニケーションの場面において，効果的に活用できる「思考力・判断力・表現力等」を育成することが求められています。

本県の課題である言語材料を確実に定着させるためには，「言語材料についての理解や練習」と「実際に言語を使用して，互いの考えや気持ちを伝え合う活動」をバランスよく指導していくことが大切です。

「指示・発問のモデル」については，「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「書くこと」の領域における実際の言語の活用場面で，言語材料に注目させる指示・発問の例を挙げました。

また，小学校外国語活動・外国語科の授業でも取り入れられる活動例を挙げました。各学校での指導の際の参考としてください。

中学校　英語の課題解決に向けた指示・発問づくりのポイント

日常的な話題について，情報を正確に聞き取る学習 英語を聞かせる前と後に，聞くポイントとなる語句に注目させましょう。	聞くこと
簡単な文で書かれたものの内容を，正確に読み取る学習 場面や状況を理解し，目的に応じて必要とする情報を捉えさせましょう。	読むこと
聞いて把握した内容について，やり取りする学習 一人一人とやり取りし，会話を継続・発展させる方法に気付かせましょう。	話すこと （やり取り）
場面や状況から文の形式や動詞の形を適切に判断し，正確に書く学習 対話や文章の流れから，ふさわしい文の形式や時制を考えさせましょう。	書くこと

小・中学校　英語　ページの見方

聞くこと

日常的な話題について，情報を正確に聞き取る学習

英語を聞かせる前と後に，聞くポイントとなる語句に注目させましょう。

情報を正確に聞き取るためには，場面や状況に応じて，事実や出来事についての必要な情報を正しく理解する必要があります。指導に当たっては，どのようなことに気を付けて聞けばよいかを考えさせることで，聞くポイントとなる語句に注目させることが大切です。また，教師が自然な口調の英語を用いるようにして話すなど，日常的に「聞くこと」を通して理解する活動を繰り返し行っていくことが大切です。

指示・発問のモデル

聞く前に場面や状況を把握する

What's this picture of?	この絵は何ですか。
What is this action in English?	この動作を表す英語は何ですか。
What do you have to listen for?	何を聞き取ればよいですか。
Talk about it in pairs.	ペアで話し合ってみましょう。
What are the key words?	キーワードは何ですか。
The key words are "before and after."	キーワードは「before と after」ですね。
Listen carefully for the key words.	キーワードに気を付けて聞きましょう。
Listen carefully and take notes.	メモを取りながら聞きましょう。

聞いた後に答えや理由を共有する

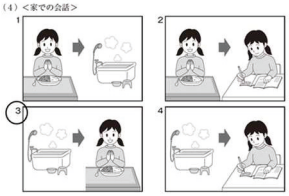
Which picture did you choose?	どの絵を選びましたか。
Tell your friends about your answer.	選んだ答えを友達に伝えましょう。
Why did you choose that answer?	なぜその答えを選びましたか。
Which words did you note?	どんなメモを取りましたか。
What are the important key words?	重要な語句は何ですか。
Repeat the key sentence after me.	重要な文を繰り返して言ってみましょう。
What else did you hear?	他に聞き取れたことはありますか。
Listen carefully for the key words again.	キーワードに気を付けて，もう一度聞きましょう。

小学校でも教師と ALT の会話等をできるだけ多く聞かせましょう。その際，事前に場面や状況を伝えたり，内容を想像させたりしてから聞かせるとよいですね。

平成31年度　調査問題

1　（放送問題）
話される英会話を聞いて，その内容を最も適切に表している絵を，それぞれ 1 から 4 までの中から 1 つ選びなさい。

（4）＜家での会話＞



〈スクリプト〉

（4）　家での会話
A: I'm so hungry.
B: Today's dinner is curry and rice. It will take about thirty minutes to cook. Do you have any homework today?
A: No, I don't.
B: Then take a bath before dinner.
A: OK.

before dinner という句から時間の前後関係を把握することに課題がある。

- 各領域における指示・発問のポイントを示しました。
- 日常の授業づくりで大切なポイントをまとめました。
- 日常の授業における言語の活用場面で，言語材料に注目させる指示・発問の例を挙げました。
- 小学校外国語活動・外国語科の授業でも取り入れられる活動例を示しました。
- 平成31年度全国学力・学習状況調査問題との関連を示しました。

聞くこと

日常的な話題について，情報を正確に聞き取る学習

英語を聞かせる前と後に，聞くポイントとなる語句に注目させましょう。

情報を正確に聞き取るためには，場面や状況に応じて，事実や出来事についての必要な情報を理解する必要があります。指導に当たっては，どのようなことに気を付けて聞けばよいかを考えさせることで，聞くポイントとなる語句に注目させることが大切です。また，教師が自然な口調の英語を用いるようにして話すなど，日常的に「聞くこと」を通して理解する活動を繰り返し行っていくことが大切です。

指示・発問のモデル

聞く前に場面や状況を把握する

What's this picture of?	この絵は何ですか。
What is this action in English?	この動作を表す英語は何ですか。
What are the differences among them?	これらの違いは何ですか。
What do you have to listen for?	何を聞き取ればよいですか。
Talk about it in pairs.	ペアで話し合ってみましょう。
The points are "before and after."	ポイントは「before と after」ですね。
Listen carefully for the points.	このポイントに気を付けて聞きましょう。
Listen carefully and take notes.	メモを取りながら聞きましょう。

聞いた後に答えや理由を共有する

Which picture did you choose?	どの絵を選びましたか。
Tell your friends about your answer.	選んだ答えを友達に伝えましょう。
Why did you choose that answer?	なぜその答えを選びましたか。
Which words did you note?	どんなメモを取りましたか。
What are the key words?	重要な語句は何ですか。
Repeat the key sentence after me.	重要な文を繰り返して言ってみましょう。
What else did you hear?	他に聞き取れたことはありますか。
Listen carefully for the key words again.	キーワードに気を付けて，もう一度聞きましょう。

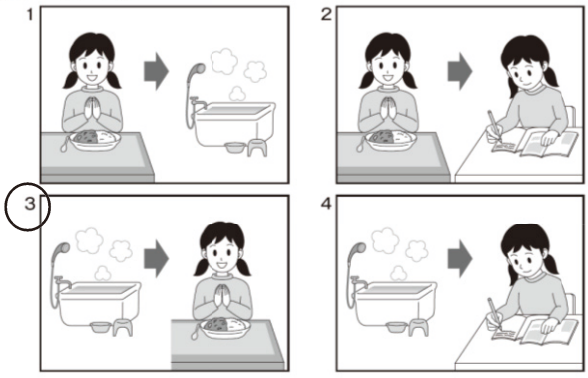
小学校でも教師と ALT の会話等をできるだけ多く聞かせましょう。その際，事前に場面や状況を伝えたり，内容を想像させたりしてから聞かせるとよいですね。

平成31年度　調査問題

1　（放送問題）

話される英会話を聞いて，その内容を最も適切に表している絵を，それぞれ 1 から 4 までの中から 1 つ選びなさい。

（4）＜家での会話＞



〈スクリプト〉

（4）　家での会話

A: I'm so hungry.
B: Today's dinner is curry and rice. It will take about thirty minutes to cook. Do you have any homework today?
A: No, I don't.
B: Then take a bath before dinner.
A: OK.

before dinner という句から時間の前後関係を把握することに課題がある。

読むこと

簡単な文で書かれたものの内容を，正確に読み取る学習

場面や状況を理解し，目的に応じて必要とする情報を捉えさせましょう。

簡単な語句や文で書かれたものの内容を読み取るためには，目的に応じて，必要な情報を把握する力を付ける必要があります。指導に当たっては，書かれていることの全てを読み取るのではなく，場面や状況を理解し，既習の語句や文に着目しながら必要な情報を取り出させることが大切です。その際，生徒が課題意識を持って情報を得たいと考えるような教材（広告や手紙，電子メールなど）を扱うことが大切です。

指示・発問のモデル

英文を読む前に場面や状況を理解する

What graph (table) is this?	何のグラフ（表）ですか。
What does this mean?	これは何を表していますか。
What did you find out from this graph?	グラフから分かることをペアで話しましょう。
What is the poster about?	何についてのポスターですか。
Who wrote this mail?	誰が書いたメールですか。

必要な情報を把握する

Find out some information about~.	～についての情報を見付けましょう。
Read it thinking about ~.	～について考えながら読みましょう。
What is she introducing?	彼女は何を紹介していますか。
When and where is it?	いつ，どこで，それは行われますか。
What is his plan for the holidays?	休日の彼の予定は何ですか。
What do you have to do there?	そこでは何をしなければいけませんか。

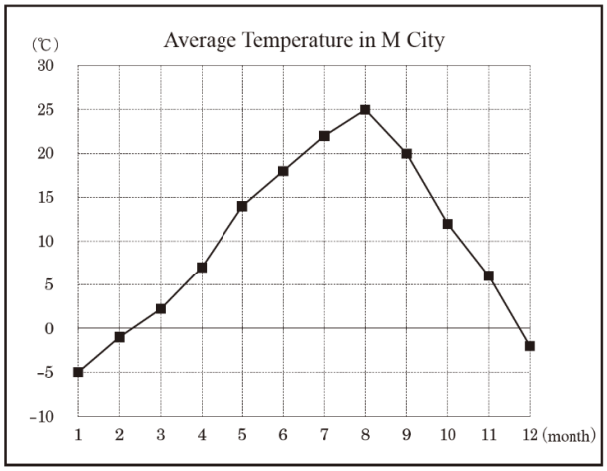
読み進める上での重要な語句や文を確認する

Find out the right word or phrase.	答えとなる語句を抜き出しましょう。
Underline the key sentence.	重要な文に線を引きましょう。
From where did you understand?	どの言葉から理解しましたか。
Why do you think so?	なぜそう思うのですか。
Share your ideas in groups.	グループで意見を共有しましょう。

小学校高学年では，絵本やパンフレット等から必要とする情報（語句）を抜き出す活動を取り入れるとよいですね。

平成31年度　調査問題

5（3）次のグラフは，M市の月ごとの平均気温（average temperature）を表しています。このグラフから読み取れることを正しく表している英文を，下の１から４までの中から１つ選びなさい。



1　It is colder than 0℃ in February and hotter than 20℃ in June.

2　October is not warmer than April.

3　It is hotter than 25℃ for three months.

4　It is the hottest in August and the coldest in January.

比較や月名を含んだ表現を理解し，正確に読み取ることに課題がある。

話すこと
（やり取り）

聞いて把握した内容について，やり取りする学習

一人一人とやり取りし，会話を継続・発展させる方法に気付かせましょう。

即興で応じたり質問したりする力を育てるためには，日頃の授業で一人一人とやり取りする機会を継続的に設定することが大切です。指導に当たっては，生徒とのやり取りを通して，会話を継続・発展させる方法を示したり，意図的に既習の文法事項を用いて生徒に振り返らせたりすることが大切です。

指示・発問のモデル

教師の会話を聞いて，話す内容を把握する

We're going to talk about "my hero".	ヒーローについて話します。
How do we continue the conversation?	どのように会話が続いていくか，気を付けながら聞いてみましょう。
Listen carefully.	
（モデル会話を聞かせる）	
Who is (ALT)'s hero?	(ALT)のヒーローは誰ですか。
Did you hear his(her) reason?	その理由を聞き取れましたか。
What questions did I ask?	どのような質問をしていましたか。

教師とやり取りしながら，会話の続け方を学ぶ

I will now ask each of you some questions about your hero.	これから，みなさんのヒーローについて，一人一人に聞いていきます。 ※T は教師，S1～S3は個々の生徒
T : Who is your hero, S1 san?	
S1: Tom!	
T : Who is he?	※会話を続けるために質問をする。
S1: He is a basketball player. He play… NBA.	
T : He plays in the NBA!! You like basketball, don't you! How about you, S2 san?	※生徒の意図を捉えて，英語で応答する。
S2: My hero is Yuka. She is a singer.	
T : Does she sing "*My memory*?"	※意図的に既習表現を使う。
S2: Yes, I do.	
T : You can say, "Yes, she …."	※言い直しをさせる。
S2: Yes, she does.	
T : Good! I think she is a good singer. OK, next. Who is your hero, S3 san?	※答えを受けて，自分の感想を伝える。
S3: Michael sensei is my hero. He is our English teacher.	
T : Why do you like him?	※会話を続けるために質問をする。
S3: He is cool. He speak…speaks English and Japanese.	
T : Very good!	

生徒同士でやり取りを行う

Talk about your hero with your friend.	ヒーローについて友達と話しましょう。
Then, ask each other many questions.	お互いにたくさん質問しましょう。
Please start with "Who is your hero?"	"Who is your hero?"で始めてください。

小学校ではSmall Talkなどの活動を通して，既習表現を繰り返し使用できる機会を多く設定しましょう。

書くこと

場面や状況から文の形式や動詞の形を適切に判断し，正確に書く学習

対話や文章の流れから，ふさわしい文の形式や時制を考えさせましょう。

場面や状況から文の形式や動詞の形を適切に判断し，正しく文を書くためには，実際のコミュニケーションにおいて言語材料を活用できる力を身に付けておくことが必要です。指導に当たっては，一文のみを示して空欄の動詞の形を変えさせるような活動ではなく，対話や文章の流れにふさわしい文の形式や時制を考えて書かせる活動を設定することが大切です。

指示・発問のモデル

書く前に話す活動で考える

A: Did you watch the soccer game yesterday?
B: Yes./No. (例 I watched a baseball game.)
A: Oh, really?

You will do this conversation in pairs.	この会話をペアで行います。
B answers, “Yes” or “No” and adds one sentence.	B は Yes か No で答えたら，一言加えて答えましょう。
Think of the verb form.	動詞の形を考えましょう。
Why do you think so?	なぜ，そう考えますか。
Continue the conversation after A.	A の後に会話を続けましょう。
Some pairs will present their conversation.	何組か発表してもらいます。

書いた後に時制などに注目して見直す

Write this down in your notebook.	ノートに会話を書きましょう。
Write your answer for B.	B に自分の答えを書きましょう。
Continue the conversation after A.	A の後の会話を書きましょう。
When you finish, check your English.	書いたら見直しましょう。
Pay attention to the past tense.	過去形に気を付けましょう。
Make pairs and check each other’s English.	ペアで英文を確認しましょう。
If you find any mistakes, please tell your friend.	もし間違いを見付けたら，教えてあげましょう。

小学校高学年では，書く相手や状況，目的を明らかにして，例となる文の一部を替えて，自分のことや身の回りのことについて書く活動を取り入るとよいですね。

平成31年度　調査問題

9 （2）次の①，②について例を参考にしながら，必要があれば（　）の語を適切な形に変えたり，不足している語を補ったりなどして，それぞれ会話が成り立つように英語を完成させなさい。

② ＜休み明けに教室で＞

A：Was your vacation good?

B：Yes. My family and I went to Australia.
（　　stay　　）there for two weeks.

A：Wow! Wonderful.

②正答例　We stayed

対話の流れから過去時制であることを判断し，正しく書くことに課題がある。

第 2 章
全国学力・学習状況調査結果

Ⅰ　全国学力・学習状況調査結果の概要

１　調査の目的

（１）義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る。

（２）そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（３）学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

２　調査実施日　平成３１年４月１８日（木）

３　調査対象（仙台市・国立・私立を除く）

対　象	調　査　事　項		参　加　状　況	
	教科に関する調査	質問紙調査	公立実施校	参加児童生徒数
小学校６年生	国語，算数	学習意欲,学習・生活習慣,規範意識・自己有用感等	２５１校	１０，４８５名
中学校３年生	国語，数学，英語		１３４校	１０，１３６名
学　校		授業改善，学習指導,学校運営,小・中連携等		

※小学校に義務教育学校（前期課程），特別支援学校（小学部）を含む。

※中学校に義務教育学校（後期課程），特別支援学校（中学部）を含む。

４　調査結果の概要

（１）教科に関する調査の結果

※宮城県…仙台市を除く

対　象	教　科	宮城県 平均正答率(%)	全　国 平均正答率(%)	全国とのかい離(P)	順位(参考) 東北	順位(参考) 全国
					( )…仙台市を含む	
小学校	国　語	６１	６４	**－３**	6 (6)	40(38)
	算　数	６４	６７	**－３**	6 (3)	43(33)

対　象	教　科	宮城県 平均正答率(%)	全　国 平均正答率(%)	全国とのかい離(P)	順位(参考) 東北	順位(参考) 全国
					( )…仙台市を含む	
中学校	国　語	７１	７３	**－２**	6 (2)	37(9)
	数　学	５５	６０	**－５**	6 (3)	46(34)
	英　語	５０	５６	**－６**	6 (3)	46(38)

（２）児童生徒の学習状況等に関する結果（児童生徒の回答）

① 県「学力向上に向けた５つの提言」に関する取組状況について

質問番号		質　問　事　項	小学校		中学校	
小	中		宮城県 児童の回答(%)	全国とのかい離(P)	宮城県 生徒の回答(%)	全国とのかい離(P)
(5)	(5)	・自分にはよいところがあると思いますか。	78.8	**−2.4**	69.8	**−4.3**
(6)	(6)	・先生は，よいところを認めてくれていると思いますか。	85.6	**−0.5**	79.7	**−1.8**
(17)	(17)	・家で，自分で計画を立てて勉強している。	76.7	**+5.2**	53.1	**+2.7**
(18)	(18)	・学校の授業以外に，普段（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強しますか（学習塾や家庭教師を含む，小…３０分以上，中…１時間以上）。	94.0	**+3.8**	64.2	**−5.6**
(42)	(45)	・国語の授業では，目的に応じて，自分の考えを話したり書いたりしていますか。	78.1	**0**	79.5	**+2.1**
(39)	(42)	・国語の授業の内容はよく分かりますか。	86.5	**+1.6**	80.3	**+2.7**
(48)	(51)	・算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか。	85.0	**+1.5**	73.0	**−0.9**
	(56)	・英語の授業はよく分かりますか。			62.3	**−3.7**

② 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

質問番号		質　問　事　項	小学校		中学校	
小	中		宮城県 児童の回答(%)	全国とのかい離(P)	宮城県 生徒の回答(%)	全国とのかい離(P)
(29)	(32)	・話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができた。	73.2	**−0.9**	73.2	**+0.4**
(35)	(37)	・課題の解決に向けて，自分で考え，自分から進んで取り組んでいたと思いますか。	79.1	**+1.4**	76.1	**+1.3**
(36)	(38)	・自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。	64.1	**+1.6**	55.7	**−0.1**

（３）学校の授業改善・学校運営等に関する結果（学校の回答）

① 県 「学力向上に向けた５つの提言」に関する取組状況について

質問番号		質　問　事　項	小学校		中学校	
小	中		宮城県 学校の回答(%)	全国とのかい離(P)	宮城県 学校の回答(%)	全国とのかい離(P)
(14)	(14)	・児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行いましたか。	99.6	**+0.8**	98.5	**−0.1**
(59)	(73)	・家庭学習の課題の与え方について，校内の教職員で共通理解を図りましたか。	96.5	**+4.3**	91.0	**+4.0**
(60)	(74)	・学校では，児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか。	97.6	**+2.1**	95.5	**+3.2**

② 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

質問番号		質　問　事　項	小学校		中学校	
小	中		宮城県 学校の回答(%)	全国とのかい離(P)	宮城県 学校の回答(%)	全国とのかい離(P)
(32)	(33)	・授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組むことができていると思いますか。	87.6	**+2.1**	83.6	**+1.0**
(37)	(37)	・習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。	92.0	**+2.7**	87.3	**−0.7**
(38)	(38)	・各教科で身に付けたことを，様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。	91.2	**+6.5**	79.1	**+1.2**

③ 学校運営に関する取組状況について

質問番号		質　問　事　項	小学校		中学校	
小	中		宮城県学校の回答(%)	全国とのかい離(P)	宮城県学校の回答(%)	全国とのかい離(P)
(17)	(17)	・児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，教育課程を編成し，実施し評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。	99.2	**+3.8**	97.0	**+3.6**
(20)	(20)	・全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し，具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。	91.7	**−3.6**	85.9	**−7.8**
(21)	(21)	・学校として業務改善に取り組んでいますか。	99.6	**+1.1**	95.5	**−2.3**
(52)	(66)	・近隣等の小（中）学校と授業研究を行うなど，合同して研修を行いましたか。	62.9	**−7.7**	71.6	**−4.6**
(53)	(67)	・平成３０年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について，近隣等の小（中）学校と成果や課題を共有しましたか。	58.1	**−2.5**	61.2	**+1.2**

５　今後の対応

宮城県教育委員会では，指導主事学校訪問，学力向上研究指定校事業，学力向上成果普及マンパワー活用事業，全国学力・学習状況調査活用研修会，算数チャレンジ（算チャレ）の実施等により学力向上対策に力を入れてきた。

今後も市町村教育委員会と課題意識の共有を図りながら，学力向上に向けた教育活動の改善と充実を目指していくとともに，以下の点について力を入れていく。

① 各研修会等において，「学力向上に向けた５つの提言」の一層の実践化・自校化を図り，主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を促進する。

② 全ての小・中学校の教科主任，研究主任等を対象に，「学力向上研修会及び学力・学習状況調査活用研修会」を開催し，学力調査官を講師に招聘し，新学習指導要領を踏まえた全国学力・学習状況調査の考え方を周知するとともに，各学校の分析結果を授業改善に生かすよう働き掛けていく。

③ 外国語指導力向上研修会を開催し，小中連携を図りながら指導力の向上を促進する。また，英語能力測定テスト（英検ＩＢＡ）を活用し，生徒の学習意欲を高めていく。

④ 県指定の学力向上研究指定校の成果を公開研究会等において域内に広く発信するとともに，指導主事学校訪問等を通して確かな協働による授業づくりを促進する。

⑤「市町村教育委員会との連携による学校サポート事業」を通して，全国学力・学習状況調査の課題等を踏まえ，近隣の小・中学校による合同研修や授業研究に取り組み，「小中連携」による学力向上を促進する。

⑥ 県と市町村教育委員会が連携し，学力向上の自立的なＰＤＣＡサイクルの確立を目指す「学力向上マネジメント支援事業」の成果等について，研修等で広く発信していく。

学力向上に向けた５つの提言

平成25年10月16日　宮城県教育委員会

1　どの子供にも積極的に声掛けをするとともに，子供の声に耳を傾けること。
2　子供をほめること，認めること。
3　授業のねらいを明確にするとともに，授業の終末に適用問題や小テスト，授業感想を書く時間を位置付けること。
4　自分の考えをノートにしっかり書かせること。
5　家庭学習の時間を確保すること。

Ⅱ　各教科の調査の結果

１　小学校国語

（県平均正答率は仙台市を除いた数値である）

(1) 結果の概要

○　県平均正答率は，61％である。

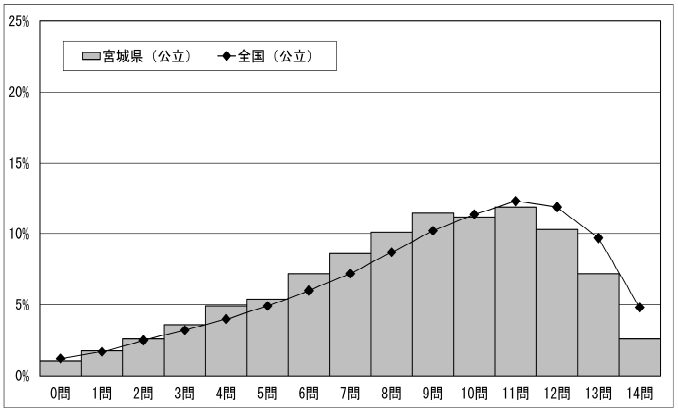
○　県平均正答率が全国平均正答率と同じ，もしくは上回った問題は14問中２問で，漢字の書きに関する問題と「読むこと」領域の問題だった。

【平均正答率の推移】

年度		正答率		
		宮城県（公立）	全国（公立）	かい離
平３１		61%	64%	-3
平３０	A知識	67%	71%	-4
	B活用	52%	55%	-3
平２９	A知識	73%	75%	-2
	B活用	54%	58%	-4

(2) 正答数分布状況

【平成３１年度正答数度数分布グラフ】



	宮城県（公立）	全国（公立）
対象児童数	10,485人	1,028,203人
平均正答数	8.5問／14問	8.9問／14問
平均正答率	61%	63.8%
中央値	9.0問	10.0問
最頻値	11問	11問

(3) 領域別の平均正答率

	問題数	正答率		
		宮城県（公立）	全国（公立）	差異
話すこと・聞くこと	3	70.1	72.3	-2.2
書くこと	3	53.0	54.5	-1.5
読むこと	3	80.2	81.7	-1.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	47.8	53.5	-5.7

○　全ての領域において，県平均正答率は，全国平均正答率を下回っている。

○　全国平均正答率とのかい離が最も大きかったのは，「伝統的な言語文化と特語の特質に関する事項」だった。

○　全国平均正答率とのかい離が最も小さかったのは，「書くこと」領域と「読むこと」領域だった。

(4) 問題別調査結果

○　正答率のかい離が大きい（±3 ポイント以上）問題

（◇：かい離がプラス　◆かい離がマイナス，［ ］内の記号は問題番号）

【話すこと・聞くこと】

◆　畳職人への【インタビューの様子】の［　　］の場面における，質問の工夫として適切なものを選択する　［３二］

【書くこと】　なし

【読むこと】　なし

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

◆　公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の　　部ウを，漢字を使って書き直す　（かんしんをもってもらいたい）　［１四（１）ウ］

◆　公衆電話について調べたことを【報告する文章】の　　の１文を，接続語「そこで」を使って２文に分けて書き直す　［１四（２）］

○　無解答率のかい離が大きい（±３ポイント以上）問題

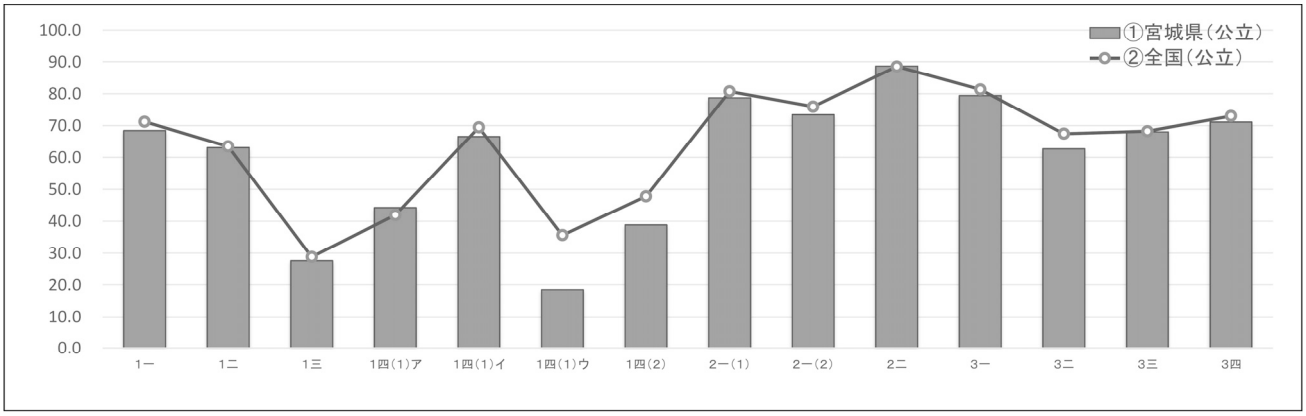
なし

問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため，それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は，実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率のかい離	無解答率のかい離
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	①宮城県（公立）	②全国（公立）	③宮城県（公立）	④全国（公立）	（①－②）	（③－④）
1一	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料２〉と〈資料３〉をそれぞれどのような目的で用いているか，適切なものを選択する		5・6 エ			○			68.4	71.2	0.4	0.5	−2.8	−0.1
1二	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「（２）公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する		5・6 ウ			○			63.1	63.4	6.5	5.9	−0.3	0.6
1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の［　　］に，「２　調査の内容と結果」の（１）と（２）で分かったことをまとめて書く		5・6 ウ					○	27.6	28.8	3.7	3.8	−1.2	−0.1
1四（1）ア	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の――部アを，漢字を使って書き直す （調査のたいしょう）				5・6 (1)ウ（ア）		○		44.2	41.9	8.4	8.2	2.3	0.2
1四（1）イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の――部イを，漢字を使って書き直す （友達にかぎらず）				5・6 (1)ウ（ア）		○		66.5	69.4	13.5	12.1	−2.9	1.4
1四（1）ウ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の――部ウを，漢字を使って書き直す （かんしんをもってもらいたい）				5・6 (1)ウ（ア）		○		18.4	35.6	5.2	4.9	−17.2	0.3
1四（2）	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の［　　］の１文を，接続語「そこで」を使って２文に分けて書き直す				3・4 (1)イ（ク）		○		38.8	47.8	14.1	11.3	−9.0	2.8
2一（1）	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の［ア］に入る，［疑問に思ったこと］の①に対する答えとして適切なものを選択する			5・6 ウ		○			78.7	80.7	0.9	1.4	−2.0	−0.5
2一（2）	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の［イ］に，［疑問に思ったこと］の②に対する答えになるように考えて書く			5・6 ウ				○	73.4	75.9	5.3	5.0	−2.5	0.3
2二	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために，選んだ本の【目次の一部】から，読むページとして適切なものを選択する			5・6 イ		○			88.6	88.5	3.7	4.2	0.1	−0.5
3一	畳職人への【インタビューの様子】の［ア］に入る，自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する	5・6 エ				○			79.4	81.3	2.9	3.4	−1.9	−0.5
3二	畳職人への【インタビューの様子】の［　　］の場面における，質問の工夫として適切なものを選択する	5・6 エ				○			62.7	67.4	3.9	4.2	−4.7	−0.3
3三	【インタビューの様子】の［イ］に，畳職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	5・6 エ						○	68.0	68.2	14.9	14.2	−0.2	0.7
3四	ことわざの使い方の例として，【ノートの一部】の［ウ］に入る適切なものを選択する（習うより慣れよ）				3・4 (1)ア（イ）	○			71.1	73.0	7.2	7.9	−1.9	−0.7

問題別の正答率



２　小学校算数

（県平均正答率は仙台市を除いた数値である）

(1) 結果の概要

○　県平均正答率は，64%である。

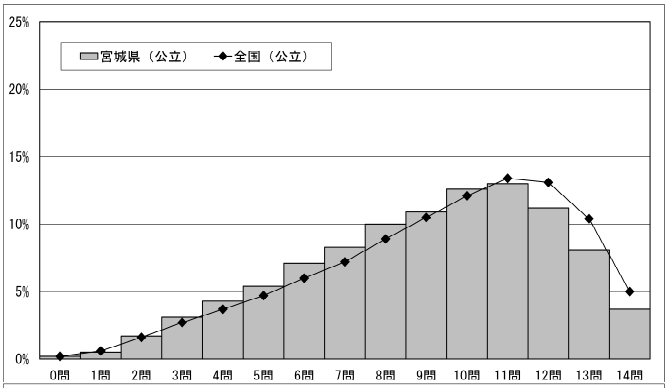
○　県平均正答率が全国平均正答率と同じ，もしくは上回った問題は14問中３問で，「図形」，「数量関係」，「数と計算」領域の問題だった。

【平均正答率の推移】

年度		正答率		
		宮城県（公立）	全国（公立）	かい離
平３１		64%	67	-3
平３０	Ａ知識	60%	64%	-4
	Ｂ活用	47%	52%	-5
平２９	Ａ知識	76%	79%	-3
	Ｂ活用	42%	46%	-4

(2) 正答数分布状況

【平成３１年度正答数度数分布グラフ】



	宮城県（公立）	全国（公立）
対象児童数	10,484人	1,028,177人
平均正答数	9.0問／14問	9.3問／14問
平均正答率	64%	66.6%
中央値	9.0問	10.0問
最頻値	11問	11問

(3) 領域別の平均正答率

	問題数	正答率		
		宮城県（公立）	全国（公立）	差異
数と計算	7	61.2	63.2	-2.0
量と測定	3	47.3	52.9	-5.6
図形	2	76.0	76.7	-0.7
数量関係	7	65.5	68.3	-2.8

※複数の領域に関することを１つの設問で問う場合がある。

○　全ての領域において，県平均正答率は，全国平均正答率を下回っている。

○　全国平均正答率とのかい離が最も大きかったのは，「量と測定」領域だった。

○　全国平均正答率とのかい離が最も小さかったのは，「図形」領域だった。

(4) 問題別調査結果

○　正答率のかい離が大きい（±３ポイント以上）問題

（◇：かい離がプラス　◆かい離がマイナス，［ ］内の記号は問題番号）

【数と計算】

◆　何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求める式を書く［４（２）］

【量と測定】

◆　減法の式が，示された形の面積をどのように求めているのかを，数や演算の表す内容に着目して書く［１（３）］

◆　二つの棒グラフから，一人当たりの水の使用量についてわかることを選び，選んだわけを書く［２（３）］（【数量関係領域】と関連）

◆　残り７ポール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し，２４分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する［４（３）］（【数量関係領域】と関連）

【図形】

なし

【数量関係】

◆　だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために，調べる必要のある事柄を選ぶ［４（１）］

○　無解答率のかい離が大きい（±３ポイント以上）問題

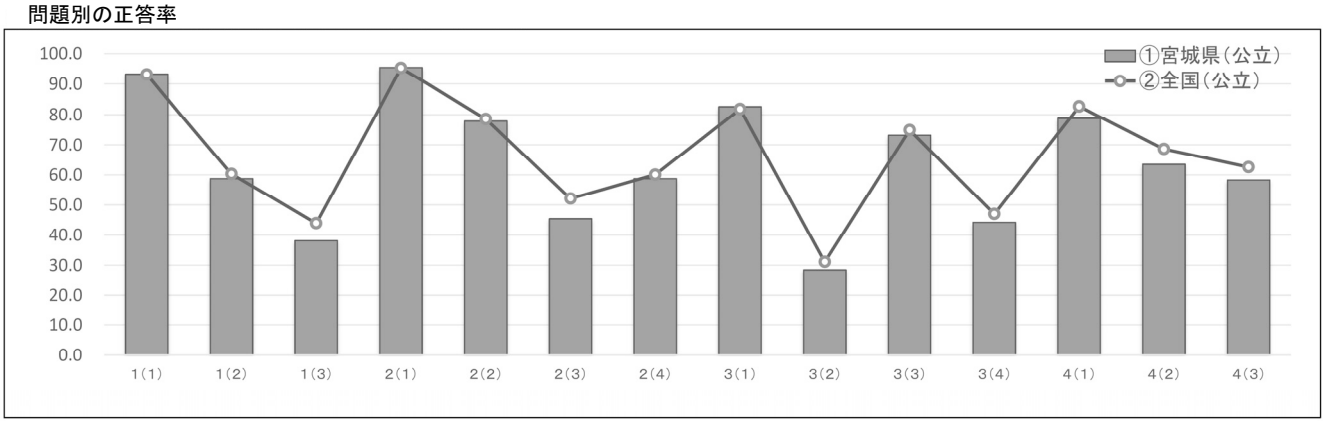
なし

問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため，それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は，実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率のかい離	無解答率のかい離
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	①宮城県（公立）	②全国（公立）	③宮城県（公立）	④全国（公立）	（①－②）	（③－④）
１（１）	長方形を直線で切ってできた図形の中から，台形を選ぶ			４（１）アイ		○			93.2	93.1	0.0	0.1	0.1	−0.1
１（２）	二つの合同な台形を，ずらしたり，回したり，裏返したりして，同じ長さの辺どうしを合わせてつくることができる形を選ぶ			４（１）イ ５（１）イ		○			58.7	60.3	0.6	0.6	−1.6	0.0
１（３）	減法の式が，示された形の面積をどのように求めているのかを，数や演算の表す内容に着目して書く		５（１）ア					○	38.1	43.9	7.0	6.7	−5.8	0.3
２（１）	１９８０年から２０１０年までの，１０年ごとの市全体の水の使用量について，棒グラフからわかることを選ぶ				３（３）ア	○			95.4	95.2	0.1	0.2	0.2	−0.1
２（２）	２０１０年の市全体の水の使用量が１９８０年の市全体の水の使用量の約何倍かを，棒グラフから読み取って書く	４（３）イ			３（３）ア		○		77.9	78.6	0.7	1.0	−0.7	−0.3
２（３）	二つの棒グラフから，一人当たりの水の使用量についてわかることを選び，選んだわけを書く		５（４）ア		３（３）ア			○	45.4	52.1	1.9	2.0	−6.7	−0.1
２（４）	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために，６＋０．５×２を計算する	４（５）ウ			４（２）ア		○		58.7	60.1	0.7	1.0	−1.4	−0.3
３（１）	３５０－９７について，引く数の９７を１００にした式にして計算するとき，ふさわしい数値の組み合わせを書く	３（２）イウ					○		82.6	81.8	0.8	0.9	0.8	−0.1
３（２）	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に，除法の計算の仕方についてまとめると，どのようになるのかを書く	３（２）ウ ４（３）エ						○	28.4	31.1	11.1	10.8	−2.7	0.3
３（３）	被除数と除数にかける数や割る数を選び，６００÷１５を計算しやすい式にして計算する	４（３）イエ					○		73.2	74.9	1.9	2.1	−1.7	−0.2
３（４）	１８００÷６は，何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ	５（３）アイウ			３（１）	○			44.2	47.0	1.8	2.2	−2.8	−0.4
４（１）	だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために，調べる必要のある事柄を選ぶ				４（１）	○			78.8	82.7	1.4	1.7	−3.9	−0.3
４（２）	何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求める式を書く	３（３）イ					○		63.5	68.6	4.2	4.4	−5.1	−0.2
４（３）	残り７ポール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し，２４分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する		５（４）ア		５（１）ア			○	58.3	62.6	3.2	3.5	−4.3	−0.3

問題別の正答率



３　中学校国語

（県平均正答率は仙台市を除いた数値である）

(1) 結果の概要

○　県平均正答率は，71％である。

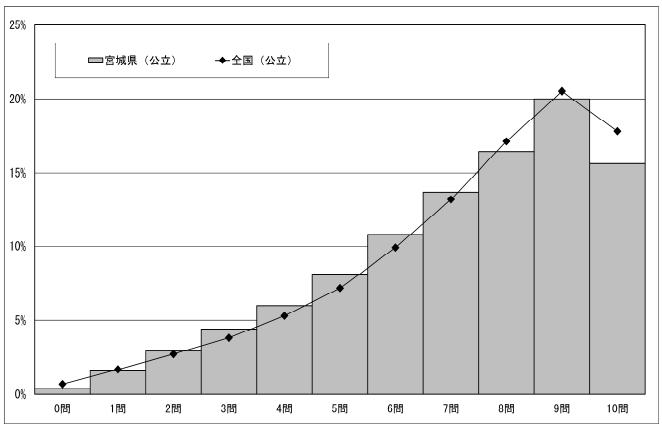
○　県平均正答率が全国平均正答率と同じ，もしくは上回った問題は10問中１問で，「読むこと」領域の問題だった。

【平均正答率の推移】

年度		正答率		
		宮城県（公立）	全国（公立）	かい離
平３１		71％	73％	－２
平３０	Ａ知識	75％	76％	-1
	Ｂ活用	59％	61％	-2
平２９	Ａ知識	74％	77％	-3
	Ｂ活用	70％	72％	-2

(2) 正答数分布状況

【平成３１年度正答数度数分布グラフ】



	宮城県（公立）	全国（公立）
生徒数	10,136人	938,797人
平均正答数	7.1問／10問	7.3問／10問
平均正答率	71％	72.8％
中央値	8.0問	8.0問
最頻値	9問	9問

(3) 領域別の平均正答率

	問題数	正答率		
		宮城県（公立）	全国（公立）	差異
話すこと・聞くこと	3	68.9	70.2	-1.3
書くこと	2	81.4	82.6	-1.2
読むこと	3	70.9	72.2	-1.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	65.8	67.7	-1.9

○　全ての領域において，県平均正答率は，全国平均正答率を下回っている。

○　全国平均正答率とのかい離が最も大きかったのは,「伝統的な言語文化と特語の特質に関する事項」だった。

○　全国平均正答率とのかい離が最も小さかったのは,「話すこと・聞くこと」領域と「読むこと」領域だった。

(4) 問題別調査結果

○　正答率のかい離が大きい（±3 ポイント以上）問題

（◇：かい離がプラス　◆かい離がマイナス，［ ］内の記号は問題番号）

【話すこと・聞くこと】　なし

【書くこと】　なし

【読むこと】

◆　「日本の文化の中には，海外でも広く知られているものがあります。……第一回は，弁当です。」について説明したものとして適切なものを選択する　［１一］

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

◆　語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する　［４］

○　無解答率のかい離が大きい（±３ポイント以上）問題

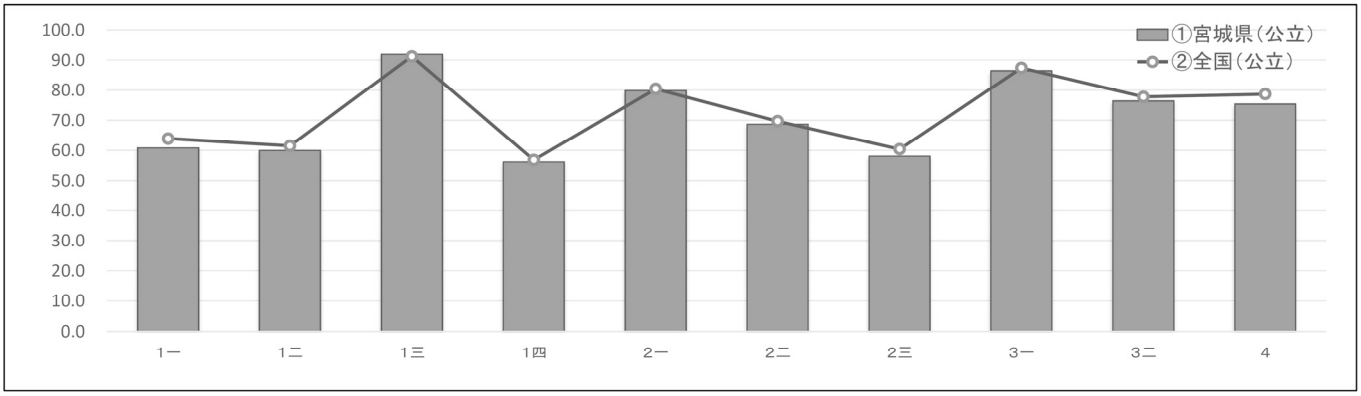
なし

問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため，それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は，実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率のかい離	無解答率のかい離
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	①宮城県（公立）	②全国（公立）	③宮城県（公立）	④全国（公立）	（①－②）	（③－④）
1一	「日本の文化の中には，海外でも広く知られているものがあります。……第一回は，弁当です。」について説明したものとして適切なものを選択する			2ウ		○			60.8	63.9	0.1	0.1	-3.1	0.0
1二	「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている，弁当の魅力として適切なものを選択する			1イ		○			59.9	61.5	0.0	0.1	-1.6	-0.1
1三	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び，感じたことや考えたことを書く			1オ				○	91.9	91.2	1.5	1.7	0.7	-0.2
1四	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために，投稿先の名前と住所を書く				1(2)ア		○		56.1	56.8	6.4	5.6	-0.7	0.8
2一	話合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	1オ				○			79.9	80.4	0.1	0.2	-0.5	-0.1
2二	話合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	1ウ				○			68.7	69.7	0.2	0.3	-1.0	-0.1
2三	話合いの流れを踏まえ，「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く	1オ						○	58.0	60.4	9.5	8.9	-2.4	0.6
3一	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する		2エ			○			86.4	87.4	0.4	0.4	-1.0	0.0
3二	広報誌の一部にある情報を用いて，意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える		1ウ					○	76.4	77.8	7.9	7.9	-1.4	0.0
4	語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する				1(1)イ(ウ)	○			75.4	78.7	1.4	1.2	-3.3	0.2

問題別の正答率



４　中学校数学

（県平均正答率は仙台市を除いた数値である）

(1) 結果の概要

○　県平均正答率は，55%である。

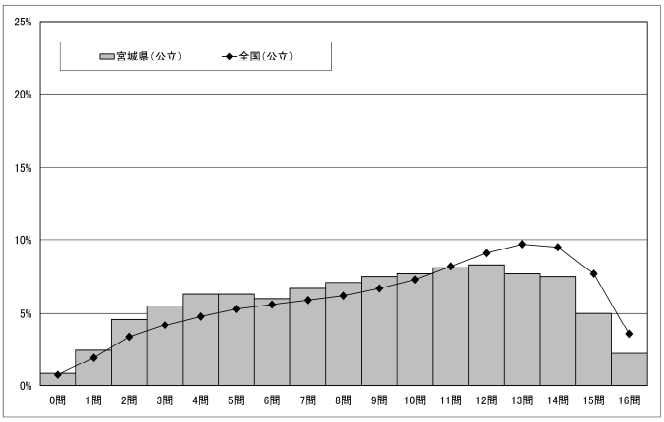
○　県平均正答率が全国平均正答率と同じ，もしくは上回った問題はなかった。

【平均正答率の推移】

年度		正答率		
		宮城県（公立）	全国（公立）	かい離
平３１		55%	60%	-5
平３０	Ａ知識	61%	66%	-5
	Ｂ活用	43%	47%	-4
平２９	Ａ知識	59%	65%	-6
	Ｂ活用	44%	48%	-4

(2) 正答数分布状況

【平成３１年度正答数度数分布グラフ】



	宮城県（公立）	全国（公立）
生徒数	10,133人	938,887人
平均正答数	8.7問／16問	9.6問／16問
平均正答率	55%	59.8%
中央値	9.0問	10.0問
最頻値	12問	13問

(3) 領域別の平均正答率

	問題数	正答率		
		宮城県（公立）	全国（公立）	差異
数と式	5	59.0	63.8	-4.8
図形	4	68.7	72.4	-3.7
関数	3	33.1	40.8	-7.7
資料の活用	4	51.0	56.3	-5.3

○　全ての領域において，県平均正答率は，全国平均正答率を下回っている。

○　全国平均正答率とのかい離が最も大きかったのは，「関数」領域だった。

○　全国平均正答率とのかい離が最も小さかったのは，「図形」領域だった。

(4) 問題別調査結果

○　正答率のかい離が著しく大きい（±５ポイント以上）問題

（◇：かい離がプラス　◆かい離がマイナス，［ ］内の記号は問題番号）

【数と式】

◆　連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く［２］

【図形】

◆　証明で用いられている三角形の合同条件を書く［７（１）］

【関数】

◆　反比例の表から式を求める［４］

◆　冷蔵庫Ｂと冷蔵庫Ｃについて，式やグラフを用いて，２つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する［６（２）］

【資料の活用】

◆　２枚の１０円硬貨を同時に投げるとき，２枚とも表の出る確率を求める［５］

◆　読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から，読んだ本の冊数の最頻値を求める［８（１）］

○　無解答率のかい離が大きい（±３ポイント以上）問題

・反比例の表から式を求める［４］

・四角形ＡＢＣＤがどのような四角形であれば，ＡＦ＝ＣＥになるかを説明する［７（３）］

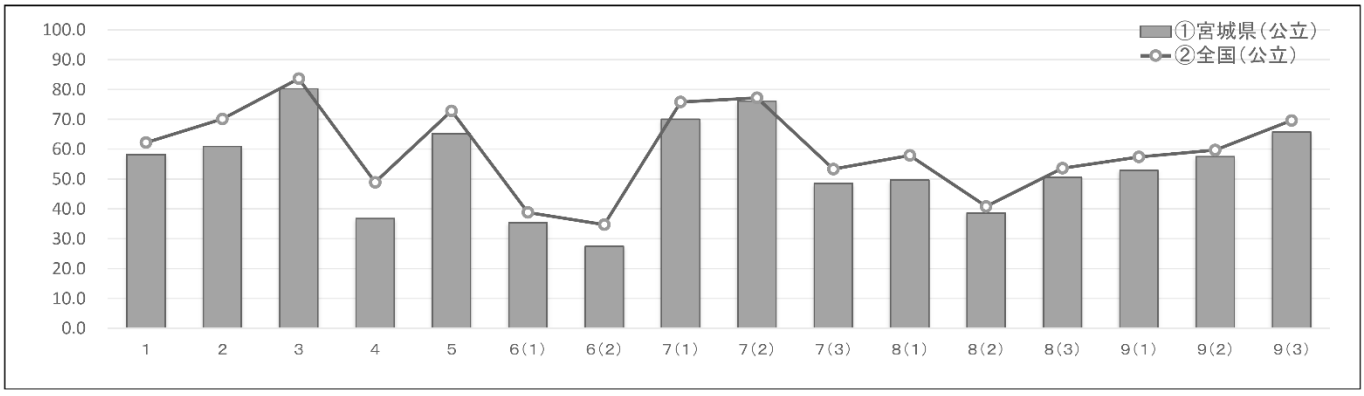
・読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から，読んだ本の冊数の最頻値を求める［８（１）］

問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため，それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は，実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率（%）		無解答率（%）		正答率のかい離（①－②）	無解答率のかい離（③－④）
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	①宮城県（公立）	②全国（公立）	③宮城県（公立）	④全国（公立）		
1	a と b が正の整数のとき，四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ	1（1）ア				○			58.2	62.2	0.1	0.2	−4.0	−0.1
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y=-2x+1 \\ y=x-5 \end{cases}$ を解く	2（2）ウ					○		60.9	70.1	7.0	5.1	−9.2	1.9
3	△ＡＢＣを，矢印の方向に△ＤＥＦまで平行移動したとき，移動の距離を求める		1（1）イ				○		80.2	83.6	0.5	0.7	−3.4	−0.2
4	反比例の表から式を求める			1（1）エ			○		36.7	48.9	13.4	10.4	−12.2	3.0
5	２枚の１０円硬貨を同時に投げるとき，２枚とも表の出る確率を求める				2（1）ア		○		65.2	72.8	4.3	3.3	−7.6	1.0
6（1）	冷蔵庫Ａの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて，点Ｐの y 座標と点Ｑの y 座標の差が表すものを選ぶ			2（1）イ，エ		○			35.3	38.8	0.3	0.3	−3.5	0.0
6（2）	冷蔵庫Ｂと冷蔵庫Ｃについて，式やグラフを用いて，２つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する			2（1）イ，エ				○	27.4	34.7	12.3	11.6	−7.3	0.7
7（1）	証明で用いられている三角形の合同条件を書く		2（2）ア				○		70.0	75.8	6.2	5.2	−5.8	1.0
7（2）	ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ		2（2）イ			○			76.1	77.2	0.4	0.5	−1.1	−0.1
7（3）	四角形ＡＢＣＤがどのような四角形であれば，ＡＦ＝ＣＥになるかを説明する		2（2）ウ					○	48.5	53.3	20.6	17.6	−4.8	3.0
8（1）	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から，読んだ本の冊数の最頻値を求める				1（1）ア		○		49.7	57.9	13.6	10.6	−8.2	3.0
8（2）	「１日に２６分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を，ヒストグラムの特徴を基に説明する				1（1）イ			○	38.6	40.8	23.9	21.3	−2.2	2.6
8（3）	図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ				1（1）ア，イ	○			50.6	53.6	0.8	1.0	−3.0	−0.2
9（1）	説明をよみ，$6n+9$ を $3(2n+3)$ に変形する理由を完成する	2（1）イ，ウ					○		52.9	57.4	10.9	9.5	−4.5	1.4
9（2）	連続する５つの奇数の和が中央の奇数の５倍になることの説明を完成する	2（1）イ，ウ						○	57.5	59.7	18.7	17.8	−2.2	0.9
9（3）	連続する４つの奇数の和が $4(2n+4)$ で表されたとき，$2n+4$ はどんな数であるかを選ぶ	2（1）イ，ウ				○			65.7	69.6	2.0	1.9	−3.9	0.1

問題別の正答率



５　中学校英語

（県平均正答率は仙台市を除いた数値である）

(1) 結果の概要

○　県平均正答率は，50%である。

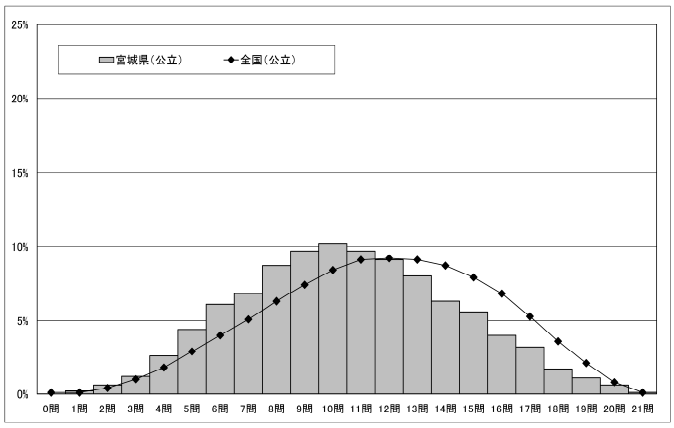
○　県平均正答率が全国平均正答率と同じ，もしくは上回った問題はなかった。

【平均正答率の推移】

年度	正答率		
	宮城県（公立）	全国（公立）	かい離
平３１	50%	56%	-6

(2) 正答数分布状況

【平成３１年度正答数度数分布グラフ】



	宮城県（公立）	全国（公立）
生徒数	10,133人	938,888人
平均正答数	10.6問/21問	11.8問/21問
平均正答率	50%	56.0%
中央値	10.0問	12.0問
最頻値	10問	12問

(3) 領域別の平均正答率

	問題数	正答率		
		宮城県（公立）	全国（公立）	差異
聞くこと	7	64.5	67.9	-3.4
話すこと（参考値）				
読むこと	6	51.5	55.6	-4.1
書くこと	8	37.2	45.8	-8.6

○　全ての領域において，県平均正答率は，全国平均正答率を下回っている。

○　全国平均正答率とのかい離が最も大きかったのは，「書くこと」領域だった。

○　全国平均正答率とのかい離が最も小さかったのは，「聞くこと」領域だった。

(4) 問題別調査結果

○　正答率のかい離が著しく大きい（±5ポイント以上）問題

（◇：かい離がプラス　◆かい離がマイナス，［ ］内の記号は問題番号）

【聞くこと】

◆　外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて，その内容を最も適切に表している絵を選択する　［１（３）］

◆　家での会話を聞いて，その内容を最も適切に表している絵を選択する　［１（４）］

【読むこと】

◆　月ごとの平均気温を表したグラフを見て，その内容を正しく表している英文を選択する　［５（３）］【書くこと】

◆　文中の空所に入れる接続詞として，最も適切なものを選択する　［９（１）①，②］

◆　与えられた英語を適切な形に変えたり，不足している語を補ったりなどして，会話が成り立つように英文を書く　［９（２）①，②］

◆　与えられた情報に基づいて，ある女性を説明する英文を書く　［９（３）①，②，③］

○　無解答率のかい離が大きい（±３ポイント以上）問題

【聞くこと】

◆　来日する留学生の音声メッセージを聞いて，部活動についてのアドバイスを書く　［４］

【読むこと】

◆　食料問題について書かれた資料を読んで，その問題に対する自分の考えを書く　［８］

【書くこと】

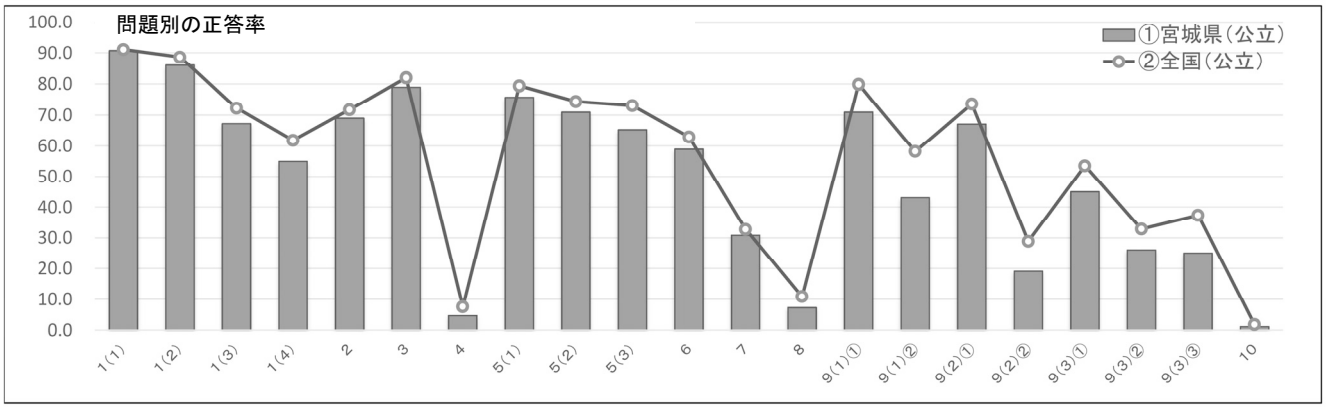
◆　与えられた英語を適切な形に変えたり，不足している語を補ったりなどして，会話が成り立つように英文を書く　［９（２）②］

◆　与えられた情報に基づいて，ある女性を説明する英文を書く　［９（３）②，③］

問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため，それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は，実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率のかい離	無解答率のかい離
		聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	選択式	短答式	記述式	①宮城県（公立）	②全国（公立）	③宮城県（公立）	④全国（公立）	（①－②）	（③－④）
1（1）	ある状況を描写する英語を聞いて，その内容を最も適切に表している絵を選択する	(ア)(イ)				○			90.7	91.1	0.1	0.2	−0.4	−0.1
1（2）	教室英語を聞いて，その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する	(ア)(イ)				○			86.0	88.6	0.1	0.1	−2.6	0.0
1（3）	外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて，その内容を最も適切に表している絵を選択する	(ア)(イ)				○			67.2	72.3	0.2	0.2	−5.1	0.0
1（4）	家での会話を聞いて，その内容を最も適切に表している絵を選択する	(ア)(イ)				○			54.9	61.8	0.2	0.2	−6.9	0.0
2	イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて，話の展開に合わせて示す絵を並び替える	(オ)				○			69.0	71.8	0.1	0.2	−2.8	−0.1
3	天気予報を聞いて，ピクニックに行くのに最も適する曜日を選択する	(オ)				○			78.9	82.0	0.1	0.2	−3.1	−0.1
4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて，部活動についてのアドバイスを書く	(ウ)						○	4.7	7.6	47.2	42.3	−2.9	4.9
5（1）	ある場所を説明する英文を読んで，空所に入る語句として最も適切なものを選択する			(イ)		○			75.7	79.4	0.1	0.2	−3.7	−0.1
5（2）	ある状況を描写する英文を読んで，その内容を最も適切に表している絵を選択する			(イ)		○			71.0	74.4	0.1	0.2	−3.4	−0.1
5（3）	月ごとの平均気温を表したグラフを見て，その内容を正しく表している英文を選択する			(イ)		○			65.2	73.1	0.4	0.4	−7.9	0.0
6	発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで，話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する			(ウ)		○			58.9	62.9	0.3	0.4	−4.0	−0.1
7	チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで，書き手が最も伝えたい内容を選択する			(ウ)		○			30.8	32.8	1.1	1.0	−2.0	0.1
8	食糧問題について書かれた資料を読んで，その問題に対する自分の考えを書く			(オ)				○	7.2	10.9	34.0	27.9	−3.7	6.1
9（1）①	文中の空所に入れる接続詞として，最も適切なものを選択する				(ア)(イ)	○			71.0	79.9	0.2	0.3	−8.9	−0.1
9（1）②	文中の空所に入れる接続詞として，最も適切なものを選択する				(ア)(イ)	○			43.1	58.2	0.5	0.5	−15.1	0.0
9（2）①	与えられた英語を適切な形に変えたり，不足している語を補ったりなどして，会話が成り立つように英文を書く				(ア)(イ)		○		67.1	73.6	5.5	4.4	−6.5	1.1
9（2）②	与えられた英語を適切な形に変えたり，不足している語を補ったりなどして，会話が成り立つように英文を書く				(ア)(イ)		○		19.1	28.9	17.0	12.6	−9.8	4.4
9（3）①	与えられた情報に基づいて，ある女性を説明する英文を書く				(ア)(イ)		○		45.0	53.5	8.1	6.4	−8.5	1.7
9（3）②	与えられた情報に基づいて，ある女性を説明する英文を書く				(ア)(イ)		○		26.0	32.9	12.3	9.3	−6.9	3.0
9（3）③	与えられた情報に基づいて，ある女性を説明する英文を書く				(ア)(イ)		○		25.0	37.4	15.0	10.5	−12.4	4.5
10	学校を表す２つのピクトグラム（案内用図記号）の案を比較して，どちらがよいか理由とともに意見を書く				(オ)			○	1.1	1.8	10.1	8.3	−0.7	1.8



Ⅲ　児童生徒質問紙調査結果の概要（抜粋）

※　児童生徒質問紙の内容から，宮城の子供たちの課題と思われる事項を抜粋しました。

表の見方について

No	質問事項	番号	H3	
			仙台市を除く	県−全
1	家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか	小17	76.7	5.2
		中17	53.1	2.7
	30分以上		24.1	0.0
	1時間以上		47.1	10.3

・「番号」：児童生徒質問紙の質問番号
・「仙台市を除く」：「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計の割合（%）
・「県－全」県（仙台市を除く）の値と全国値との差

（◇：肯定的な割合がプラス　◆：肯定的な割合がマイナス
［　］内：全国値とのかい離）

1　家庭での学習状況等

家で計画を立てて勉強をしている割合は，小・中学生とも全国値と比較して上回っている。しかし，家庭で学習している時間については，２時間以上３時間未満，３時間以上と時間が長くなるにつれ全国値とのかい離が大きくなっている傾向がある。

◇「家で，自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した小・中学生の割合
小学生［+5.2］中学生［+2.7］

◇「学校の授業時間以外に，普段，１日当たり１時間以上２時間未満勉強をしている」と回答した小・中学生の割合　小学生［+10.3］中学生［+3.9］

◆「学校の授業時間以外に，普段，１日当たり２時間以上３時間未満勉強をしている」と回答した小・中学生の割合　小学生［-0.4］　中学生［-4.8］

◆「学校の授業時間以外に，普段，１日当たり３時間以上勉強をしている」と回答した小・中学生の割合　小学生［-6.1］　中学生［-4.7］

No	質問事項		番号	H31				H30		H29		H28	
				仙台市を除く	県−全	仙台市を含む	宮−全	仙台市を含む	宮−全	仙台市を含む	宮−全	仙台市を含む	宮−全
1	家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか		小17	76.7	5.2	75.6	4.1	71.1	2.3	68.8	4.3	67.3	5.1
			中17	53.1	2.7	55.7	5.3	56.4	4.3	56.3	1.8	52.2	3.8
2	学校の授業時間以外に，普段（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）	30分以上	小18	24.1	0.0	24.8	24.1	25.1	1.3	90.6	1.9	90.7	2.8
		１時間以上		47.1	10.3	43.7	36.8	43.4	6.5	65.4	1.0	64.4	1.9
		２時間以上		16.5	-0.4	16.6	16.9	16.4	-0.4	21.8	-5.3	20.5	-5.0
		３時間以上		6.3	-6.1	7.6	12.4	7.4	-5.1	7.1	-4.8	6.1	-4.7
		30分以上	中18	21.6	4.4	19.7	-2.5	18.4	-2.1	86.9	0.1	85.9	0.3
		１時間以上		38.2	3.9	36.6	2.3	37.5	3.3	67.9	-1.7	66.2	-1.7
		２時間以上		20.8	-4.8	23.8	-1.8	24.1	-1.8	31.0	-4.4	28.9	-5.3
		３時間以上		5.2	-4.7	6.8	-3.1	7.5	-3.0	7.2	-2.9	6.4	-3.0

《改善へのヒント》

○　家庭学習の時間が長ければ良いというものではなく，重要なのは習慣化しているかどうかと家庭学習の内容，質である。家庭学習の方法を見直したり学習の質の向上を目指したりする取組が大切である。

○　「宿題」を課す場合には，予習や復習の内容が授業で活用できたり，学習内容の定着につながるよう各教科のバランスを考えたりしながら取り組ませる工夫が大切である。

○　「自主学習ノート」の提出によって家庭学習の習慣を形成し効果を上げている学校もある。その場合，点検の効率化等について教員間で共通理解を図り，教員の側の負担感を減らす工夫も必要である。

Ⅳ　学校質問紙調査結果の概要（抜粋）

※児童生徒質問紙と同様に，宮城の小中学校の課題と思われる事項を抜粋しました。

１　学校運営に関する取組状況

学校運営に関する質問全般では，小・中学校ともに全国値を上回る項目が多い。しかし，全国学力・学習状況調査の結果をどのように生かしているかという点については課題がある。昨年度と比較しても改善が見られない点である。特に中学校においては，教育課程編成についての工夫は進んでいるものの，全国学力・学習状況調査の結果を授業改善に生かし切れていない状況が読み取れる。

◇「教育課程表について，各教科等の教育目標や内容の相互理解が分かるように作成している」

中学校［+ 5.2］

◆「全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し，具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている」

小学校［- 3.6］中学校［- 7.8］

番号	質問事項		Ｈ３１				Ｈ３０		Ｈ２９		Ｈ２８	
			仙台市を除く	県-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全
1	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について，各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	小16	96.0	2.3	97.3	3.6	96.6	3.4	87.9	0.4	90.3	4.7
		中16	93.3	5.2	93.9	5.8	90.7	2.0	74.9	-4.4	80.6	2.9
2	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し，具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	小20	91.7	-3.6	94.0	-1.3	91.2	-3.2	94.5	-3.8	95.5	2.3
		中20	85.9	-7.8	90.5	-3.2	86.8	-5.0	92.7	-5.7	94.1	4.1

《改善へのヒント》

○　全国学力・学習状況調査問題は，新学習指導要領の趣旨を踏まえて作成されていることを再認識する必要がある。全国学力・学習状況調査問題を全教員が解くことにより，育成を目指す資質・能力を捉えることができる。例えば，理由や根拠を明確にして説明したり，複数の情報から必要な情報を取り出したりするなど正答の条件を押さえるための発問や指示など，自己の授業を振り返り，授業改善が求められている。

○　全国学力・学習状況調査問題をはじめ，市町村教育委員会や学校独自の学力調査等の結果も併せて分析・活用するために各学校で学力向上に向けたＰＤＣＡサイクルの確立を目指すことが大切である。提言「子供の学びにつながる授業づくりを進めよう！」（ｐ４参照）にある「Ｒｅｓｅａｒｃｈ」の箇所を参考に，全国学力・学習状況調査の実施後，早期に自校採点を行い，課題を把握することが重要である。

２　教職員の資質・能力の向上

教職員の資質・能力の向上に関する質問では，教員個々が意欲的に研修会等に参加している姿が分かる。しかし，校内の研修会の実施状況については，全国値との間に大きなかい離がある。学校で実施する研修会の計画性，またはその内容に課題があると考えられる。毎年指摘されていることではあるが，改善した様子があまりうかがえない。

◇「個々の教員が自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており，校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している」

小学校［+ 4.6］中学校［+ 6.5］

◆「学校でテーマを決め，講師を招聘するなどの校内研修を行っている」

小学校［-11.6］中学校［-16.7］

番号	質問事項		Ｈ３１				Ｈ３０		Ｈ２９		Ｈ２８	
			仙台市を除く	県-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全
3	学校でテーマを決め，講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	小23	83.3	-11.6	85.7	-9.2	79.7	-14.3	79.1	-6.7	79.4	-13.6
		中24	74.7	-16.7	80.4	-11.0	71.2	-17.3	71.4	-14.3	67.0	-19.0
4	個々の教員が自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており，校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	小26	92.8	4.6	93.8	5.6	88.3	1.1	78.9	-7.7	76.8	-6.2
		中27	91.0	6.5	94.0	9.5	86.8	3.9	75.9	-3.4	73.7	-4.1

《改善へのヒント》

○　多忙を極める学校において，時間を取って研修会を行うことが難しい中においても，教職員の資質の向上を目指し，学校の実態に応じた校内研修等を企画し，最新の教育事情などについて話を聞く機会を設けたいものである。年間計画の中に研修会を位置付け実施することが重要である。

○　校内研修等で講師を招聘する場合，「各教育事務所」「総合教育センター」で実施している「指導主事派遣事業」等を積極的に活用する方法がある。その際，目的やねらいを明確にし，どのような研修をしたいのか協議し，さらに研修内容について講師と連絡を取り，決めていくことが大切である。

３　教科の指導方法に関する取組状況

国語科，算数科・数学科，英語科の指導方法に関する質問では，補充的な学習については十分行えているという結果になっている。しかし，発展的な学習の指導に関する質問では全国値とのかい離が大きい状況にある。一方，児童生徒の正答数分布状況を見ると上位層ほど全国値とのかい離が見られる（Ｐ４０～４８参照）。相互に直接的な関連があるのかどうかについて，根拠は明確ではないが，改善していきたい事柄である。

◇「国語の指導として，前年度までに，補充的な学習の指導を行った」と回答した小学校の割合
小学校［+5.8］

◇「算数の指導として，前年度までに，実生活における事象との関連を図った授業を行った」とと回答した小学校の割合
小学校［+4.8］

◇「英語の指導として，前年度までに，自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行った」と回答した中学校の割合
中学校［+6.4］

◇「年間の授業のうち，ＡＬＴ（外国語指導助手）を活用した授業を週数回以上行った」と回答した中学校の割合
中学校［+19.5］

◆「数学の指導として，前年度までに，発展的な学習の指導を行った」と回答した中学校の割合
中学校［-10.9］

◆「英語の指導として，前年度までに，発展的な学習の指導を行った」と回答した中学校の割合
中学校［-10.5］

◆「英語の指導として，前年度までに，原稿などの準備をすることなく，（即興で）に自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行った」と回答した中学校の割合
中学校［-9.9］

◆「英語の指導として，前年度までに，聞いたり読んだりしたことについて，生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行った」と回答した中学校の割合
中学校［-10.9］

番号	質問事項		H31				H30		H29		H28	
			仙台市を除く	県-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全
5	調査対象学年の児童（生徒）に対する国語の指導として，前年度までに，補充的な学習の指導を行いましたか	小39	94.8	5.8	93.5	4.5			77.0	-2.1		
		中40	91.8	2.9	91.4	2.5			81.2	1.1		
6	調査対象学年の児童（生徒）に対する算数（数学）の指導として，前年度までに，発展的な学習の指導を行いましたか	小46	75.7	2.9	70.5	2.3	58.7	-5.8	60.5	-6.4		
		中47	65.6	-10.9	68.4	-8.1	63.4	-3.1	64.5	-6.7		
7	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として，前年度までに，発展的な学習の指導を行いましたか											
		中51	64.9	-10.5	68.9	-6.5						
8	調査対象の学年の生徒に対する英語の指導として，前年度までに，原稿などの準備をすることなく（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか											
		中76	55.2	-9.9	58.8	-6.3						
9	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として，前年度までに，自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を行いましたか											
		中56	94.0	6.4	93.0	5.4						
10	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として，前年度までに，聞いたり読んだりしたことについて，生徒同士で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行いましたか											
		中57	51.5	-10.9	56.8	-5.6						

《改善へのヒント》

○　補充的な学習により学習内容の定着を図ろうとする取組は行われている。一方で，知識の活用を図る学習は，全国と比較すると低い傾向にある。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業への取組等を通じて，発展的な学習にも取り組むことが大切である。

4　小学校教育と中学校教育の連携，全国学力・学習状況調査結果等の活用

小学校教育と中学校教育の連携に関する質問では，小・中学校ともに全国値との間にかい離が見られる。かい離は徐々に解消してきているが，依然大きな課題となっている。

◆「近隣の中学校（小学校）と，教科の教育課程の接続や，教科に関する共通の目標設定など，教育課程に関する共通の取組を行った」　小学校[-10.5] 中学校[- 5.3]

◆「近隣等の中学校（小学校）と授業研究を行うなど，合同して研修を行った」　小学校[- 7.7] 中学校[- 4.6]

番号	質問事項		H31				H30		H29		H28	
			仙台市を除く	県-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全
11	前年度までに，近隣等の中学校（小学校）と，教科の教育課程の接続や，教科に関する共通の目標設定など，教育課程に関する共通の取組を行いましたか	小51	54.5	-10.5	52.7	-12.3	47.7	-15.4	31.4	-19.9	28.5	-18.6
		中65	62.7	-5.3	59.3	-8.7	51.7	-17.5	36.4	-21.8	36.4	-18.5
12	前年度までに，近隣等の中学校（小学校）と授業研究を行うなど，合同して研修を行いましたか	小52	62.9	-7.7	57.9	-12.7	52.5	-17.0	45.4	-6.3	45.1	-17.4
		中66	71.6	-4.6	67.3	-8.9	64.9	-11.6	59.1	-15.7	55.8	-16.7

《改善へのヒント》

○　小中連携については，昨年度の検証改善委員会報告書や本誌のＰ６～７に掲載しているように小中９年間について，授業づくり，学習習慣，教員研修，生徒指導のそれぞれの分野で，小中の教員が互いにそれぞれの校種での取組について確認し，共通する部分，発達段階によって段階的に継承する部分など，協議し協働的に実践していくことが大切である。

Ⅴ 「学力向上に向けた5つの提言」に関わる児童生徒質問紙調査結果と正答率のクロス集計の結果

「学力向上に向けた5つの提言」は，宮城県の喫緊の課題である学力向上を図るために，精神科医，大学教授，市町村教育委員会教育長，PTA代表，小・中学校教員等を委員とした緊急会議を開催し，平成25年10月16日に提言として，全ての教員が実践化に努めていく内容をまとめたものです。

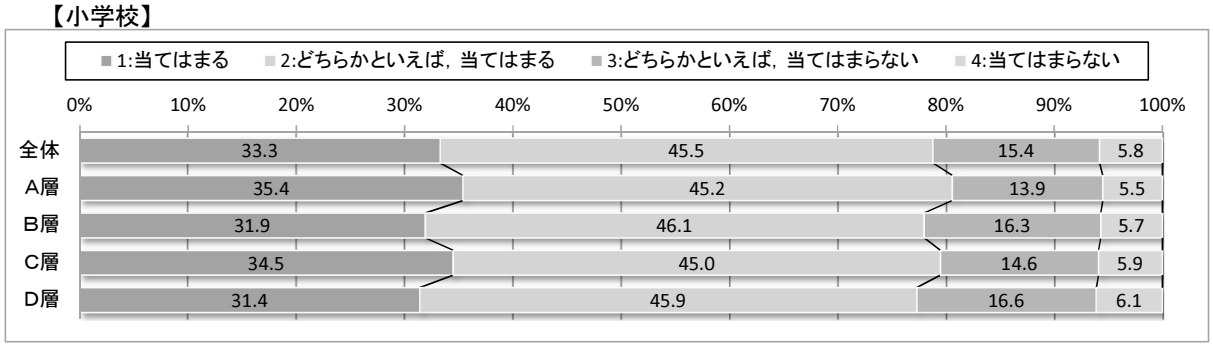
提言1　どの子供にも積極的に声掛けをするとともに，子供の声に耳を傾けること。
提言2　子供をほめること，認めること。
提言3　授業のねらいを明確にするとともに，授業の終末に適用問題や小テスト，授業感想を書く時間を位置付けること。
提言4　自分の考えをノートにしっかり書かせること。
提言5　家庭学習の時間を確保すること。

宮城県の児童・生徒の全国学力・学習状況調査における各教科の正答率の合計を高い順に並べ，上位から人数を25％刻みで4つの層に分け，上から順にA層，B層，C層，D層とした。
それぞれの層ごとに，「学力向上に向けた5つの提言」に関わる設問の回答状況（1：当てはまる　2：どちらかといえば，当てはまる　3：どちらかといえば，当てはまらない　4：当てはまらない）の割合を表した。

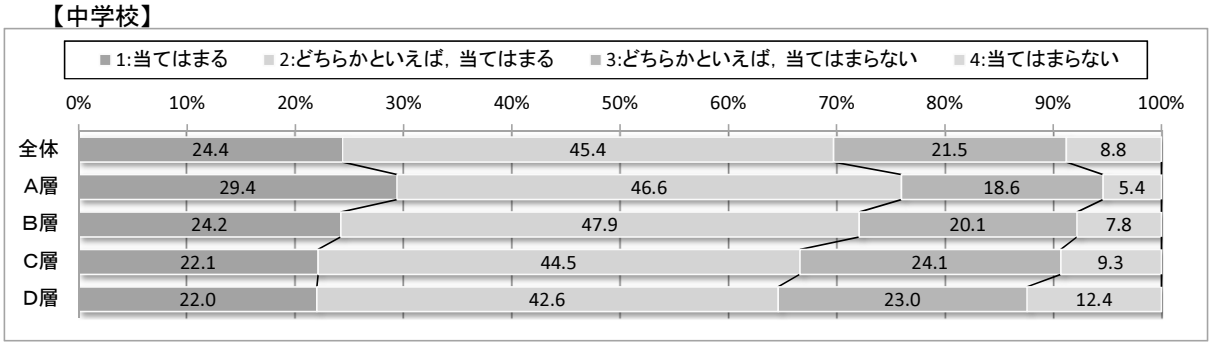
提言1，2　「自分には，よいところがあると思う」

○　小学生では，正答率との相関は確認できない。
○　中学生では，正答率が高い生徒の方が，「当てはまる」と回答している割合が高い傾向が見られる。

【小学校】



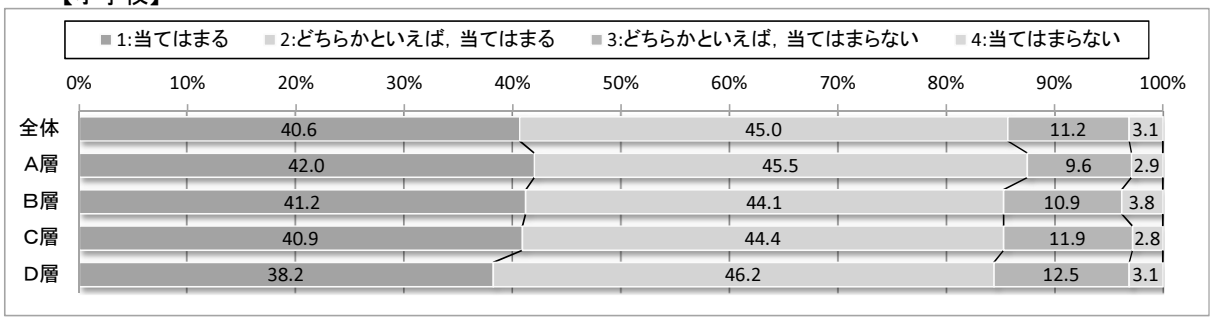
【中学校】



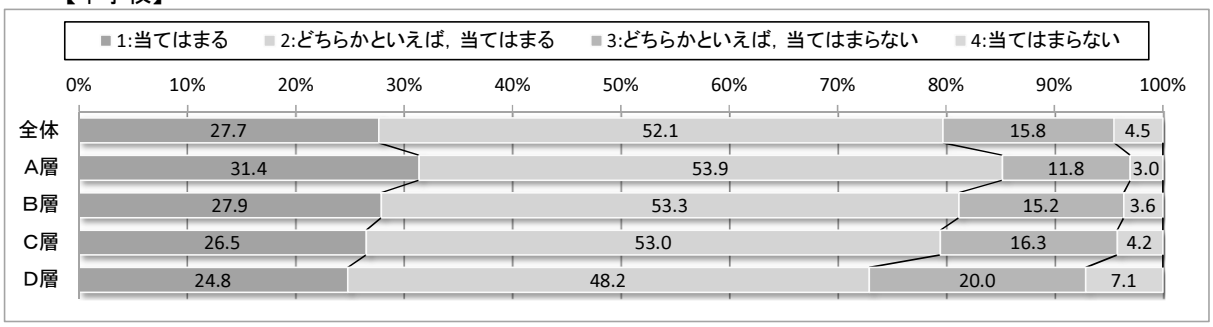
提言１，２　「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思う」

○　小学生では，正答率が高い児童の方が，「当てはまる」と回答している割合がやや高い傾向が見られる。
○　中学生では，正答率が高い生徒の方が，「当てはまる」と回答している割合が高い傾向が見られる。

【小学校】



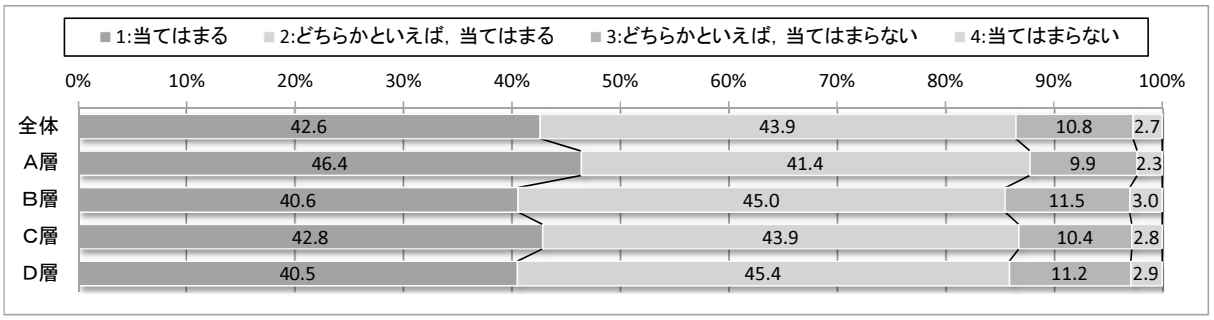
【中学校】



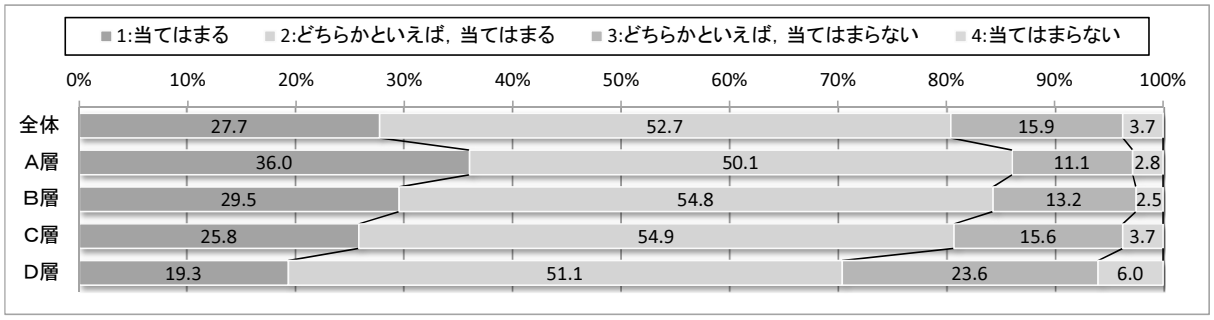
提言３　「国語の授業の内容はよく分かる」

○　小学生では，正答率が高い児童の方が，「当てはまる」と回答している割合がやや高い傾向が見られる。
○　中学生では，正答率が高い生徒の方が，「当てはまる」と回答している割合が高い傾向が見られる。

【小学校】



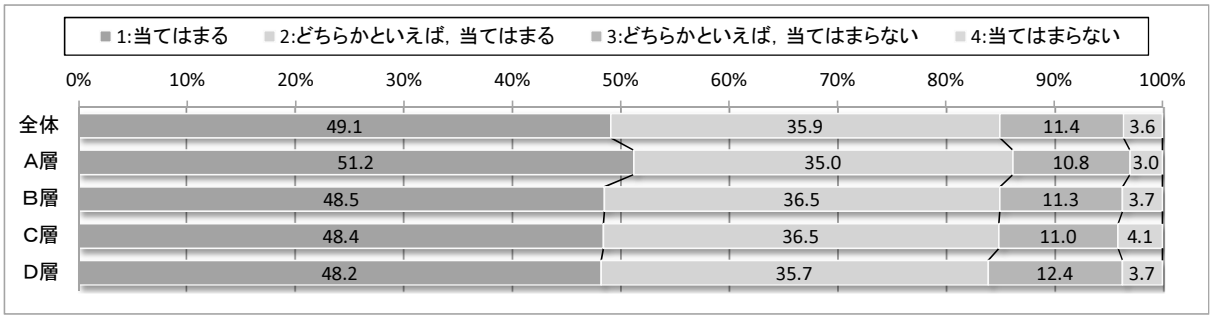
【中学校】



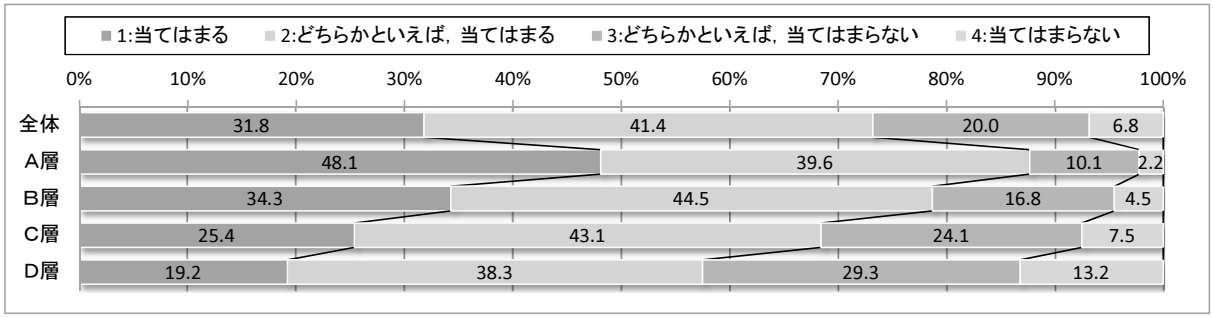
提言３　「算数（数学）の授業の内容はよく分かる」

○　小学生では，正答率が高い児童の方が，「当てはまる」と回答している割合がやや高い傾向が見られる。
○　中学生では，正答率が高い生徒の方が，「当てはまる」と回答している割合が非常に高い傾向が見られる。

【小学校】



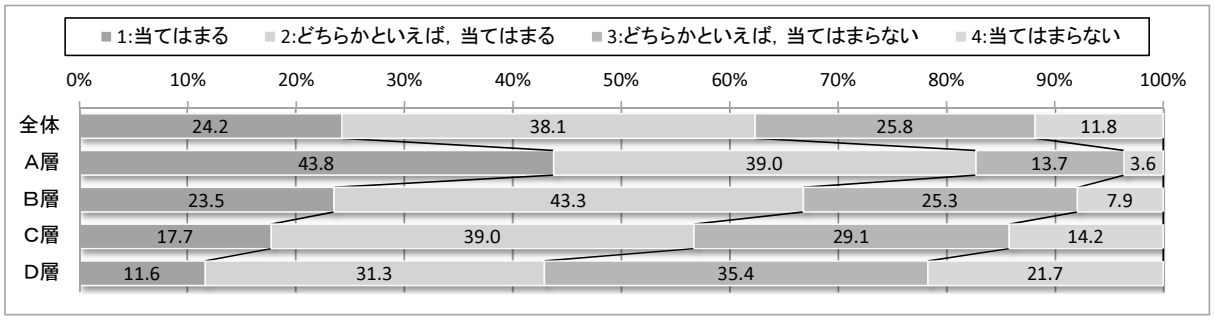
【中学校】



提言３　「英語の授業はよく分かる」

○　中学生では，正答率が高い生徒の方が，「当てはまる」と回答している割合が非常に高い傾向が見られる。

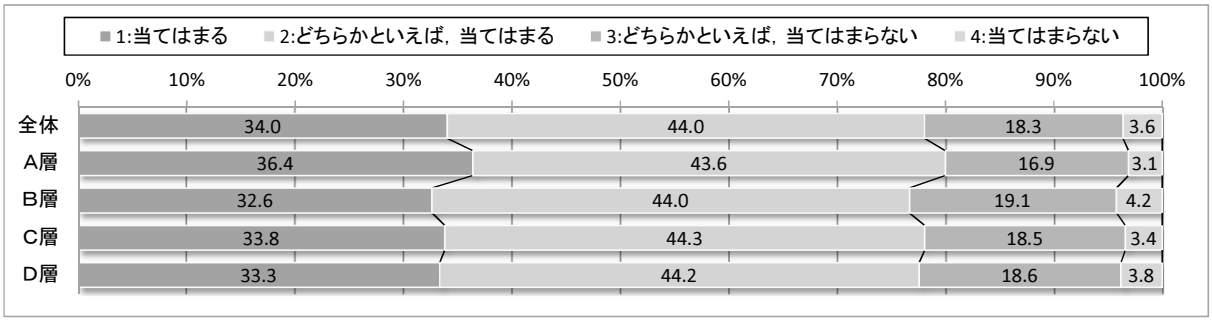
【中学校】



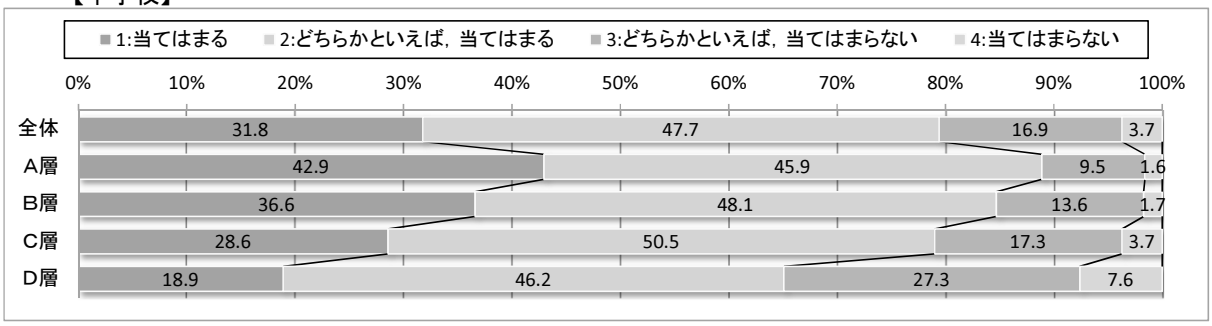
提言４　「国語の授業では，目的に応じて，自分の考えを話したり書いたりしている」

○　小学生では，正答率が高い児童の方が，「当てはまる」と回答している割合がやや高い傾向が見られる。
○　中学生では，正答率が高い生徒の方が，「当てはまる」と回答している割合が非常に高い傾向が見られる。

【小学校】



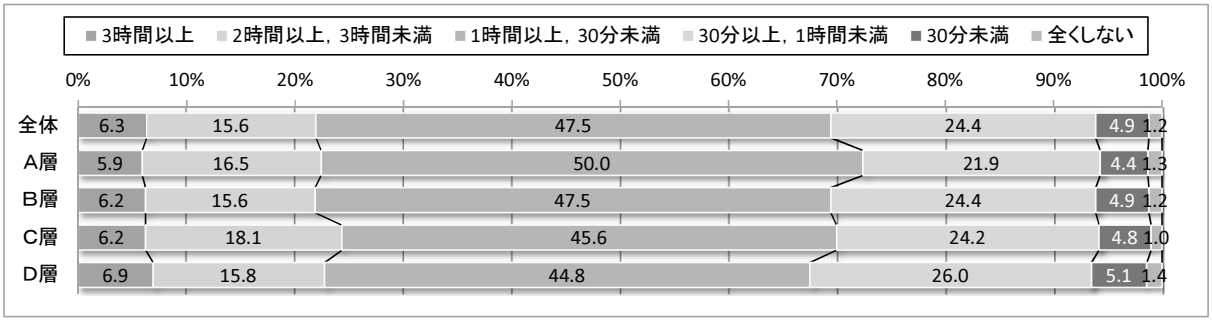
【中学校】



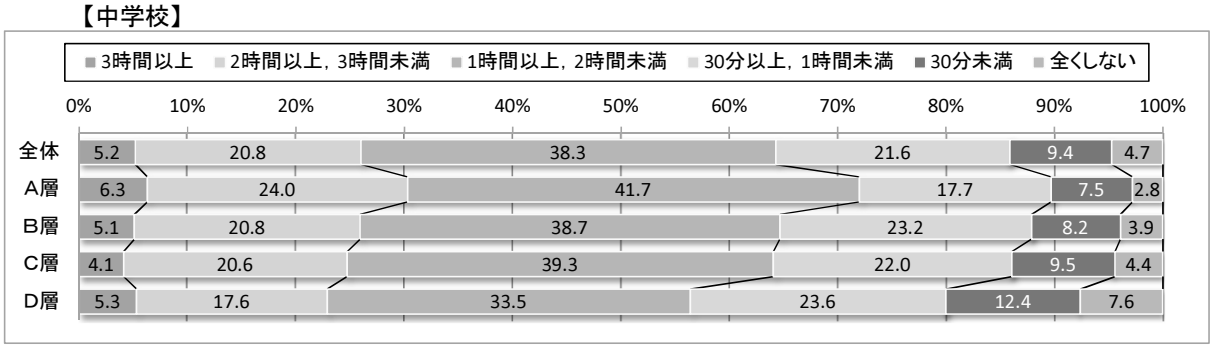
提言５　「学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含みます。）

○　小学生では，授業時間以外の勉強時間と正答率の相関は確認できない。
○　中学生では，正答率が高い生徒の方が，授業時間以外の勉強時間が長い傾向が見られる。

【小学校】



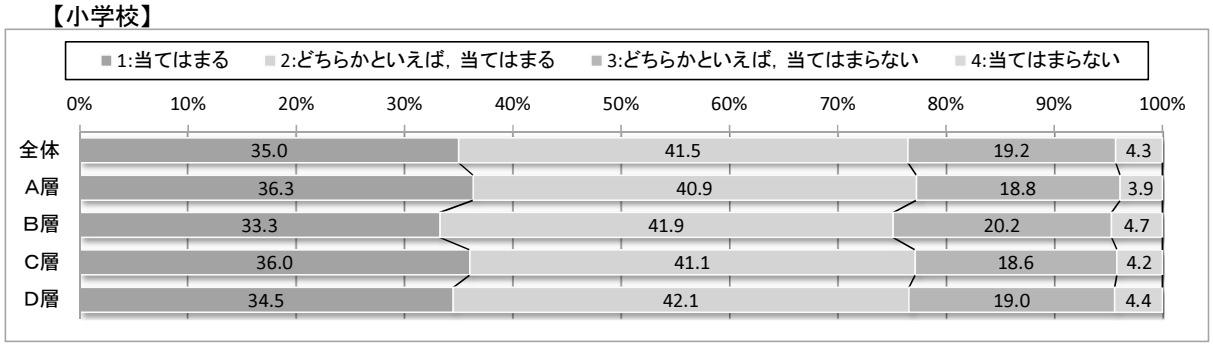
【中学校】



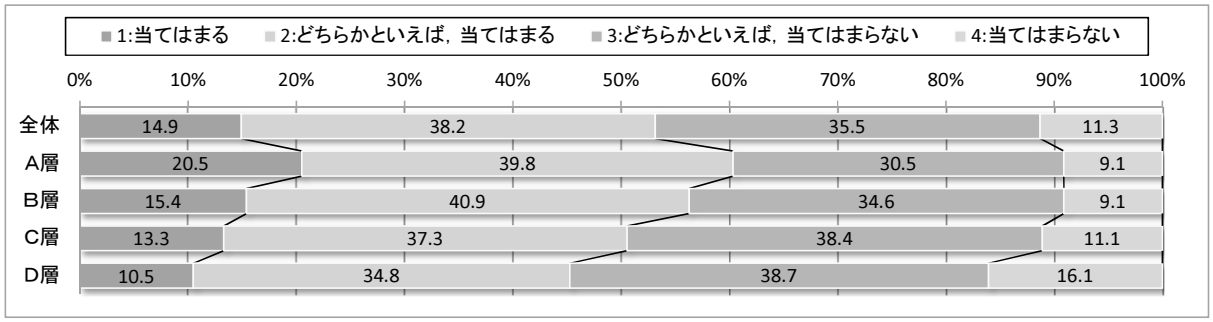
提言５　「家で，自分で計画を立てて勉強している」

○　小学生では，正答率との相関は確認できない。
○　中学生では，正答率が高い生徒の方が，「当てはまる」と回答している割合が高い傾向が見られる。

【小学校】



【中学校】



Ⅵ 児童生徒質問紙調査，学校質問紙調査 集計結果

全国学力・学習状況調査（H31）

1 児童生徒質問紙調査 集計結果

・以下の集計値は，児童生徒質問紙の調査結果を集計した値である。

児童質問紙調査（小学校）		宮城県（仙台市を除く）		宮城県（仙台市を含む）
質問番号	平成３１年度 質問事項	県	県-全	
（１）	朝食を毎日食べていますか	95.9	0.6	96.5
（２）	毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか	82.4	1.0	84.1
（３）	毎日，同じくらいの時刻に起きていますか	91.7	0.1	91.9
（４）	家の人（兄弟姉妹は含みません。）と学校での出来事について話をしますか	78.3	0.9	79.7
（５）	自分には，よいところがあると思いますか	78.8	-2.4	80.1
（６）	先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	85.6	-0.5	85.8
（７）	先生は，授業やテストで間違えたところや，理解していないところについて，分かるまで教えてくれていると思いますか	92.6	0.9	90.4
（８）	将来の夢や目標を持っていますか	86.0	2.2	84.4
（９）	ものごとを最後までやり遂げて，うれしかったことがありますか	95.1	-0.1	94.8
（１０）	難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦していますか	79.5	0.5	79.1
（１１）	学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み，うれしかったことがありますか	85.2	1.1	84.1
（１２）	学校に行くのは楽しいと思いますか	87.4	1.6	87.3
（１３）	学校のきまりを守っていますか	93.1	0.8	92.5
（１４）	人が困っているときは，進んで助けていますか	87.6	-0.3	87.3
（１５）	いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.2	0.1	97.3
（１６）	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.3	0.1	94.6
（１７）	家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか	76.7	5.2	75.6
（１８）	学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む） 3時間以上	6.3	-6.1	7.6
	2時間以上	16.5	-0.4	16.6
	1時間以上	47.1	10.3	43.7
	30分以上	24.1	0.0	24.8
	30分より少ない	4.8	-2.8	5.7
	全くしない	1.2	-1.1	1.6
（１９）	学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，読書をしますか（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く）（1時間以上）	17.3	-1.0	17.8
（２０）	昼休みや放課後，学校が休みの日に，本（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く）を読んだり，借りたりするために，学校図書館・学校著書室や地域の図書館にどれくらい行きますか（週に1～4回）	18.3	1.1	18.8
（２１）	読書は好きですか	74.3	-0.7	75.4
（２２）	新聞を読んでいますか（週に1～3回，毎日）	17.1	-1.9	17.9
（２３）	今住んでいる地域の行事に参加していますか	75.0	7.0	75.9
（２４）	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	55.4	0.9	57.4
（２５）	外国の人と友達になったり，外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	66.2	-2.4	68.0

生徒質問紙調査（中学校）		宮城県（仙台市を除く）		宮城県（仙台市を含む）
質問番号	平成３１年度 質問事項	県	県-全	
（１）	朝食を毎日食べていますか	93.5	0.4	94.4
（２）	毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか	79.4	1.4	81.7
（３）	毎日，同じくらいの時刻に起きていますか	93.6	0.8	93.9
（４）	家の人（兄弟姉妹は含みません。）と学校での出来事について話をしますか	77.0	0.6	78.9
（５）	自分には，よいところがあると思いますか	69.8	-4.3	74.0
（６）	先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	79.7	-1.8	82.3
（７）	先生は，授業やテストで間違えたところや，理解していないところについて，分かるまで教えてくれていると思いますか	83.7	-0.9	83.7
（８）	将来の夢や目標を持っていますか	70.7	0.2	71.1
（９）	ものごとを最後までやり遂げて，うれしかったことがありますか	93.0	-0.9	93.6
（１０）	難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦していますか	69.3	-1.0	70.8
（１１）	学級みんなで話し合ったことなどに協力して取り組み，うれしかったことがありますか	82.6	-0.2	83.2
（１２）	学校に行くのは楽しいと思いますか	78.8	-3.1	80.5
（１３）	学校の規則を守っていますか	95.6	-0.6	96.2
（１４）	人が困っているときは，進んで助けていますか	84.4	-1.5	85.8
（１５）	いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか	95.0	-0.1	95.1
（１６）	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	93.8	-0.5	93.8
（１７）	家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか	53.1	2.7	55.7
（１８）	学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む） 3時間以上	5.2	-4.7	6.8
	2時間以上	20.8	-4.8	23.8
	1時間以上	38.2	3.9	36.6
	30分以上	21.6	4.4	19.7
	30分より少ない	9.4	1.0	8.5
	全くしない	4.7	0.3	4.5
（１９）	学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，読書をしますか（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く）（1時間以上）	13.6	1.2	13.0
（２０）	昼休みや放課後，学校が休みの日に，本（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く）を読んだり，借りたりするために，学校図書館・学校著書室や地域の図書館にどれくらい行きますか（週に1～4回）	7.6	-0.7	8.1
（２１）	読書は好きですか	69.3	1.3	69.9
（２２）	新聞を読んでいますか（週に1～3回，毎日）	11.6	-1.1	12.7
（２３）	今住んでいる地域の行事に参加していますか	53.1	2.5	54.0
（２４）	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	40.9	1.5	43.1
（２５）	外国の人と友達になったり，外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	57.6	-4.8	60.8

児童質問紙調査（小学校）		宮城県（仙台市を除く）		宮城県（仙台市を含む）
質問番号	平成３１年度　質問事項	県	県−全	
（２６）	日本やあなたが住んでいる地域のことについて，外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	77.0	0.9	76.9
（２７）	5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか（週1回以上，毎日）	32.9	2.3	28.6
（２８）	授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか	87.0	0.5	88.0
（２９）	学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか	73.2	−0.9	74.4
（３０）	授業で学んだことを，ほかの学習に生かしていますか	84.2	1.4	84.1
（３１）	総合的な学習の時間では，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか	70.0	4.3	72.3
（３２）	あなたの学級では，学級生活をよりよくするために学級会で話し合い，互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか	73.3	−0.7	75.3
（３３）	学級活動における学級での話合いを生かして今，自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか	74.1	0.7	74.7
（３４）	道徳の授業では，自分の考えを深めたり，学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか	80.8	−0.1	81.9
（３５）	5年生までに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたと思いますか	79.1	1.4	79.0
（３６）	5年生までに受けた授業で，自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか	64.1	1.6	65.4
（３７）	国語の勉強は好きですか	67.1	2.9	64.4
（３８）	国語の勉強は大切だと思いますか	93.0	0.0	92.9
（３９）	国語の授業の内容はよく分かりますか	86.5	1.6	85.2
（４０）	国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか	91.8	0.6	91.3
（４１）	国語の授業で学習したことを，普段の生活の中で，話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	79.1	2.2	79.4
（４２）	国語の授業では,目的に応じて,自分の考えを話したり書いたりしていますか	78.1	0.0	78.6
（４３）	国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき,うまく伝わるように理由を示したりするなど,話や文章の組立てを工夫していますか	68.4	−0.1	69.9
（４４）	国語の授業で文章や資料を読むとき,目的に応じて,必要な語や文を見つけたり,文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか	71.9	0.5	72.6
（４５）	今回の国語の問題では，解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてい，どのように解答しましたか　最後まで努力した	78.3	−2.1	78.4
	諦めたものがあった	19.8	2.4	19.4
	解答しなかった	1.6	−0.1	1.8

生徒質問紙調査（中学校）			宮城県（仙台市を除く）		宮城県（仙台市を含む）
質問番号	平成３１年度　質問事項		県	県−全	
（２６）	日本やあなたが住んでいる地域のことについて，外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか		59.7	0.4	61.0
（２７）	学校の部活動に参加していますか	運動部だけ参加	78.8	12.2	76.2
		文化部だけ参加	18.6	−1.6	18.4
		両方参加	0.9	0.0	0.8
		参加していない	2.0	−10.4	4.6
（２８）	普段（月曜日～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，部活動をしますか	3時間以上	7.9	−2.1	6.6
		2時間以上	50.9	7.9	45.9
		1時間以上	36.2	5.2	38.7
		30分以上	1.8	−1.4	2.9
		30分より少ない	0.7	−0.3	0.8
		全くしない	2.5	−9.2	5.1
（２９）	学校の部活動に参加する主な理由は，以下のうちのどれですか	体力・技術の向上	35.4	6.5	33.4
		よい成績を収めたい	20.2	5.1	18.9
		仲間を増やしたい	1.9	−0.9	2.0
		楽しいから	23.2	−3.1	24.7
		時間があるから	3.7	0.8	3.4
		周囲が参加しているから	9.8	1.9	9.2
		参加していない	2.6	−9.7	5.0
（３０）	1，2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか（週1回以上，毎日）		33.3	2.7	32.0
（３１）	授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか		80.7	2.4	80.9
（３２）	生徒の間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか		73.2	0.4	76.0
（３３）	授業で学んだことを，ほかの学習に生かしていますか		76.0	1.1	77.4
（３４）	総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか		65.5	4.0	67.9
（３５）	あなたの学級では，学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い，互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか		74.5	2.9	76.4
（３６）	学級活動における学級での話合いを生かして、今，自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか		68.1	2.5	69.6
（３７）	1，2年生のときに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたと思いますか		76.1	1.3	77.0
（３８）	1，2年生のときに受けた授業で，自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか		55.7	−0.1	59.2
（３９）	1，2年生のときに受けた道徳の授業では，自分の考えを深めたり，学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか		79.3	2.7	77.0
（４０）	国語の勉強は好きですか		65.5	3.8	64.7
（４１）	国語の勉強は大切ですか		91.3	0.3	91.2
（４２）	国語の授業の内容はよく分かりますか		80.3	2.7	80.4
（４３）	国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか		88.6	0.6	88.7
（４４）	国語の授業で学習したことを，普段の生活の中で，話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか		72.6	1.0	74.2
（４５）	国語の授業では,目的に応じて,自分の考えを話したり書いたりしていますか		79.5	2.1	81.8
（４６）	国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき,うまく伝わるように根拠を示したりするなど,話や文章の組立てを工夫していますか		66.8	2.4	69.9
（４７）	国語の授業で文章や資料を読むとき,目的に応じて,必要な語や文を見つけたり,文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか		68.7	0.3	72.0
（４８）	今回の国語の問題では，解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてい，どのように解答しましたか	最後まで努力した	79.2	−0.6	81.3
		諦めたものがあった	18.2	1.0	16.4
		解答しなかった	2.3	−0.4	2.1

児童質問紙調査（小学校）		宮城県（仙台市を除く）		宮城県（仙台市を含む）	生徒質問紙調査（中学校）		宮城県（仙台市を除く）		宮城県（仙台市を含む）
質問番号	平成３１年度　質問事項	県	県−全		質問番号	平成３１年度　質問事項	県	県−全	
（４６）	算数の勉強は好きですか	69.7	1.1	68.4	（４９）	数学の勉強は好きですか	55.6	−2.3	56.3
（４７）	算数の勉強は大切だと思いますか	94.2	0.5	93.6	（５０）	数学の勉強は大切だと思いますか	83.8	−0.4	83.7
（４８）	算数の授業の内容はよく分かりますか	85.0	1.5	83.5	（５１）	数学の授業の内容はよく分かりますか	73.0	−0.9	72.6
（４９）	算数の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか	92.9	0.4	92.4	（５２）	数学の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか	75.5	−0.7	74.7
（５０）	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	78.3	1.8	77.5					
（５１）	算数の授業で新しい問題に出合ったとき,それを解いてみたいと思いますか	79.2	0.1	79.3					
（５２）	算数の問題の解き方が分からないときは，諦めずにいろいろな方法を考えますか	82.5	0.5	82.0					
（５３）	算数の授業で問題を解くとき，もっと簡単に解く方法がないか考えますか	82.6	0.5	83.1					
（５４）	算数の授業で公式やきまりを習うとき，そのわけを理解するようにしていますか	84.0	0.0	84.7					
（５５）	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	86.4	−0.6	87.1					
（５６）	今回の算数の問題では，言葉や数，式を　最後まで努力した	78.9	−1.8	79.0	（５３）	今回の算数の問題では，言葉や数，式を　最後まで努力した	56.5	−4.3	59.8
	使ってわけや求め方などを書く問題があ 諦めたものがあった	19.3	1.7	19.2		使ってわけや求め方などを書く問題があ 諦めたものがあった	39.3	4.6	36.4
	りましが，どのように解答しましたか　解答しない	1.4	0.1	1.4		りましが，どのように解答しましたか　解答しない	3.8	−0.4	3.6
					（５４）	英語の勉強は好きですか	52.4	−3.6	54.5
					（５５）	英語の勉強は大切だと思いますか	81.0	−4.4	82.7
					（５６）	英語の授業はよく分かりますか	62.3	−3.7	64.5
					（５７）	英語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか	81.0	−4.4	82.5
					（５８）	あなたはこれまで,学校の授業やそのための学習以外で,日常的に英語を使う機会（地域の人や海外にいる人と英語で話す，英語で手紙や電子メールを書く,英語のテレビやホームページを見る,英会話教室に通うなど）が十分にありましたか	30.5	−3.3	31.8
					（５９）	あなたは将来,積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	37.8	−3.5	39.2
					（６０）	1，2年生のときに受けた授業で，英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える活動が行われていたと思いますか	80.2	1.0	81.9
					（６１）	1，2年生のときに受けた授業で，英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える活動が行われていたと思いますか	81.7	0.5	83.8
					（６２）	1，2年生のときに受けた授業で，原稿などの準備をすることなく,（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	60.8	−2.1	63.6
					（６３）	1，2年生のときに受けた授業で，スピーチやプレゼンテーションなど,まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	77.7	0.5	77.7
					（６４）	1，2年生のときに受けた授業で，自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか	80.5	0.4	83.2
					（６５）	1，2年生のときに受けた授業で，聞いたり読んだりしたことについて,生徒同士で英語で問答したり意見を述べあったりする活動が行われていたと思いますか	78.6	1.2	80.8
					（６６）	1，2年生のときに受けた授業で，聞いたり読んだりしたことについて,その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか	76.4	1.8	78.4
（５７）	解答時間は十分でしたか（国語45分）	72.8	−1.4	76.4	（６７）	解答時間は十分でしたか（国語50分）	88.9	−1.4	89.5
（５８）	解答時間は十分でしたか（数学45分）	83.4	−0.6	85.8	（６８）	解答時間は十分でしたか（数学50分）	82.1	−2.6	83.7
					（６９）	解答時間は十分でしたか（英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）（45分）	59.0	−4.0	57.9

全国学力・学習状況調査（H31）

２　学校質問紙調査　集計結果

・以下の集計値は，学校質問紙の調査結果を集計した値である。

小学校		宮城県（仙台市を除く）		宮城県（仙台市を含む）
質問番号	平成３１年度　質問事項	県	県−全	
（８）	調査対象学年の児童は，熱意をもって勉強していると思いますか	94.0	2.9	93.8
（９）	調査対象学年の児童は，授業中の私語が少なく，落ち着いていると思いますか	90.0	2.3	88.7
（１０）	調査対象学年の児童は，礼儀正しいと思いますか	90.5	2.7	90.0
（１１）	調査対象学年の児童に対して，前年度までに，将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	92.4	9.2	89.2
（１２）	調査対象学年の児童に対して，前年度までに，学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	97.6	1.0	98.1
（１３）	調査対象学年の児童に対して，前年度までに，学習規律（私語をしない，話をしている人の方を向いて聞く，聞き手に向かって話をする，授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか	98.0	1.1	98.1
（１４）	調査対象学年の児童に対して，前年度までに，学校生活の中で，児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか	99.6	0.8	99.7
（１５）	指導計画の作成に当たっては，各教科等の教育内容を相互の関係で捉え，学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で，その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	99.2	4.1	98.4
（１６）	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について，各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	96.0	2.3	97.3
（１７）	児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	99.2	3.8	98.4
（１８）	指導計画の作成に当たっては，教育内容と，教育活動に必要な人的・物的資源等を，地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	99.6	3.2	99.8
（１９）	言語活動について，国語科だけではなく，各教科，道徳，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動を通じて，学校全体として取り組んでいますか	98.8	1.6	98.4
（２０）	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し，具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	91.7	−3.6	94.0
（２１）	学校として業務改善に取り組んでいますか	99.6	1.1	99.4
（２２）	校長のリーダーシップのもと，研修リーダー等を校内に設け，校内研修の実施計画を整備するなど，組織的，継続的な研修を行っていますか	99.2	−0.1	99.4
（２３）	学校でテーマを決め，講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	83.3	−11.6	85.7
（２４）	授業研究や事例研究など，実践的な研修を行っていますか	99.6	0.3	99.5
（２５）	教員が，他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	99.6	2.6	99.5
（２６）	個々の教員が，自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており，校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	92.8	4.6	93.8
（２７）	教職員は，校内外の研修や研究会に参加し，その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	98.1	3.7	97.3
（２８）	学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては，教職員同士が協力し合っていますか	98.4	1.3	98.3
（２９）	学校全体の言語活動の実施状況や課題について，全教職員の間で話し合ったり，検討したりしていますか	91.6	−0.5	90.5
（３０）	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し，学校として組織的に取り組んでいますか	98.8	0.5	98.9
（３１）	校長は，校内の授業をどの程度見て回っていますか　ほぼ毎日	74.5	2.7	75.9
	週に2～3日程度	19.9	−3.6	18.6
	月に数日程度	5.6	1.1	5.4
	ほとんど行っていない	0.0	−0.1	0.0

中学校		宮城県（仙台市を除く）		宮城県（仙台市を含む）
質問番号	平成３１年度　質問事項	県	県−全	
（８）	調査対象学年の生徒は，熱意をもって勉強していると思いますか	89.6	0.3	89.5
（９）	調査対象学年の生徒は，授業中の私語が少なく，落ち着いていると思いますか	91.0	−3.1	92.4
（１０）	調査対象学年の生徒は，礼儀正しいと思いますか	94.0	0.5	93.0
（１１）	調査対象学年の生徒に対して，前年度までに，将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	99.2	0.6	99.0
（１２）	調査対象学年の生徒に対して，前年度までに，学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	94.0	−1.2	93.5
（１３）	調査対象学年の生徒に対して，前年度までに，学習規律（私語をしない，話をしている人の方を向いて聞く，聞き手に向かって話をする，授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか	99.3	1.2	99.0
（１４）	調査対象学年の生徒に対して，前年度までに，学校生活の中で，生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか	98.5	−0.1	98.0
（１５）	指導計画の作成に当たっては，各教科等の教育内容を相互の関係で捉え，学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で，その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	95.5	4.2	96.0
（１６）	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について，各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	93.3	5.2	93.9
（１７）	生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	97.0	3.6	96.0
（１８）	指導計画の作成に当たっては，教育内容と，教育活動に必要な人的・物的資源等を，地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	91.1	4.2	89.9
（１９）	言語活動について，国語科だけではなく，各教科，道徳，総合的な学習の時間及び特別活動を通じて，学校全体として取り組んでいますか	95.6	0.5	97.0
（２０）	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し，具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	85.9	−7.8	90.5
（２１）	学校として業務改善に取り組んでいますか	95.5	−2.3	97.0
（２２）	部活動のあり方について，保護者や地域と連携して見直しを進めていますか	92.5	1.0	94.9
（２３）	校長のリーダーシップのもと，研修リーダー等を校内に設け，校内研修の実施計画を整備するなど，組織的，継続的な研修を行っていますか	98.5	−0.1	98.5
（２４）	学校でテーマを決め，講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	74.7	−16.7	80.4
（２５）	授業研究や事例研究など，実践的な研修を行っていますか	100.0	3.6	100.0
（２６）	教員が，他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	99.3	4.4	99.0
（２７）	教員は，校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	91.0	6.5	94.0
（２８）	教職員は，校内外の研修や研究会に参加し，その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	94.1	4.2	95.0
（２９）	学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては，教職員同士が協力し合っていますか	97.0	1.3	97.5
（３０）	学校全体の言語活動の実施状況や課題について，全教職員の間で話し合ったり，検討したりしていますか	83.6	−0.8	86.4
（３１）	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し，学校として組織的に取り組んでいますか	98.5	1.6	98.0
（３２）	校長は，校内の授業をどの程度見て回っていますか　ほぼ毎日	46.3	−2.5	49.2
	週に2～3日程度	44.0	7.9	40.7
	月に数日程度	9.7	−4.9	10.1
	月に数日程	0.0	−0.5	0.0

小　学　校		宮城県（仙台市を除く）		宮城県（仙台市を含む）	中　学　校		宮城県（仙台市を除く）		宮城県（仙台市を含む）
質問番号	平成３１年度　質問事項	県	県-全		質問番号	平成３１年度　質問事項	県	県-全	
（３２）	調査対象学年の児童は，授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組むことができていると思いますか	87.6	2.1	86.0	（３３）	調査対象学年の生徒は，授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組むことができていると思いますか	83.6	1.0	83.5
（３３）	調査対象学年の児童に対して，総合的な学習の時間で，課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	95.2	5.9	95.6	（３４）	調査対象学年の生徒に対して，総合的な学習の時間で，課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	92.5	3.4	93.0
（３４）	調査対象学年の児童に対して，学級生活をよりよくするために，学級会で話し合い，互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っていますか	97.7	3.2	97.0	（３５）	調査対象学年の生徒に対して，学級生活をよりよくするために，学級活動で話し合い，互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っていますか	94.8	1.6	94.0
（３５）	調査対象学年の児童に対して，学級活動の授業を通して，今，努力すべきことを学級での話合いを生かして，一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか	96.4	3.3	95.9	（３６）	調査対象学年の生徒に対して，学級活動の授業を通して，今努力すべきことを学級での話合いを生かして，一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行っていますか	92.6	1.2	91.4
（３６）	調査対象学年の児童に対して，特別の教科 道徳において，児童自らが自分自身の問題として捉え，考え，話し合うような指導の工夫をしていますか	98.4	1.7	97.9					
（３７）	調査対象学年の児童に対して，前年度までに，習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	92.0	2.7	90.8	（３７）	調査対象学年の生徒に対して，前年度までに，習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	87.3	-0.7	88.0
（３８）	調査対象学年の児童に対して，前年度までに，各教科等で身に付けたことを，様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	91.2	6.5	90.3	（３８）	調査対象学年の生徒に対して，前年度までに，各教科等で身に付けたことを，様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	79.1	1.2	78.9
					（３９）	調査対象学年の生徒に対して，前年度までに，道徳の時間において，生徒自らが自分自身の問題として捉え，考え，話し合うような指導の工夫をしましたか	94.0	1.4	93.0
（３９）	調査対象学年の児童に対する国語の指導として，前年度までに，補充的な学習の指導を行いましたか	94.8	5.8	93.5	（４０）	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として，前年度までに，補充的な学習の指導を行いましたか	91.8	2.9	91.4
（４０）	調査対象学年の児童に対する国語の指導として，前年度までに，発展的な学習の指導を行いましたか	62.6	0.2	60.2	（４１）	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として，前年度までに，発展的な学習の指導を行いましたか	70.2	-4.4	70.9
（４１）	調査対象学年の児童に対する国語の指導として，前年度までに，目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	96.8	2.7	95.7	（４２）	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として，前年度までに，目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	85.8	-3.2	87.4
（４２）	調査対象学年の児童に対する国語の指導として，前年度までに，書く習慣を付ける授業を行いましたか	95.2	2.4	93.5	（４３）	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として，前年度までに，書く習慣を付ける授業を行いましたか	97.0	1.7	97.5
（４３）	調査対象学年の児童に対する国語の指導として，前年度までに，様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	90.8	2.6	89.1	（４４）	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として，前年度までに，様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	88.0	-1.9	88.9
（４４）	調査対象学年の児童に対する国語の指導として，前年度までに，漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	97.6	-0.7	98.1	（４５）	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として，前年度までに，漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	98.5	0.2	98.5
（４５）	調査対象学年の児童に対する算数の指導として，前年度までに，補充的な学習の指導を行いましたか	98.8	2.3	97.9	（４６）	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として，前年度までに，補充的な学習の指導を行いましたか	94.0	-0.3	93.0
（４６）	調査対象学年の児童に対する算数の指導として，前年度までに，発展的な学習の指導を行いましたか	75.7	2.9	70.5	（４７）	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として，前年度までに，発展的な学習の指導を行いましたか	65.6	-10.9	68.4
（４７）	調査対象学年の児童に対する算数の指導として，前年度までに，実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	87.2	4.8	83.8	（４８）	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として，前年度までに，実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	78.3	0.2	78.4
（４８）	調査対象学年の児童に対する算数の指導として，前年度までに，計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	98.4	0.7	98.3	（４９）	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として，前年度までに，計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	96.3	-0.3	96.5
					（５０）	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として，前年度までに，補充的な学習の指導を行いましたか	91.8	0.3	90.4
					（５１）	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として，前年度までに，発展的な学習の指導を行いましたか	64.9	-10.5	68.9
					（５２）	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として，前年度までに，英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行いましたか	82.9	-4.3	85.4
					（５３）	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として，前年度までに，英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行いましたか	88.8	-2.1	90.5
					（５４）	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として，前年度までに，原稿などの準備をすることなく，（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか	55.2	-9.9	58.8
					（５５）	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として，前年度までに，英語でスピーチやプレゼンテーションなど，まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか	80.6	-0.2	79.4
					（５６）	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として，前年度までに，自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を行いましたか	94.0	6.4	93.0
					（５７）	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として，前年度までに，聞いたり読んだりしたことについて，生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行いましたか	51.5	-10.9	56.8
					（５８）	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として，前年度までに，聞いたり読んだりしたことについて，その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行いましたか	60.5	-3.0	64.3

小　学　校		宮城県（仙台市を除く）		宮城県（仙台市を含む）	中　学　校		宮城県（仙台市を除く）		宮城県（仙台市を含む）
質問番号	平成３１年度　質問事項	県	県−全		質問番号	平成３１年度　質問事項	県	県−全	
					（５９）	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において，前年度までに，生徒が英語に接する機会を増やし，教室を実際のコミュニケーションの場とする観点から，どの程度，授業を英語で行いましたか	86.6	0.6	85.9
					（６０）	前年度までに，英語教育に関して，お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの連携を小学校とどの程度行いましたか	53.0	4.7	45.3
					（６１）	年間の授業のうち，どのくらいの頻度でALT（外国語指導助手）を活用した授業を行いましたか　ほぼ毎日	10.4	1.9	9.5
						週に数回以上	49.3	19.5	41.2
						週に1回程度	37.3	−5.4	46.2
						月に1回程度	2.2	−12.7	2.5
						年に数回程度	0.7	−1.9	0.5
						ALTが参加した授業はない	0.0	−1.4	0.0
					（６２）	英語担当教師とALT（外国語指導助手）との間で，授業のねらいや活動の意図，各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち，協力して授業を行うことができていると思いますか	94.0	0.6	95.5
（４９）	調査対象学年の児童に対する指導において，前年度に，教員が大型提示装置（プロジェクター，電子黒板など）などのICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか　ほぼ毎日	38.2	1.1	39.5	（６３）	調査対象学年の生徒に対する指導において，前年度に，教員が大型提示装置（プロジェクター，電子黒板など）などのICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか　ほぼ毎日	30.6	−12.7	28.6
	週1回以上	42.2	−1.5	44.6		週1回以上	46.3	8.8	44.7
	月1回以上	14.7	0.1	12.4		月1回以上	15.7	2.8	18.1
	月1回未満	4.8	0.4	3.5		月1回未満	7.5	1.3	8.5
（５０）	学校の教員は，特別支援教育について理解し，前年度までに，調査対象学年の児童に対する授業の中で，児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方，教材の工夫など）を行いましたか	95.3	0.2	95.1	（６４）	学校の教員は，特別支援教育について理解し，前年度までに，調査対象学年の生徒に対する授業の中で，生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方，教材の工夫など）を行いましたか	95.5	2.9	93.5
（５１）	前年度までに，近隣等の中学校と，教科の教育課程の接続や，教科に関する共通の目標設定など，教育課程に関する共通の取組を行いましたか	54.5	−10.5	52.7	（６５）	前年度までに，近隣等の小学校と，教科の教育課程の接続や，教科に関する共通の目標設定など，教育課程に関する共通の取組を行いましたか	62.7	−5.3	59.3
（５２）	前年度までに，近隣等の中学校と，授業研究を行うなど，合同して研修を行いましたか	62.9	−7.7	57.9	（６６）	前年度までに，近隣等の小学校と，授業研究を行うなど，合同して研修を行いましたか	71.6	−4.6	67.3
（５３）	平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について，近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	58.1	−2.5	56.5	（６７）	平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について，近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか	61.2	1.2	60.3
（５４）	職場見学や職場体験活動を行っていますか	100.0	0.1	100.0	（６８）	職場見学や職場体験活動を行っていますか	100.0	0.1	100.0
（５５）	教育課程の趣旨について，家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	93.2	3.6	93.5	（６９）	教育課程の趣旨について，家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	94.8	8.4	94.9
（５６）	保護者や地域の人が学校の美化，登下校の見守り，学習・部活動支援，放課後支援，学校行事の運営などの活動に参加していますか	98.4	0.6	98.4	（７０）	保護者や地域の人が学校の美化，登下校の見守り，学習・部活動支援，放課後支援，学校行事の運営などの活動に参加していますか	91.1	0.7	91.0
（５７）	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして，（56）の質問にあるような保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	81.3	2.1	84.9	（７１）	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして，（70）の質問にあるような，保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	64.2	−3.3	64.3
（５８）	（56）の質問にあるような保護者や地域の人との協働による取組は，学校の教育水準の向上に効果がありましたか	97.6	2.0	97.9	（７２）	（70）の質問にあるような，保護者や地域の人との協働による取組は，学校の教育水準の向上に効果がありましたか	91.1	−0.4	93.5
（５９）	調査対象学年の児童に対して，前年度までに，家庭学習の課題の与え方について，校内の教職員で共通理解を図りましたか（教科共通）	96.5	4.3	96.2	（７３）	調査対象学年の生徒に対して，前年度までに，家庭学習の課題の与え方について，校内の教職員で共通理解を図りましたか（教科共通）	91.0	4.0	88.0
（６０）	調査対象学年の児童に対して，前年度までに，家庭学習の取組として，学校では，児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（教科共通）	97.6	2.1	97.6	（７４）	調査対象学年の生徒に対して，前年度までに，家庭学習の取組として，学校では，生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしていますか（教科共通）	95.5	3.2	96.0
（６１）	調査対象学年の児童に対する国語の指導として，前年度までに，家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	99.2	−0.1	99.4	（７５）	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として，前年度までに，家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	85.1	−4.6	84.9
（６２）	調査対象学年の児童に対する国語の指導として，前年度までに，児童が行った家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について，評価・指導を行いましたか	98.8	2.1	97.6	（７６）	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として，前年度までに，生徒が行った家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について，評価・指導を行いましたか	94.0	1.0	93.4
					（７７）	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として，前年度までに，家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	97.0	2.5	96.5
					（７８）	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として，前年度までに，生徒が行った家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について，評価・指導を行いましたか	98.5	3.8	98.0
（６３）	平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について，調査対象学年・教科だけではなく，学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	97.6	0.3	97.6	（７９）	平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について，調査対象学年・教科だけではなく，学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	97.0	1.3	96.4
（６４）	平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について，保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか（学校のホームページや学校だより等への掲載，保護者会等での説明を含む）	96.0	4.8	97.3	（８０）	平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について，保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか（学校のホームページや学校だより等への掲載，保護者会等での説明を含む）	88.8	1.3	91.9

平成25年10月16日

『学力向上に関する緊急会議』からの提言

宮城県教育委員会

本県の学力の状況については，これまで改善傾向にあったものの，今回の学力調査では一転してほとんどの教科で全国値を下回る結果となりました。

そのため，県教育委員会では，学力向上を図るための緊急会議を平成２５年１０月２日に開催しました。

この緊急会議においては，本県児童生徒の状況や学力等について，精神科医，大学教授，地教委教育長，ＰＴＡ代表，小中学校教員等で話し合い，今の子供たちに対しては，心のケアを行いつつ，分かる授業を行うことが重要であることを確認しました。

子供たちが安心して学校生活を送り，学習意欲や自信を持たせるためには，教師と子供，子供同士の好ましい人間関係を築くとともに，分かる・できる授業づくりを積み上げていくことが必要です。人間関係づくりや授業改善は一朝一夕にはできませんが，その足がかりとして，すぐに着手できることはあります。

各学校のすべての先生方に，明日からすぐに取り組んでいただきたい事項を「学力向上に向けた５つの提言」としてまとめましたので，実践化に努めるようお願いいたします。

学力向上に向けた５つの提言

1　どの子供にも積極的に声掛けをするとともに，子供の声に耳を傾けること。

どの子供にも一日一回は声を掛け，子供の話をじっくり聞くことが，心のケアや人間関係づくりにつながります。

2　子供をほめること，認めること。

子供は，ほめられると集中力が高まります。授業中にほめたり認めたりすることは，学習評価のひとつです。

3　授業のねらいを明確にするとともに，授業の終末に適用問題や小テスト，授業感想を書く時間を位置付けること。

本時のねらいをより具体的に設定し，１単位時間で育てる力を明確にします。授業の終末には，子供の学びを的確に把握し後の指導に生かすようにしましょう。

4　自分の考えをノートにしっかり書かせること。

黒板を書き写すだけでなく，自分の考えをノートに書くように指導します。書くことは，思考力，表現力を育てます。ワークシートではなく，ノートづくりを徹底しましょう。

5　家庭学習の時間を確保すること。

学校で学んだことを家庭で復習することは，知識や技能の定着につながります。予習は，授業での理解を早めます。各学校で作成している「家庭学習の手引き」の中に，家庭学習のメニューを具体的に記載するとともに，適度な量の宿題を課しながら家庭学習を習慣づけましょう。また，保護者には，子供に声を掛けたり子供を認めたりすることが，家庭学習への意欲づけになることを伝えましょう。

学力向上に向けた

5つの提言

理解　継続　自校化

宮城県教育委員会

平成３０年

「学力向上に向けた５つの提言」は，宮城県の喫緊の課題である学力向上を図るために，精神科医，大学教授，市町村教育委員会教育長，ＰＴＡ代表，小・中学校教員等を委員とした緊急会議を開催し，平成２５年１０月１６日に提言として，全ての教員が実践化に努めていく内容をまとめたものです。
これまでの取組，そして今後の取組について，一人一人立ち止まって考えてみましょう。

「学力向上に向けた５つの提言」を子供たちはどのように受け止めているのでしょう？

宮城県児童生徒学習意識等調査の結果を活用して，皆さんの学校の様子と自分自身の取組を振り返ってみましょう。そこから子供たちの「５つの提言」の受け止め方を確認してみましょう。

平成３０年度の児童生徒学習意識等調査の「Ａ：当てはまる，Ｂ：どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の合計の割合（%）と，同調査の学校質問紙調査の「Ａ：当てはまる，Ｂ：どちらかといえば当てはまる」と回答した学校の合計の割合（%）を確認してみましょう。
また，自分の取組についても振り返り，「Ａ：当てはまる，Ｂ：どちらかといえば当てはまる，Ｃ：どちらかと言えば当てはまらない，Ｄ：当てはまらない」の範囲で評価してみましょう。

○提言１　声を掛けてもらえている？　話を聞いてもらえている？

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1　先生から声を掛けられたり，励まされたりしますか。			
2　先生はあなたの話を聞いてくれますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1　児童生徒一人一人に積極的に声を掛け，励ましましたか。			
2　児童生徒一人一人の声に耳を傾け，話をよく聴きましたか。			

○提言２　ほめてもらえている？　認めてもらえている？

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1　先生は，あなたの良いところを認めてくれていると思いますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1　学校生活の中で，児童生徒一人一人の良い点や可能性を見付け，伝えるなど積極的に評価しましたか。			

○提言3　授業のねらいが明確だと感じている？
授業のまとめができていると感じている？

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1　授業のはじめに先生から目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか。			
2　授業のおわりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1　児童生徒に対して，授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか。			
2　児童生徒に対して，授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。			

○提言4　ノートに考えを書いている？

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1　授業で，自分の考えをノートに書くようにしていますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1　児童生徒に対して，ノートのとり方(ワークシートやプリント類を除く）を指導しましたか。			
2　児童生徒に対して，自分の調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか。			

○提言5　家庭学習をしている？

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1　家で，学校の宿題をしていますか。			
2　家で，学校の授業の復習をしていますか。			
3　家で，学校の授業の予習をしていますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1　家庭学習の課題の与え方について，校内の教職員で共通理解を図りましたか。			
2　児童生徒に対して，家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか。			
3　児童生徒の保護者に対して，児童生徒の家庭学習を促す働き掛けをしましたか。			

５つの提言　宮城　**検索**

「５つの提言」の内容の確認　と
様式のダウンロードはこちら！

子供たちと先生方の意識はそろっているでしょうか？

平成２８年度から平成３０年度まで実施した児童生徒学習意識等調査の３年間の結果から，「５つの提言」それぞれについて，子供たちと先生方の意識のかい離について考えてみましょう。

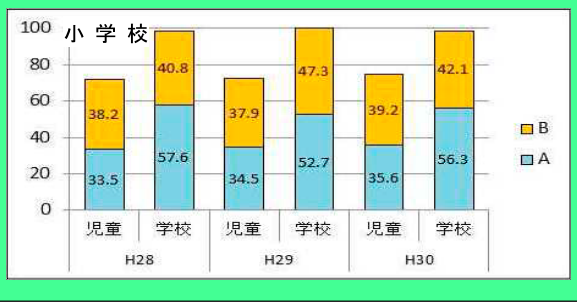
提言 1

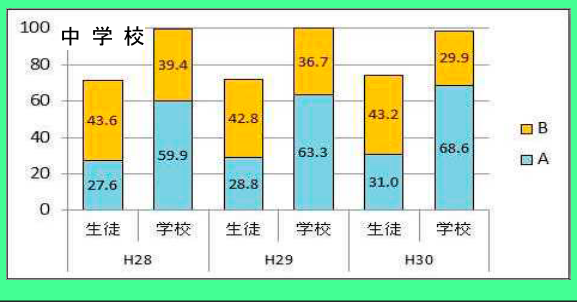
○先生から声を掛けられたり，励まされたりしますか
○児童生徒一人一人に積極的に声を掛け，励ましましたか

※　上段：児童生徒質問紙
※　下段：学校質問紙

	Ｈ２８			Ｈ２９			Ｈ３０		
小学校	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
Ａ＋Ｂ	71.7	98.4	−26.7	72.4	100	−27.6	74.8	98.4	−23.6
中学校	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離
Ａ＋Ｂ	71.2	99.3	−28.1	71.6	100	−28.4	74.2	98.5	−24.3

■：Ａ当てはまる　■：Ｂどちらかと言えば当てはまる

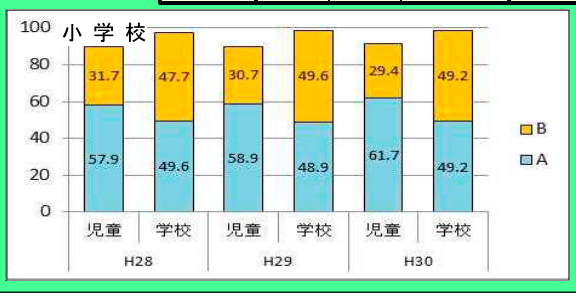


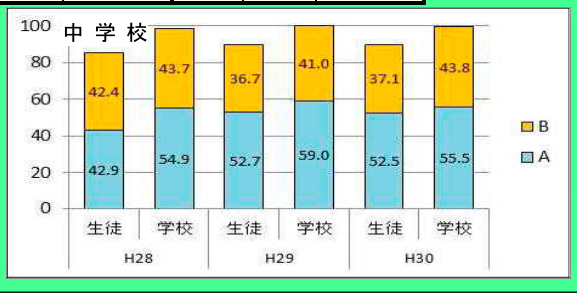


提言 1

○先生はあなたの話を聞いてくれますか
○児童生徒一人一人の声に耳を傾け，話をよく聴きましたか

	Ｈ２８			Ｈ２９			Ｈ３０		
小学校	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
Ａ＋Ｂ	89.6	97.3	−7.7	89.6	98.5	−8.9	91.1	98.4	−7.3
中学校	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離
Ａ＋Ｂ	85.3	98.6	−13.3	89.4	100	−10.6	89.6	99.3	−9.7





提言 2

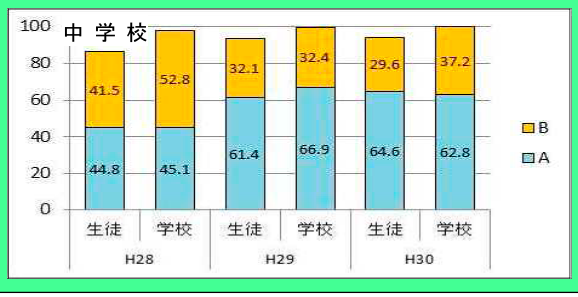
○先生は，あなたの良いところを認めてくれていると思いますか
○学校生活の中で，児童生徒一人一人の良い点や可能性を見付け，伝えるなど積極的に評価しましたか

	Ｈ２８			Ｈ２９			Ｈ３０		
小学校	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
Ａ＋Ｂ	82.8	97.7	−14.9	83.8	98.5	−14.7	85.3	99.2	−13.9
中学校	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離
Ａ＋Ｂ	79.3	95.7	−16.4	81.9	97.1	−15.2	82.4	96.3	−13.9

提 言 3

○授業のはじめに先生から目標(めあて・ねらい)が示されていると思いますか
○授業の冒頭で(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか

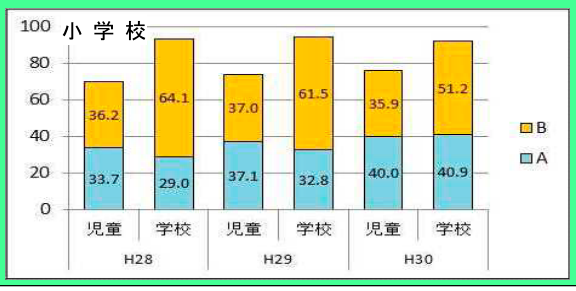
	Ｈ２８			Ｈ２９			Ｈ３０		
小学校	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
Ａ＋Ｂ	84.3	99.6	-15.3	88.5	100	-11.5	89.3	98.5	-9.2
中学校	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離
Ａ＋Ｂ	86.3	97.9	-11.6	93.5	99.3	-5.8	94.2	100	-5.8

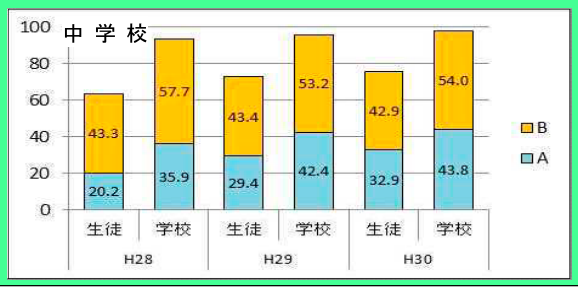


提 言 3

○授業のおわりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか
○授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか

	Ｈ２８			Ｈ２９			Ｈ３０		
小学校	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
Ａ＋Ｂ	69.9	93.1	-23.2	74.1	94.3	-20.2	75.9	92.1	-16.2
中学校	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離
Ａ＋Ｂ	63.5	93.6	-30.1	72.8	95.6	-22.8	75.8	97.8	-22.0

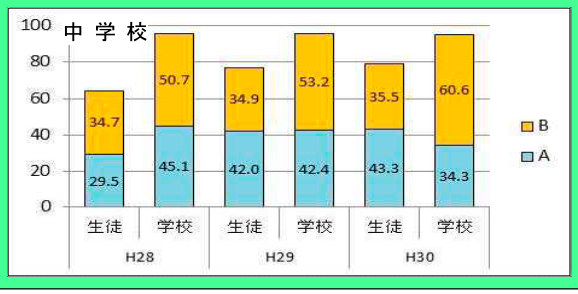




提 言 4

○授業で，自分の考えをノートに書くようにしていますか
○ノートの取り方（ワークシートやプリント類を除く）を指導しましたか

	Ｈ２８			Ｈ２９			Ｈ３０		
小学校	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
Ａ＋Ｂ	78.2	97.7	-19.5	82.6	95.4	-12.8	83.1	96.4	-13.3
中学校	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離
Ａ＋Ｂ	64.2	95.8	-31.6	76.9	95.6	-18.7	78.8	94.9	-16.1



提 言 5

○家で，学校の宿題をしていますか
○家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか

	Ｈ２８			Ｈ２９			Ｈ３０		
小学校	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
Ａ＋Ｂ	92.2	93.5	-1.3	94.9	96.9	-2.0	95.2	96.0	-0.8
中学校	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離
Ａ＋Ｂ	86.9	97.2	-10.3	94.1	97.1	-3.0	94.3	95.6	-1.3

学力向上に向けた 5つの提言 の充実のための「3つの柱」

理　解　　**継　続**　　**自校化**

理　　解

なぜ，「５つの提言」が設定されたのか。その一つ一つの意味をもう一度確認し，先生方で共通理解をした上で，実践することが大切です。

提言の意味を理解した取組は，先生方の考えや思いを児童生徒にしっかり伝えることになり，一層充実した実践へとつながります。

それぞれの提言の 意味を確認しましょう

■提言１　子供たちの心のケアや人間関係づくりのために
■提言２　子供たちの自己肯定感と自己有用感を育み，学習への集中力を高めるために
■提言３　１単位時間で育てる力を明確にするために。子供の学びを的確に把握し，後の指導に生かすために
■提言４　思考力，判断力，表現力等を育てるために
■提言５　知識や技能の定着や授業での理解を早めるために。保護者が子供に声を掛けたり，子供の努力を認めたりすることができるようにするために

次のような 意味も含んでいます

◆提言１，２　先生と子供たち，子供たち同士の信頼関係が学力向上及び生徒指導の基盤であること
◆提言３，４　授業の基礎・基本の一つであり，どの授業でも必ず行われているべきものであること
◆提言５　家庭学習の充実は，授業において提言３，４が実践されていることが前提であること

取　組　事　例

《小・中学校の取組》

○　年度初めの校内研究全体会で，提言の一つ一つについて確認する場を設け，具体的な実践内容とその意味について，共通理解を図っています。

○　子供たちが１年間の振り返りを記入する「自己評価表」に，「５つの提言」に関する項目を設定し，記入させています。その結果を踏まえて，次年度の指導に生かしています。

○　「５つの提言」を学校だよりに掲載したり，学年懇談会で説明したりして，保護者にも内容を理解してもらい，協力して取り組んでいけるように努めています。

継　　続

授業づくり，学級づくりの基盤とも言える「５つの提言」は，当たり前のことだからこそ，地道に，そして着実に継続することが大切です。

学校生活のあらゆる場面で継続しましょう

子供と関わる全ての先生方の目と，耳と，言葉と，全身で「子供に声を掛ける」，「子供の声に耳を傾ける」，「子供をほめる，認める」を学校生活のあらゆる場面を使って継続して実践することが大切です。その際，次の点に留意することが必要です。

- ■　発達の段階を踏まえ，その子供に適した声の掛け方，ほめ方をしましょう。
- ■　先生方で情報交換しながら，その子供のよさを見逃さずにほめ，認めましょう。
- ■　自分の気持ちや考えを声や行動に表すのが苦手な子供がいることを理解しましょう。全ての子供たちに声を掛け，言葉に耳を傾けましょう。

取　組　事　例

○　「九九暗唱チャレンジ」，「週末算数オリンピック」，「マラソンカード」，「縄跳び検定」など，様々な場面で児童の努力や挑戦しようとする意欲を認め，主体的に取り組む態度を育てています。

○　休み時間にも全ての教職員が意識して生徒に声を掛けることに取り組んだことで，生徒にとっても気軽に話せる環境になり，授業でも主体的に取り組む姿が見られるようになってきました。

終結まで確実に終える授業を継続しましょう

１単位時間を計画どおりに終わらせることは，授業の基本です。

- ■　「ねらい」の提示と「振り返り」を毎時間継続して行うことで，子供たちが１単位時間の「ねらい」と「まとめ」を一体として理解できるようにしましょう。
- ■　指導内容のまとまりによって，２単位時間でねらいを達成する授業もあります。指導計画をきちんと立て，１時間目，２時間目それぞれのねらいとまとめを明確にし，子供たちが２時間で最終的なねらいを達成できたと実感できるようにしましょう。
- ■　子供たちが自分で考えたり，まとめたりすることができるように，時間と手間を掛けてノートの使い方を指導する必要があります。全教科で繰り返し指導しましょう。
- ■　「１時間目の授業が延びてしまったため２時間扱いになってしまった・・」とならないように教科部会で指導計画を検討し，作成しましょう。

取　組　事　例

《小学校の取組》

○　単元計画を工夫し，授業の「振り返り」には毎時間必ず適用問題を入れることで定着率がアップしてきました。

○　ノートの使い方を統一して指導したことで，「振り返り」に役立つ見やすいノートを作る児童が増えてきました。

《中学校の取組》

○　教科部会で授業の流れ，自己評価の方法などを検討し，学期ごとにその見直しを行うことで，教科の先生方全員の力が高まってきました。

《小・中学校の取組》

○　校内研究会で全国学力調査の問題を全員で解き，学習指導要領の内容と照らし合わせることで，重点を置いて指導する内容が明確になりました。

○　学習指導要領の内容を教科部会で確認したことで，授業のねらい，留意点，指導内容の系統性を明確にすることができた。

９年間の 継続 を図りましょう

小学校６年間，中学校３年間の９年間において継続し実践することが大切です。

■　小学校１年生から６年生まで，中学校は１年生から３年生まで同じ約束事で実践することと，発達の段階に応じ学年によって変えていくことを学校として明確にしておきましょう。
■　発達の段階に応じた「５つの提言」の実践により，子供たちにとって切れ目のないものになるようにしましょう。
■　小・中の連携を図り，９年間の継続した実践となるようにしましょう。

取　組　事　例

《小・中学校の取組》

○　小・中学校９年間を見通して，中学校区で共通に実践する学習ルールを決め，各教室に掲示するなどした結果，小学校から中学校への学習の移行がスムーズになってきました。
○　小・中学校の授業を互いに見合う機会を設けた結果，指導内容や指導方法など，系統性を意識した指導を大事にするようになってきました。
○　小・中学校９年間の系統を分析し，身に付けさせたい力を示した「単元構想表」を各教科で作成し，実践したことで，既習事項の確認や，活用を図る授業を展開しやすくなりました。

自　校　化

児童生徒の実態，学校の実情は，それぞれの学校で異なります。全ての学校で同じように取り組めることもありますが，自分たちの学校ならではの取組を検討し，自校化を図ることが大切です。

自校のよさと課題を踏まえた自校化を図りましょう。

自分たちの学校のよさと課題を先生方で話し合い，共通理解を図り，共通に実践することが大切です。

■　「信頼関係がまだ十分とはいえない」，「児童生徒が授業に集中できていない」，「家庭学習の習慣が身に付いていない」等のそれぞれの学校の課題に対して，特に重点を置く提言を決めることも大切です。
■　「信頼関係がまだ十分とはいえない・・」と同じ課題を抱えた学校でも，学校の持ち味や強み等の状況により，提言１に重点を置く学校，提言３に重点を置く学校等，違いが出ることもあります。
■　重点を置く提言について，保護者に説明し，理解と協力を得ることも大切です。特に提言５「家庭学習の時間を確保すること」の実践には必要となります。
■　各学校の課題を踏まえて実践したことに対する評価が大事です。ＰＤＣＡサイクルを確立していくことが提言の充実につながります。

取　組　事　例

《小学校の取組》

○　今年度の努力事項として，「脱ワークシート」を掲げ，全教員で実践に努めることで，ノートの活用が一層図られてきました。

《小・中学校の取組》

○　家庭学習や宿題について校内で共通理解を図り，保護者と連携して授業と家庭学習のサイクルの確立に努めたことで，自主的な学習態度が育ってきました。

すぐに役立つ

全ての教室で取り組む学力定着

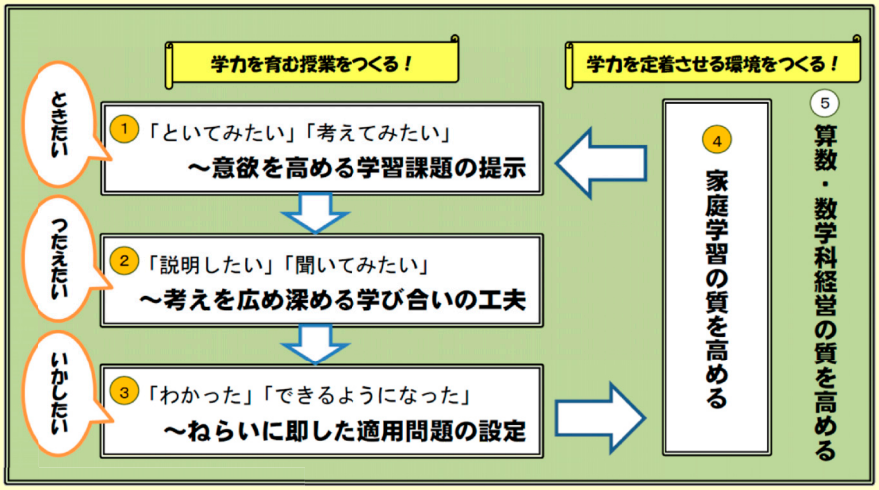
算数・数学 ステップ・アップ5（ファイブ）

事例集

算数・数学の確かな学力を定着させるためには，児童生徒の実態を踏まえ，教員間で共有した具体的な手立てを，全ての教室で着実に実践することが大切です。宮城県学力向上対策協議会では，「学力向上に向けた５つの提言」の趣旨を踏まえ，特に算数・数学に焦点化した学力向上対策「算数・数学ステップ・アップ５」を策定し，実践化・自校化を働き掛けています。この資料は，各学校の実践の参考となるよう，先導的に取り組んでいる学校の事例を取りまとめたものです。

ぜひ，校種や教科にかかわらず，全ての先生方の授業改善に御活用願います。

＜学力向上対策＞



web プラスα

この事例集は「授業改善の入口」です。
ホームページには他の実践例や関連資料もありますので参考にしてください。

詳しくは
宮城県　義務教育課　検索

平成２８年７月

宮　城　県　教　育　委　員　会

教員の授業力向上，児童生徒の学力向上に結び付く参考文献等へのアクセス方法

【宮城県総合教育センターウェブページへのアクセス方法】

宮城県総合教育センターの学力向上や専門研究・長期研修等に係るウェブページにアクセスするには，宮城県総合教育センタートップページのメニューバーより，「学校支援」「専門研究・長期研修」のページを選択してください。

学校支援　先生方の授業づくりや学級づくり，生徒指導をサポートします！

カリキュラム開発支援室（Mナビ） 指導主事が授業づくりをお手伝いします。また，各種教育情報を提供します。	**特別支援教育** 教師のためのサポートブックや，研究事例など，特別支援教育に関する情報を提供しています。	**情報教育** 情報教育に関する様々な情報を提供しています。	**理科教育** **Miyagi Science Web** 理科の授業づくりを提案しています。また，当センターで実施している科学巡回指導訪問の様子もお知らせしています。
学校サポート 市町村教育委員会と連携して行っているサポート事業の詳細について確認することができます。	**検証改善委員会** 宮城県検証改善委員会「報告書」をダウンロードすることができます。	**指導の手引** ◆漢字指導の手引き ◆計算指導の手引き ◆「記述する力」を高める授業支援プラン（算数・数学）	**単元問題ライブラリー** 国語，算数・数学の単元問題ライブラリーがダウンロードできます。
防災教育関係 ◆防災教育　スタートパック ◆防災教育　トレーニングパック ◆防災教育　ハートフルパック		**みやぎの教員に求められる資質能力** 教員研修や校内研修に活用できる育成指標の資料をダウンロードすることができます。 ◆みやぎの教員に求められる資質能力（教員のライフステージと資質能力） ◆みやぎの教員に求められる資質能力	

専門研究・長期研修　専門研究や長期研修の成果を提供しています。

専門研究	本県の今日的課題について，所員と共同で研究しています。 研究ダイジェスト版，研究報告書，補助資料等を掲載しています。
長期研修	授業づくりにかかわる課題を解決したり教材開発を行ったりしています。 長期研修員Ａ（６か月間の研修）と長期研修員Ｂ（年２０回の来所研修）の各教科等の研修での報告書，補助資料を掲載しています。

※宮城県総合教育センターのアドレスは
「http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/」です。

宮城県検証改善委員会について

宮城県検証改善委員会では，「全国学力・学習状況調査」の結果を基に，児童生徒の学力や学習状況について分析し，学力向上に向けた取組の成果と課題を明らかにするとともに，市町村教育委員会や学校における効果的な取組の把握に取り組んできました。この報告書は，そのまとめとして，学校における学校改善，授業改善の資料として作成したものです。今年度は，各学校において検証改善サイクルを確立し，学習指導要領に示された資質・能力を一人一人の児童生徒に確実に育成することを目指し，学校改善及び授業改善のポイントを提案しています。

各学校において，児童生徒の実態を踏まえて，協働による授業づくりを通して課題の解決につながるよう本報告書を積極的に活用されることを願っています。

学校における活用例～こんな活用はどうでしょうか～

※必要なページをコピーして活用できます。
（宮城県総合教育センターＨＰからダウンロードができます。）

【校長先生，教頭先生へ】

○職員会議，校内研修，打合せ等での活用

・自身の豊富な教育経験を例に挙げ，本報告書の内容について教職員へ具体的なアドバイスをするなど

○学校だより等への活用

・本報告書を活用しながら，小中連携や学習指導の取組の成果や課題を保護者や地域に向けて発信するなど

【教務主任，研究主任の先生，研修を担当する先生へ】

○各種会議等での参考資料として活用

・研修会，授業研究会，指導計画作成会議等において，本報告書を参考に協議の観点を設定するなど

○研修だより等への活用

・本報告書に関わる校内外の優れた実践例などを掲載し，校内の教職員で共有するなど

【学級担任の先生，教科担任の先生，指導にかかわる全ての方へ】

○授業づくりへの活用

・学習指導案や教科指導方針の作成や，授業づくりのポイントをつかむ参考資料として活用するなど

・児童生徒の実態把握から，課題の改善に向けた共通の視点を設定するなど

《 令和元年度宮城県検証改善委員会 》

活動報告

回	月　日	主な活動内容
1	７月　１日	・事業計画の確認 ・平成３１年度全国学力・学習状況調査の調査問題の分析 ・授業改善，学力向上に向けた効果的な取組についての情報交換
2	８月　５日	・平成３１年度全国学力・学習状況調査の調査結果の分析，課題等の整理
3	８月３０日	・「報告書」の作成方針，提言内容等の協議
4	１０月　３日	・「報告書」の作成 ・「報告書」の活用のための方策の検討
5	１０月２５日	・「報告書」の内容，表現の吟味 ・学力向上に向けた取組についての情報交換

委員

吉村　敏之　（宮城教育大学教職大学院 教授）
平　　真木夫　（宮城教育大学教職大学院 教授）
川田　　尚　（白石市立白川小学校 校長）
佐藤 亜希子　（大和町立小野小学校 教諭）
大友　明美　（大河原教育事務所 主任主査）
千坂　佳織　（仙台教育事務所 次長）
阿部　朋樹　（北部教育事務所 次長）
福田　美穂　（北部教育事務所 主幹）
髙橋　禎毅　（東部教育事務所 次長）
小野寺 貴子　（気仙沼教育事務所 副参事）
稲辺　正浩　（義務教育課 課長補佐）
牛渡　正哉　（総合教育センター 副所長）
小野寺 周哉　（総合教育センター 副参事）
小野　久行　（総合教育センター 次長）
一條　美奈　（総合教育センター 次長）
軽部　敦子　（総合教育センター 次長）
木村　徹之　（総合教育センター 主幹）
渡邊　勝宏　（総合教育センター 主幹）
佐藤　拓也　（総合教育センター 主幹）
齋藤　弘美　（総合教育センター 主任主査）

宮城県検証改善委員会報告書

子供の学びにつながる授業づくりを進めよう！

発行年月　令和２年１月
編集発行　宮城県総合教育センター
住　　所　名取市美田園２丁目１番４号
電　　話　０２２－７８４－３５４１